

ることが出来る。

へんざい-せい [通在性] あらゆる海上に存在の疑がかけられること。潜水艦の特徴とする性能の一。

へんさい-るい [瓣鳃類] 軟體動物中の一類。淡水又は鹹水に産し、左右2枚の殻と、左右2枚づつの瓣状の鳃とを有するもの。雙殻類。蛤・牡蠣・帆立貝の類。

へん-しん [變針] 艦船又は航空機が、その針路を變更すること。——**てん** [變針點] 航行中の船舶がその針路を變換する位置。

へんしん-き [偏心器] 偏心内輪と外輪の兩部より成り、回轉運動を往復運動に變へて滑弁棒に傳へるクランク装置の一種で、船用機關には普通に前進用と後進用の偏心器を裝備してある。(エクセントリック(eccentric))

へんしん-ぎ [偏針儀] 羅針儀の偏差を最小ならしめるための修正要具。

へん-せい [編制] 兵軍の單位を集團して、隊を組織すること。平時に於けるものを平時編制、戦時に於けるものを戦時編制、又編制の永久成立して變更せられざるものを建制と稱す。

へん-せん [返船] 傭船者が傭船期間満了の船舶を船主に返還すること。

へん-そう [偏走] 船舶や航空機が針路よりそれて航走すること。魚雷の場合も亦同じ。

べん-そう [鞭藻] 植物と動物の間の子がプランクトンになつてある褐色や黄褐色の藻で、鞭毛を活潑に動かして海水を游泳する。赤潮になる主なるもの。

ペインター [painter] 短艇の艀に固定してある纜索(びし)。⇒もやひ。

へん-たい [編隊] 隊列をつくること。——**ぐん** [編隊群] 飛行機の単編隊2組以上をいふ。——**ちょう** [編隊長] 編隊飛行に於いて、先頭機に搭乗指揮するもの。大編隊には別に編隊長機のみ最先頭、又は前側方に在つて指揮に當る。編隊長機を指揮官機といふ場合もある。——**ひこう** [編隊飛行] 飛行機が隊を組んで飛行すること。3~9機を以て1隊とし、通例梯陣を制つて飛行する。⇒編隊長。

へん-たい [變體] 孵化した幼生が、成體と著しく形態を異にし、或る短期間に急激に變化して成體の形になること。

へんたい-せん [變態船] 事實は外國より輸入せる日本船舶なるも、船質改善助成施設目的達成のため實施せられたる外國船の輸入許可制が、實際上

外國船の輸入禁止なるため已むを得ず船腹増加の合法的對策としてその船籍のみを關東州等の外地に置き邦船同様に運航する船舶。

ベンチレーター [ventilator] 通風筒。→同項。

べん-てき [弁笛] 霧笛の一種。簧(は)を以て笛を吹鳴し音響を發せしむるもの。

ペンデント [pendant] ①艦船裝備の索の一種。曳索・繫留索などに使用する。②長旗。→同項。③海軍兵の帽前章。

ベントス [benthos] 海底に定著性の生活を送る動物。貝類・蛸(タコ)のやうな軟體動物、蝦・蟹のやうな節足動物や鰈・鮭のやうな魚類はこれに屬する。

ベント-べん [ベント弁] 潜水艦が水中に沈降する際、金氏弁を開いてメーソタンクに注水させてからベント弁(vent-valve)を開きメーソタンクの中の空気を排除する。

へん-びょう [片氷] 氷の破片が、互に衝突して周縁が圓くなつてゐるもの。

へん-びょう [泛氷] 漂流する浮氷。流氷に同じ。→同項。

へんらん-うん [片亂雲] 亂雲の中・下層にあつて裂片をなすもの。

へん-りゅう [偏流] ①潮流に因つて針路からそれること。②横風の時、船首の向いてゐる方より風下に吹き流されること。——**かく** [偏流角]

航空機の針路(豫定航路)と航跡とのなす角。偏流測定器で測定する。**そくていき** [偏流測定器] 偏流角を測定する計器で、飛行機が洋上(陸影を見ることなく)に於いて所要の地點に到達する航法上、速力計・羅針儀とともに特に必要なるもの。偏流計ともいふ。

へん-ろ [變路] 船舶が豫定の航路を變更すること。(離路)

ほ

ほ [浦] 灣より小なる入江の總稱。

ほ [帆] 帆柱に張り上げ、風をふくませて船を進ませる船具。ケンパス・麻布・木綿布などでつくる。

ほ-あし [帆脚・帆足] ①帆の下縁(カエン)。②橋の上から軸と艀へ張つた綱。

- ずな^{ツナ} [帆脚索] 帆の下隅を張り出す索。(シート(sheet))
- ボイスチューブ [voice-tube] 傳聲管。→同項。
- ホイッスル [whistle] 汽笛。→同項。
- ホイップ [whip] 単絞轆で、単ホイップは単滑車に1條の索を通し軽い物品を揚げるのに用ひ、複ホイップは2個の單滑車と1條の索とより成り上方滑車を固定滑車、下方滑車を動滑車とし、単ホイップよりは比較的重い物品を揚げるのに使用する。
- ボイラー [boiler] 罐(か)・汽罐。→各項。——ルーム [boiler-room] 罐室(かむ)。→同項。
- ポイントヤード [point yards] 風の全力を受けないやうに帆桁を風位に向けること。
- ぼう^{ぼう} [房] 錨鎖の全長を1房と稱し、錨鎖・接續鐵枷・轉鐵・錨鐵枷を以て構成される。
- ほうい^{ほうい} [方位] 観測点から見た地平上の方角。東西南北の四方位の中間の方向を北東・南西・北西・南東とし、更に北々東・北微西等の如く三十二方位を區別する。——かん [方位杆] 羅針儀の上に直立してある1本の針で船の位置を決定するために、陸上物標の方位を測るに用ひるもの。
- きょう^{きょう} [方位鏡] 天體その他物標の方位を測る器具で、羅針儀カードの硝子蓋上に隨時装置出来る。——きょうかくほう^{きょうかくほう} [方位夾角法] 航行中船舶の位置を決定するのに、海圖上に明記してある2個以上の物標の方位とその夾角とによる法。——こうていほう^{こうていほう} [方位航程法] 航行中、船舶の位置を決定するのに、基點から船舶のとりたる針路(即ち方位)と、航走したる距離とによる法。——しんごう^{しんごう} [方位信號] 旗旛による船舶の方位表示の信號。——のせん [方位の線] 方位線。基準となるものの方向に基づいて引いた線。航行中の船が、ある燈臺を右舷正横に見たとき、燈臺から船の位置に向つて引いた線は、方位の線の一種で、船はこの線上のどこかにある筈である。このやうに利用するときは、この線を方位による位置の線といふ。⇒位置の線。——ひょう^{ひょう} [方位表] 航海術上、變緯・東西距・距離を算定するに必要な表。(經緯表・トラバーステーブル(traverse-table))
- ほうい^{ほうい} [包圍] 四方より敵を圍繞する作戰行爲。——こうげき [包圍攻撃] 敵の前後と、側面とを併せて攻撃すること。(包撃)

- ほういばん^{ほういばん} [方位盤] ①羅針儀で方位測定をすることが出来ない時、物標又は天體の方位を測定する器具。②方位盤射撃に用ひる射撃要具。——しゃげき [方位盤射撃] 砲術長の命令に従つて、方位盤についてゐる射手が照準を定めると、それは電氣仕掛で時計の針の動きのやうになつて砲塔内に表はれ、砲塔内の射手はその針の示すまゝに砲を動かし、砲身のねらひが方位盤の照準通りになつた時を見計らつて、方位盤射手は引金を引き一齊に射撃が行はれる。
- ほういん^{ほういん} [砲員] 大砲の發射を掌るもの。——ちよう^{ちよう} [砲員長] 砲員中の最上級者は最重要配置に在る射手であるから、射手が砲員長として各砲員を監督する。
- ほううけあみ [棒受網] 鯛・鯰・鯖等の漁獲に使用する八手網(やま)の一種。餌を潮上に撒いて魚を集め、餌の流れるとともに魚を網の上に誘つて漁獲する。鰹釣などの餌に用ひる鯛又は伊豆七島の名物“くさやの乾物”にする鯛はこの網で捕る。
- ほうえき [貿易] 商業と同意義に財物の交換を意味するが、普通には外國貿易、即ち國際間の商業取引をいふ。——こう^{こう} [貿易港] 外國との通商交通をなし得る港。(外國貿易港) ——せん [貿易船] 外國貿易に従事する船舶。——ふう [貿易風] 南緯・北緯各30度邊から赤道に向つて吹く風。(恒風・恒信風)
- ハウエルしきぎょらい [ハウエル(Howell)式魚雷] 米國海軍大佐ハウエルの發明による原動力として高速度に回轉してゐる“はずみ”車のエネルギーを用ひ、別個の軸に取附けた左右1對の推進器を互に逆回轉させて前進するやうになつてゐる魚雷。海面に航跡を残さない特長がある。
- ほうえん^{ほうえん} [砲煙] 發砲により生ずる煙。
- ほうえん^{ほうえん} [砲焰] 發砲にあたり、砲口より發する火焰。
- ほうえんきょう^{ほうえんきょう} [望遠鏡] 遠距離の物體を見るのに用ひる眼鏡。當直中に使用する普通の望遠鏡の外に、旋回手用望遠鏡・照準手用望遠鏡など種々の種類がある。
- ほうえんぐ^{ほうえんぐ} [防煙具] 火災の煙煙による窒息を防ぐため、面部を覆ひ外氣を遮斷して、専ら器内の空氣及び酸素を呼吸するやうに作製された要具。
- ほうえんのそなえ^{ほうえんのそなえ} [方圓の備] 中古水軍の陣形。小舟大船入り雜つて豫めその形を示さず、機に臨んで一轉し、所期の陣形を作つて敵に當るもの。

ほう-おおい 砲覆 [砲覆] 夜間又は雨天の際などに、砲身をおほふに用ひる帆布製のもの。(ガン-カバー(gun-cover))

ほうおん-さいすいき 防温採水器 [防温採水器] 深海の温度を比較的正確に測定するために、採光器のまはりにゴムやエポナイトを巻き、或は二重にしたもの。更に正確を期するためには顛倒寒暖計を用ひる。⇒顛倒寒暖計。

ほう-か 砲架 [砲架] 砲身を載せる臺。

ほうか-きょうれん 防火教練 [防火教練] 艦船部隊で火災が発生した時を想定して行ふ訓練。通例土曜日の午前にこれを行ふ。

ほう-かく 砲廓 [砲廓] 露天甲板でない甲板の左右舷側に装備されてゐる、中口径砲(副砲)及び砲員を防護するため、1~2門毎に装甲隔壁を以て區劃してある所。砲廓内は弾庫火薬庫に通じ、その砲員等の居室となつてゐる。——ほう 砲廓砲 [砲廓砲] 砲廓内に装備してある大砲。大艦の副砲は多くこの式。

ほうか-たい 防火隊 [防火隊] 他艦船又は陸上火災の場合に派遣する、軍艦の部署で定められてある消防隊。

ほうか-ひ 防火扉 [防火扉] 航空母艦の格納庫内を、數區劃に鐵製鎧戸式の扉を設け、ガソリンのガス發火を豫防し、又延焼を防止する。

ほうか-よう-ておけ 防火用手桶 [防火用手桶] 火災用の手桶で、商船の船橋・船尾樓などに備へてあるもの。(ファイヤー-バケツ(fire-bucket))

ほうか-よう-ホーズ 防火用ホース [防火用ホース] 火災の場合に使ふもので長さ約50~60呎の蛇管。(ファイヤー-ホーズ(fire-hose))

ほう-かん 砲艦 [砲艦] 揚子江のやうな大河を航行して、警備に従事し、又河岸に在る敵を砲撃したり機雷を處分して作戦を容易ならしめる吃水の浅い小艦。河用砲艦ともいふ。

ほう-かんばん 砲甲板 [砲甲板] 舊式軍艦の中甲板(第2)直下の甲板。昔は上甲板(第1)下の數個の甲板の一を指した。

ほう-き 方旗 [方旗] 國際信號旗の文字旗中C~Zの24旗で、その形方形なるもの。⇒別刷圖版。

ほうき-せん 放棄船 [放棄船] 委棄船に同じ。→同項。

ほう-ぎょ 防禦 [防禦] ふせぎまもること。——かいめん [防禦海面] 戦時又は事變に際し、一定の區域を限つて特定の制限又は禁止を設けた海面。

——かんばん [防禦甲板] 鋼板を重ねた特種の厚い鋼甲板で、通例を

の兩側は下方に彎曲し、水線下に於いて舷側と接合し、たとひ舷側は敵弾のために破られるも、この甲板によつて機關室・彈藥庫等主要の部を防護するためのもの。——こうわん 防禦港灣 [防禦港灣] 國防上必要とする場合に防禦施設をなし又は航行の制限禁止をなす一定水面をいふ。防禦海面令に規定する水面は防禦港灣に該當すべく又たとひ防禦海面令により指定せられたる水面にあらずと雖も要塞地帯に編入せられたる水面の如きは廣義に於いて防禦港灣といひ得る。⇒防禦海面。——すいいき 防禦水域 [防禦水域] 一國の國防上必要と見做す水上區域。——すいらい 防禦水雷 [防禦水雷] 侵入する敵艦を防禦するため、港灣などの海中に敷設しておく水雷・機雷の類。——ほうか 防禦砲火 [防禦砲火] 敵の飛行機又は驅逐艦等の來襲に對抗する射撃。

ほうぎょ-もう 防禦網 [防禦網] 水雷防禦網に同じ。→同項。——ふせつかん 防禦網敷設艦 [防禦網敷設艦] 潜水艦を防ぐため、各種の鐵製網を敷設する特種の船。大仕掛な防禦網を急に敷設するものを急設網艦、小仕掛なものを防潜網艦、網を碇置せず浮泛移動する手輕な網を取扱ふものを捕獲網艦といふ。

ほう-くろ 防空 [防空] 航空機で空中から攻撃する敵に對して防禦すること。

——かんしいん 防空監視員 [防空監視員] 防空監視船に乗組み、防空監視に従事する甲板部員。——かんし-せん 防空監視船 [防空監視船] 無線電信又は無線電話の施設を有する100噸以上の汽船及び150噸以上の機帆船又はこの外の運輸通信大臣の指定する船舶で、防空監視に従事せしめられるもの。——かん

し-にっし 防空監視日誌 [防空監視日誌] 防空監視船に備へ置き、監視の狀況・航空機等の狀況・天候及び海象の概要等を記載し、その船舶が管海官廳所在の港に入港した時に船長がこれをその官廳に提出して檢閲を受けるもの。——く

ちくかん 防空驅逐艦 [防空驅逐艦] 高角砲ばかりを装備して飛行機射撃を主目的とした、現今外國海軍に於いて使用する驅逐艦。——じゅんようかん 防空巡洋艦 [防空巡洋艦] 航空母艦の側衛、輸送船團の防衛、海陸協同作戦に於ける上陸作戦などに、敵機の襲撃からこれを防護する任務を持つ高角砲を多數装備した、現今外國海軍に於いて使用する巡洋艦。

ほう-ぐ-てんけん 砲具點檢 [砲具點檢] 艦長が副長・砲術長・水雷長・機關長・砲臺將校・掌砲長等を従へ、各砲・砲架及び砲具並びに舵具及び信號器具等を點檢すること。水雷關係兵器も同時に行ふを例とす。

ほう-けい 謀計 [謀計] 自己の軍事行動の利益のために、敵を誤謬に陥らせる虚

- 偽。その適法なものを奇計、違法なものを背信行爲といふ。
- ほうけい・ひせき・けいすう** ハカ [方形肥瘠係數] 造船用語。所要の排水量を得るために、船の前後で瘠せ、下の方で丸味をつけるのに、船の排水容積を長さ・幅・吃水の相乗積で除した値で、概ね0.75~0.50のもので、速力の大きい船では小さく、遅い船では大きく定める。
- ほうげき** ハカ [包撃] 敵を包圍して攻撃すること。
- ほうげき** ハカ [砲撃] 大砲を以て射撃すること。
- ほうげん・たい** ハカ [防舷帶] 短艇の縁板(カ)の直下外側を圍繞する木材。
- ほうげん・たいしゃく** ハカ [冒險貸借] 昔時アフリカ北岸カタルゴ附近に於いて行はれたる船舶又は積荷を抵當とする一種の貸借法。
- ほうげん・ぶつ** ハカ [防舷物] 船が岸壁・棧橋・他船その他と接觸の際又は氷塊・漂材等のため外舷の摩損を防ぐ用をなすものの總稱。コルクその他を帆布・革・籐などで覆つた球形のもの、竹・木・索などを束ねたものなどの持運式のもの、舷縁外に固定したものがある。その場所により船首防舷物と船尾防舷物に分つ。繫船岸に取付け又は水面に浮かせておく角材や竹束等も防舷材といふ。(フェンダー(fender))
- ほうこう** ハカ [縫航] ①航行中の船舶が、障害物を避けつつ縫ふが如くに進行すること。②帆船が狭水路に於いて風上の方向に進む時に屢々間切走をなすこと。⇒間切走(カ)。
- ほうこう** ハカ [砲煩] 大砲(主として海軍で用ひる稱呼)。陸軍では火砲といふ。——**へいき** [砲煩兵器] 大砲・機銃・彈丸・火薬・射撃指揮装置及びこれに要する光學兵器等を總括した稱呼。
- ほうこう** ハカ [砲口] 大砲の筒口。——**いりよく** ハカ [砲口威力] 射弾が砲口を辭去するときに有する運動エネルギー。彈量に速度の自乗を乗じた値の2分の1で、米厘單位でそれを表はす。——**えん** [砲口焰] 射弾が砲口を離れた後に、膛中で燃えきれなかつた發射火薬が、砲口外で燃える光焰。——**せん** [砲口栓] 大砲の膛中に、砂塵雨水の侵入し、又は大氣の濕氣のため膛面の汚漬酸化すること等を防ぐために砲口に施す栓。
- ほうこう** ハカ [砲窖] 小口径砲を搭載する潜水艦の潜航中の抵抗を減ずるためこれを隠顯式として納める上部構造物。現今は口径の増大したため露出のまま潜航することになつてゐる。
- ほうこう・かく** ハカ [方向角] 照準線と自艦首尾線との交角をいひ、自艦艦首

- より測定せる角度を以て呼稱する。
- ほうこう・だ** ハカ [方向舵] 飛行機の尾部に縦に取付けて方向を調整する舵。(縦舵(カ))
- ほうこう・たんちき** ハカ [方向探知器] 指向性受信アンテナを用ひ、受信された電波の發信源を測定する装置で、これによつて敵艦又は敵機の所在を探知することが出来る。
- ほうこう・とう** ハカ [方向燈] 1方向のみを照射して、導燈の用をしたり、危険區域を示したりする夜標の一。
- ほうこう・へんかん** ハカ [方向變換] 陣形運動中各艦が現隊形のまま逐次回頭して新針路に就くこと。
- ほうご・かんばん** ハカ [防護甲板] 防禦甲板に同じ。→同項。
- ほうこく・ぎょじょう** ハカ [報國漁場] 漁場の或る區域を限り、其處に勤勞奉仕等の方法により、共同して魚介藻類の増殖を行ひ、又は漁獲を行つて、その生産物を神社に奉納し、或はその賣上金を軍事又は公益事業に獻納し、若しくは出征軍人の遺家族等に贈呈する。その漁場を報國漁場と呼ぶ。
- ほうこく・しょう** ハカ [報告礁] 艦船の報告により、海面上にその概位を記載し、航海者の警戒を促す淺灘・岩礁若しくは島嶼。正位置は未詳で、その存否も疑はしいものが多い。
- ほうご・はりいた** ハカ [防護張板] 氷などに對し舷側を保護するための張板。
- ほうざ** ハカ [砲座] 大砲を据ゑおく臺。
- ほうざい** ハカ [防材] 港灣に敵の驅逐艦・水雷艇などの侵入するのを阻止するため、強力な木材・鋼索・鐵鎖等で作られ、これを繋ぎ合はせ港口又は灣頭の水路に敷設しておくもの。
- ほうさ・てい** ハカ [防沙堤] 海濱に於いて、土砂などの海中に流れ去り、漸次陸岸の耗失するのを防ぐため、木材などで構成した簡単な護岸工事。
- ほうじきゅう** ハカ [報時球] 主要な港で、測候所・港務部等に設け、橋の上方に球を掲げ、特定の時刻に球を落下せしめ、正確な時を在港船舶に知らせる信號。船舶は碇泊中これによつて經線儀の誤差を測定するとともに、正確な時を知ることが出来る。航海中は無線報時信號による。
- ほうじく** ハカ [方舳] 短艇の艇尾の寬濶且つ鞏固なるもの。カッター以上の大きさの短艇に用ひる。尖舳の對。
- ほうしごせんいどほう** ハカ [傍子午線緯度法] 觀測者の子午線上に極めて

近き天象高度を測定して緯度を算する法。天象が子午線に正中の時、偶々雲に掩はれて観測し難く、却つて正中の前後に明視し得る場合などに行ふ。近午緯度法ともいふ。

ほうじ-しんごう [報時信號] 時刻信號に同じ。→同項。

ほう-しゃ [抛射] 大砲の仰角を高めて射撃すること。

ほう-しゅ [砲手] 武装商船に乗組み、大砲の發射を掌るもの。その下に砲手見習が配員される。又、捕鯨砲の射手をいふ。海軍では砲員と呼稱す。

ほう-じゅ [傍受] 發信された無線電信符號を、相手の受信すべきもの以外のものがそれを受信すること。

ほう-じゅつ [砲術] 銃砲・彈藥・火具の使用に関する技術。——か [砲術科]

[砲術科] 艦砲射撃に従事し且つ砲術に関する諸般の事務を擔當する艦内の一科で、砲術長を科長としその下に砲術士・掌砲長及び下士官・兵を配す。數個の分隊に編成せられ各分隊に分隊長・分隊士が配屬される。——し [砲術士]

砲術長の命を承け、その職務を分擔補助する乗組兵科士官。

——ちょう [砲術長] 砲類その他兵器を掌り各砲臺分隊を指揮統一する職員。

ほう-じゅん [防楯] 砲の重要部と砲員とを防禦する楯。

ほう-しょう [堡礁] 海岸線の前面にあるか、島若しくは群島を圍繞する珊瑚礁で、孰れも該礁と海岸との間に深い水道を有するもの。

ほう-しょう [樺檣] 單材の檣。(ポール-マスト(pole-mast))

ほう-しょ-ふく [防暑服] 酷暑の候及び熱帯地方に行動する艦船部隊の將兵又は船員が日常着用する半シャツ半ズボンの輕快な服。

ほう-しょ-ぶね [奉書船] 御朱印船に同じ。→同項。

ほう-しょ-ぼう [防暑帽] 酷暑の候及び熱帯地方に行動する艦船部隊の下士官・兵又は船員の着用する白布製縁つき帽。

ほう-しん [砲身] 鋼製圓筒で彈藥を裝填發射する大砲の主要部をなし、後部に尾栓を裝置したもの。大砲の筒。

ほう-しん [妨信] 無線や水中通信を妨害すること。これを避けることを妨信回避といふ。

ほう-すい [防水] 水の浸入せぬやうにすること。——い [防水衣] 表面にゴムなどを引いて防水性を施してある布で作つた衣類。——がい [防水蓋] 防水扉と同一の目的を以て防水區劃上下の甲板にある昇降口・積込

口などを水密に閉鎖するために設けてある蓋で、その構造は概ね防水扉に同じ。——かくしつ [防水隔室] 艦船で浸水を一部に止めるために水密隔壁を以て圍んだ室。(防水區劃) ⇒ 水密隔壁。——かくへき [防水隔壁] 船舶の外皮が損傷して船内に浸水してもこれを一部に止めて船の沈没を防ぐために船内の區劃に設けた堅固なる障壁。⇒ 水密隔壁・支水隔壁。——かまち [防水框] 圓材・楔などを併用して船舶の内部から浸水を遮防する目的に使用する特殊の函。——きょうれん [防水教練] 艦船が擱坐・坐礁又は水線下に魚雷又は敵彈を受け艦底を損傷した場合等を想定して平素より行ふ應急訓練。——くかく [防水區劃] 縦横の防水隔壁及び上下の鐵甲板で水密に區劃されてある部分。(防水隔室) ——せき [防水席] 帆布及び麻で製した方形の厚い席で、附屬索具を以て損所の外板に密著させ、外方から破孔を閉塞するのに用ひる。艦船の衝突・坐礁又は敵の砲彈を水線附近に受けた時などにこれを使用する。——ひ [防水扉] 不慮の災害により防水區劃に海水の浸入するを防ぎ又は浸水を一區劃に抑止するため防水隔壁に裝著してある扉(ヒツ)で、閉鎖した時に水密を完全ならしめるやうに四周に護謨片を附けてある。

ほうすい-いん [烹炊員] 艦艇の主計兵で食物の調理に任する者。炊事掛・賄(ま)ともいふ。

ほうすい-しつ [烹炊室] 艦船に於ける食物をにたきし且つ調理する室。賄所(まど)ともいふ。

ほうすい-ろ [放水路] 水を導き流す路。

ほう-せん [砲戰] 砲火を交へて戦ふこと。——きより [砲戰距離] 大砲を以て、戰鬪を交へる場合に、彼我の距離をいふ。緒期戰・夜戰などそれぞれの場合に於いて、決定すべき重要な要素である。

ほう-せん [防戰] 守勢的作戰。その行爲を防禦といひ、わが攻撃に對する敵の防禦を抵抗といふ。

ほう-せん-たいさく [防潜對策] 敵の潜水艦に對する防禦の方策。

ほう-せん-もう [防潜網] 鋼線で作つた網で、その上部には燐灰石灰などを入れた浮標が取附けてあつて、潜水艦がこの網にかかると、晝間は煙を出し夜間は火焰を放つので直にこれを知ることが出来るやうになつてある。

ほう-そく-てんれい [砲側傳令] 戰鬪中、各砲側の通信器に就き、射撃命令及び號令を砲員全部に傳へる配置にある兵員。

ほうそ-ほうぼう [防鼠法] 棧橋又は岸壁に繋留する船舶の繋留索に、防鼠具を施し、又昇降用舷梯に鉄力板張りの舷門塞扉を施設すること。

ほう-だいはい [砲臺] 艦艇又は陸上に於いて大砲を装備してある場所。軍艦では位置によつて、上甲板砲臺・中甲板砲臺・前部砲臺・中央砲臺・後部砲臺といふ。——かしかんかん [砲臺下士官] 砲臺長・砲臺附の業務を輔佐し、砲員の操作・諸器具の整備並びにこれが配給に注意し、要すれば各砲臺の傳令に従事する下士官。——ちようちよう [砲臺長] 軍艦の上中甲板を通じ、前後數個に横斷して砲臺區分をなし、これに分隊長を配して砲臺長とする。分隊長は砲臺附となる。

ほう-だんだん [砲彈] 大砲の彈丸。

ほう-ちやくちやく [綁著] 綱や紐で縛り結びつけること。(レーシング(lacing))

ほう-ちようちよう [庖丁] 捕鯨船の乗組員で、解剖刀を使つて鯨を解剖する者。

ほう-ちようちよう [望潮] “もちしほ”に同じ。→同項。

ほうちよう-きゅうきゅう [報潮球] 潮の高さを示すため柱に掲げる球形の信號。

ほうちよう-たんたん [暴潮湍] ラツパ形をした浅い入江又は河口に於いて、漲(満)潮に際し押寄せる潮浪の前面が堤防のやうに高くなつて進むもの。⇒海嘯。

ほうちよう-りんりん [防潮林] 海岸地方で潮風による作物の鹽害又は海嘯等の慘害を防ぐために植ゑた松林その他の森林。

ほう-てい [鵬程] はるけき航路。⇒鵬翼。

ほうてい-かんばん-せんせん [法定甲板線] 船側に描かれ、乾舷の高さを決定する線。この線の上縁から各吃水線までの垂直距離がその船のその時に於ける乾舷である。

ほうてい-たいたい [砲艇隊] 小口径砲を装備する舟艇を以て編成し、主として河川流域に於いて出沒する敵の軍隊又は匪賊等を掃滅する任務に服するもの。

ほう-ど [豊度] 水中に含有する養分の豊富程度で養分の多いものを豊度が高いといふ。

ほう-とうとう [砲塔] 主力艦の大口径砲はすべて堅固なる鋼鐵板を以て圍まれてゐる。その圍ひを砲塔といひ、戦闘中砲員・砲機・彈藥を保護する。従來砲塔を搭載するのは主力艦のみであつたが、現在は巡洋艦・驅逐艦などもこれを装備するやうになつた。——かん [砲塔艦] 砲塔を備へる装

甲艦。——ちようちよう [砲塔長] 軍艦で砲塔の配置に在り、砲塔を掌り砲塔員を指揮監督する特務士官・准士官等。

ほうどう-さいさい [防撓材] 船舶が水壓・氣壓若しくは石炭その他荷物の壓力のために屈撓するのを防ぐため、その壓力を受ける鐵鋼板の一面若しくは兩面に固著補強してある材料。

ほうどく-めんめん [防毒面] 毒ガスを呼吸しないやうに、ゴム製覆面と吸収罐を結合したもので、吸収罐内に毒ガスを吸収させる。吸収劑として活性炭及び毒煙濾過用のフェルト等が容れてある。

ほうは-ていてい [防波堤] 外海の荒浪がそのまま港灣内へ入るのを防ぎ、泊地を静穏ならしめるために、港を圍つたやうに造られたもの。

ほうは-まくまく [防波幕] 波浪の飛沫を蒙ることを防ぐために張りめぐらす帆布製の幕。

ほう-びび [防備] 戦時自國領土の沿岸・重要都市・港灣・根據地・主要水道・海峡等を敵襲に對し防禦する一切のこと。海面・空中・陸上の3種に區分する。——せんたい [防備戦隊] 各軍港に置かれ、所在鎮守府所屬の艦船・驅逐隊・潜水隊・水雷隊及び掃海隊中より編制し防禦海面の防禦・警備に任ずる戦隊。——たい [防備隊] 各軍港及び要港に置かれ、海面防禦(海軍航空隊の所掌を除く)に關することを掌り海兵團の無い所では航空機によらざる空中防禦及び一般警備・陸上防火などにも任ずる。

ほう-ふうふう [暴風] ①荒い風。激しい風。嵐。②風速10米以上の風の總稱。

強風・烈風・颶風をその中に含む。——くいきくいき [暴風區域] 颶風や旋風が旋回しながら進む時、その渦巻の中に在る範圍。中心から直径何軒といふやうに表示する。——けいほうけいほう [暴風警報] 暴風又は暴風雨の襲來する虞のあることを知らせる警戒報知。全國を9氣象區に分けて、中央氣象臺から警報を發する全國暴風警報と、地方測候所で各地方廳管内を4區以内に分けて、警報を發する地方暴風警報との2種がある。——けん

[暴風圈] 暴風の吹き荒ぶ限られた區域。——しんごうしんごう [暴風信號] 地方暴風信號ともいひ、その地方に暴風の襲來することを警告するために、高い標柱の上に晝間は赤圓筒を、夜間は赤燈を掲げるもので、漁港などに多く建てられてゐる。——ずず [暴風圖] 航海者が暴風の中心などを知る助けとなるもの。暴風中心圖。——とうとう [暴風濤] 暴風のためこれに相應して大きくなる浪。

- ほうふう-う** ハク [暴風雨] ①大抵の場合に、低気圧に伴つて起る暴風が雨を持ち来り嵐となるものをいふ。②航海上異常に強き風雨を意味する。——
ひょう ハク [暴風雨標] 各港務部・燈臺・測候所等にて暴風雨の位置・進行方向を標示するための球・圓筒・圓錐・圓蓋及び燈火等の一定の標識をいふ。
ほうふう-まど ハク [防風窓] 船橋の前方見張用窓の一部に取付け降雨・降雪中の見張を容易ならしめるもの。
ほうふう-りん ハク [防風林] 風害を防ぐために、海岸や田圃又は家屋の近傍に仕立てる林のことをいふ。海岸にあるものは同時に防潮林にもなる。
ほうま-ぶつ ハク [防摩物] 帆の摩損を防ぐため、櫓や動索類などに取り付けるもの。
ほうむ ハク [防務] 永久の目的を以て海岸に建設せる防禦地點の防備に関する事項。陸海軍の分擔とし、海軍は海上に於ける警戒勤務、その他艦船を以てする諸勤務を擔任する。
ほうむか-しかん ハク [法務科士官] 海軍法務少尉～中將。元は法務官と稱し、専ら法律上の事務及び檢察・豫審・裁判の事務を取扱ふ文官であつたのが、現在は海軍高等武官になり司法官試補たる有資格者を採用する法務見習尉官から任用する。
ほうむ-かん ハク [法務官] 法務科士官の舊稱。→同項。
ほうむ-きょく ハク [法務局] 海軍省の一局。軍事司法・懲罰・監獄に関する事項を擔任する。
ほう-もん ハク [砲門] 砲を引出し、照準發射するため、舷側に設けてある開口で、通例蝶鉸を以て扉を取付けてある。
ほうもん-し ハク [訪問使] 外國軍艦入港の際、その港に碇泊中の軍艦から儀禮的に定例により該艦を訪問する海軍將校。
ほう-よく [鵬翼] ①おほとりの翼を飛行機になぞらへていふ語。②帆。帆船の帆を船の翼と見ていふ語。
ほうらい-ぐ ハク [防雷具] 軍艦に裝備し、自艦の航路及び後續艦、その他味方の艦艇の航路を自艦にて掃海し、航行を安全ならしむるもの。艀に綱をつけてそれに本器を取付けて航行すると、本器は水面下一定の深度を保持しつつ舷側から遠ざかる性能を有するため、綱が張られ機雷の繫維索が綱にかかると、本器の頭にある刃に切り込んで切斷され、機雷が浮上ると射撃してこれを沈める。(パラヴェン(paravane))

- ほう-りゅう** ハク [縫流] 海流が島々の間を縫うやうにして流れること。
ほう-りゅう ハク [放流] 蕃殖を圖るため人工孵化した魚類を河川に放つこと。
ほう-りょく ハク [砲力] 砲火の威力。
ほう-れい ハク [法令] 艦隊の法規・編制・通信・儀制等に關する令達。
ほう-ろう ハク [望樓] ①遠くを望むための高い建物。物見臺。②海軍望樓。現在はこれを廢止した。
ほうおん-き [捕音器] 水中聽音器の一部で水中音波を捕捉する器械。機關・推進器から離れた艦底又は上甲板に取付けられる。
ほ-かく ハク [捕獲] ①戰場で敵の艦船を奪ふこと。②拿捕された船舶又はその積荷の所有權を捕獲審檢所の檢定の結果として沒收すること。——
しん-けんじょ [捕獲審檢所] 拿捕された船舶又はその積荷につき海戦法規に照し捕獲するや否やを審檢檢定し、又拿捕に關連して中立國より直ちに外交交渉を行はんとすることを避けんとする一種の交戦國の國內的裁判所。
ほかけ-ぶね [帆掛船] 帆を揚げて走る船。(帆前船・帆船)
ほ-かん ハク [補罐] 補助罐(器)に同じ。→同項。
ほ-かん [母艦] 飛行機を收容發著せしめ、又飛行機・潜水艦等に兵器・燃料・清水・衣糧品等を供給し、飛行機・潜水艦乗員の休養設備を有する軍艦。航空母艦・水上機母艦・潜水母艦など。
ほ-き [補氣] ①潜水艦で空氣壓搾機を以て氣蓄器内の空氣を補充すること。②魚雷や發射管の氣室等に壓搾空氣を補充すること。
ほ-き [補機] 補助機械に同じ。→同項。——
ちよう ハク [補機長] 軍艦乗組の兵科特務士官・准士官(機關科出身者)で、補助機械に關する業務に服し分隊長を輔佐する。
ほきゅう-きち ハク [補給基地] 艦船に必需品を補充する作戰上の足場。
ほきゅう-せんすいかん ハク [補給潜水艦] 遠洋に出動し、潜水艦に對する必要品の補給を任務とする潜水艦。相當の工場能力を有し、洋上で僚艦の故障を修理する設備も具へてゐる。敵の制空權下で味方基地に軍需を補給する場合にも用ひる。
ほく-い ハク [北緯] 赤道以北の緯度。⇒緯度。
ほく-しん [北辰] 北極星に同じ。→同項。
ほく-と [北斗] 北極に近い星座で斗狀をなして竝んでゐる7星から成る。北斗星又は北斗七星ともいふ。東國にて“七曜の星”といひ、又四三の星

ともいふ。大熊座。

ほくようぎょぎょう ニボウ [北洋漁業] 日本海・オホーツク海及びベーリング海に面する露領沿岸に於ける漁業，即ち極東露領水域に於ける漁業。最近では北千島漁業・アラスカの工船漁業などをも含めた一般北洋に於ける漁業を指すに至つた。

ほげい [捕鯨] 鯨を捕へること。——**せん** [捕鯨船] 鯨を捕獲するために、特別の設備を有し遠洋に航海する漁船。——**ほう** ハク [捕鯨砲] 捕鯨船に装備してある，網をつけた銃を發射して鯨を打つ砲。——**よう-ロープ** [捕鯨用ロープ] 先網と元網からなつてゐて，先網は4時半のマニラ-ロープで，1本の長さは60尋，先端が銃に，他端は元網に連結される。元網は6時のマニラ-ロープで，120尋のものが5本連結されてゐるので捕鯨用ロープの全長は660尋である。

ほげた [帆桁] 帆を張るために檣の上に横にわたした材。

ほけつ-しょうしゅう シウ [補缺召集] 海軍に於いて臨時兵員の補缺，その他必要ある場合に歸休中又は豫備役の下士官・兵を召集すること。

ポケット [pocket] 航空母艦から飛行機が發艦する際の甲板作業員の隠れ場所。

ポケット-せんかん [ポケット戦艦] 袖珍戦艦に同じ。→同項。

ほけん-こうろ カウ [保険航路] 保険者が船舶積荷の保険を引受け又は引受けたる航路。

ほご-あえん [保護亜鉛] 推進器翼とその周囲の鋼材とは海水中で電流作用を起し，鋼が點蝕(ジツ)を蒙るので船尾材附近所々に亜鉛板を固著し，身代りに腐蝕させて鋼材を保護する。蒸氣罐(ジツ)内にも同様亜鉛板を装置して罐板及び支柱の腐蝕を防ぐ。

ほごう カウ [母港] 船舶が籍を置いてゐる港。

ほご-さく [保護索] 潜水艦が防潜網の下を潜り，又は機雷の敷設してある海中を通過する場合に，網や網が推進器・艦橋その他に搦みつかぬやうに司令塔の前後に張つてある太い鋼索。

ほご-つき [鉾突] 鮑・海鼠・蝶・その他海底に棲む魚貝類を鉾で突いて捕ること。

ほご-ほうえき [保護貿易] 國內産業保護のために國家が直接又は間接に外國貿易に制限又は保護を加へること。自由貿易の對。

ほこや-の-そなえ ニ [鋒矢の備] 日本水軍の戦闘隊形。鶴翼の備。凸梯陣。

ホーサー [hawser] 麻綱(マツ) 即ち植物の纖維を材料として製した索(マ)で，白麻索・タール索・マニラ索・サイザル索などがある。

ほしき-かんでい-そくていぎ [保式艦底測程儀] 航海兵器の一。螺旋(推進器)を納めてある小型の圓筒を，艦底から水中に出し，艦が進行すると圓筒内に上から下へ流れが出來て螺旋を廻し，その軸端は發電機に連続する發電子を回轉して電氣を起す。その電壓を艦橋にある速度指示器に表はしそれと並んで回轉數の累計で哩數を表はす航程指示器が備へ附けてある。

ほしき-ぎょらい [保式魚雷] 英國人技師ロバート-ホワイトヘッド (Robert Whitehead)の發明した魚雷で，これを改良進歩したものが現在各國海軍で最も多く用ひられてゐる。

ほじ-せん カウ [保持船] 海上衝突豫防法の規定により，一船が他船の航路を避けてゐる間，その針路及び速力を保持すべしと定められた側の船。俗にこれを権利船といふ。⇒権利船。

ほ-じゅう [補充] 海軍の士官・准士官・下士官・兵を任用又は補缺すること。——**こうたい** カウ [補充交代] 艦船部隊の下士官・兵を或る一定の時期に補充し且つ入れかへること。——**しょうしゅう** シウ [補充召集] 臨時兵員の補缺その他必要なる時に歸休中又は豫備役下士官・兵を召集すること。

——**へい** [補充兵] 補充兵役に服する兵。第一補充兵と第二補充兵とがある。第一補充兵は原則として全員教育召集を受けることになつてゐる。第二補充兵は應召入團の上は海軍の兵籍に編入されて第一補充兵とともに各兵種に應じ海軍二等兵を命ぜられ，所定の教育召集期間現役の新兵とほぼ同様の教育を受け，解除の際一等兵に進級退團歸郷する。但し戰時事變の際には必要に應じ充員召集を命ぜられ國防の第一線に就く。——**へいえき** [補充兵役] 兵役の一。現役兵の補缺に充つるもので海軍の第一補充兵役は17年4箇月。昭和17年より陸軍の兵籍に在る第二補充兵も海軍に召集される途が開かれた。

ほじゅう-タンク カウ [補重タンク] 潜水艦の魚雷・燃料・彈藥等の消耗によつて生ずる重量を補ふために海水を入れるのに用ひるタンク。豫備魚雷補重タンク・ガソリン補重タンク・機雷補重タンク等。

ほ-しょう セウ [堡礁] 珊瑚礁の一。島或は陸から少し離れ，防波堤状をなしてゐるもの。所々に切れ目があり，船舶が出入出來て，内部は往々良港を

- なしてゐる。岩礁ともいふ。
- ほしよ-わたし** [保証渡] 船荷証券又は貨物引換證その他の證憑書類と引換でなく、銀行その他信用し得べきものの保証状を徴して荷受人と見られる者に運送品を引渡すこと。
- ほじよ-がま** [補助罐] 船舶碇泊中に、発電機・揚貨機・ポンプなどの運転に必要な蒸氣を造る罐。(ドンキー-ボイラー(donkey-boiler))
- ほじよ-かんでい** [補助艦艇] 主力艦の補助を主眼とする艦艇の總稱。巡洋艦・驅逐艦・潜水艦・水雷艇の類。
- ほじよ-きかい** [補助機械] 艦船で推進機とは関係なく動作する機械。揚船機・操舵機・発電機・揚艇機・通風機等。略して補機と稱す。
- ほじよ-こうくうぼかん** [補助航空母艦] 飛行機運搬艦。
- ほじよ-こうろ** [補助航路] 政府又は公共團體より航路經營につき補助を受ける航路。命令航路の別稱。→同項。
- ほじよ-さくせん** [補助作戦] 決戦をなすに至るまでに行はれる準備的戦闘の數々をいふ。決戦の對。
- ほじよ-じゅんようかん** [補助巡洋艦] 特設巡洋艦に同じ。→同項。
- ほじよ-じょうきくだ** [補助蒸氣管] 補助塞止弁から蒸氣を各種の補助機械に引込む管。補助塞止弁のない場合は主蒸氣管から小さな枝管となつて分れてゐる。
- ほじよ-タンク** [補助タンク] 潜水艦の豫備浮力並びに釣合を補助的に調整するもの。⇒豫備浮力。
- ほじよ-ぶたい** [補助部隊] 戦艦を中心とする主力部隊に對し輕巡洋艦戦隊・水雷戦隊などをいふ。
- ほじよ-ほう** [補助砲] 軍艦の備砲のうち主砲・副砲以外の砲。
- ほじよ-よく** [補助翼] 飛行機の主翼の兩端の後部に附いてゐる翼で、機を左右に傾ける用をなす。
- ほ-じるし** [帆印] 船の所屬を表はすため、帆に表示された記標をいふ。
- ほ-しん** [保針] 命ぜられた針路を保持するやうに操舵すること。
- ホ-ズ** [hose] 蛇管(びび)。→同項。
- ほ-すそ** [帆裾] 帆の下縁又は下端。下縁(カエソ)。
- ほ-ずつ** [帆筒] 船の中央に装置したる樞の控柱(びび)。これに帆綱を通して帆を上下する。

- ほ-ずな** [帆綱] 帆を樞に上下し又は繫止するための綱。(帆樞・帆索)
- ボ-スプリット** [bowsprit] 船首に突出した大斜材をいふ。前樞を支持し帆を展する用をなす。(斜樞)
- ホ-ズ-ホール** [hawse-hole] 錨鎖孔(びび)。→同項。
- ボ-スン** [boatswain] 甲板長(舊稱水夫長)。→同項。
- ボ-スンズ-チェア** [boatswain's chair] 吊腰掛。→同項。
- ほぜい-そうこ** [保税倉庫] 輸入手續未済の貨物を藏置することを目的とし、保税地域に設置せられる特別倉庫で、貨物の保管以外に改装・仕分その他の手入をなすことを許される。
- ほぜい-ひん** [保税品] 輸入手續未済の輸入品。同項。
- ほ-せん** [母船] 附屬小艇がその親船を指す稱呼。
- ほせん-こうろ** [保薦航路] 推薦航路に同じ。→同項。
- ほせんしき-ぎょぎょう** [母船式漁業] 工船漁業に同じ。→同項。
- ほぞ** [柄] 樞の最下端で内龍骨上に設けられた樞座に嵌入する部分をいふ。(テノン(tenon))
- ほ-そく** [補測] 以前に測量をした所の一部の改測。
- ほ-だな** [帆棚] 和船で樞を立て、帆をまきおろしする所。
- ほつきよく** [北極] 地軸及び天球の軸の北端。一般にはそれらを中心とする地域をもいつてゐるがそれは極地といふべきものである。⇒極地。
- きょり** [北極距離] 天體の、天球上に於いて大圏に沿つて北極まで測つた角距離。——**けん** [北極圈] 地球上北緯66度30分の緯度圈。この圏以北では冬至の前後若干日間太陽は地平線上に現れず、夏至の前後若干日間太陽は地平線下に没することなく、北極に至れば半年間は夜、他の半年間は晝である。——**せい** [北極星] 北極の眞上にある星。地球自轉のために殆んど位置を變へないので夜の方位の標準となる。上總の國にて“一つの星”又“番(ハ)の星”といふ。——**たんけん** [北極探検] 北極探検は早くから試みられたが、北西水路・北東航路の發見によつて拍車をかけられ1895年ノルウェー人ナンセンは北緯86度4分に達し20世紀に入り伊人カーニは86度34分に達し、米人ヒヤリは3回探検の結果遂に北極に達した。1926年米人バードの飛行機による探検に續いてノルウェー人アムンセンは伊人ノビレとともに半硬式飛行船ノルゲによつて探検し、次いで濠洲人ウイルクソンの飛行機による探検あり、最後にノビレ少將が飛行船イタリヤで到極した。

——ていりゅう^ニ [北極底流] 北極の万年氷の下から降りた冷水が流れ
 になつて赤道の方へ来るもの。

ホグギング [hogging] 船體が波頂に在る時前後部の垂下せんとする作用。
 船梁の中央部が上方に曲る傾向。サツギング(sagging)の對。

ホグ [hog] 船底の海藻などを削り落とす丈夫な箒(び)又は刷毛。

ボックス [box] 短艇長の居所で背板とトランソムの間。

ほっこく-ぶね ^{ホクコクブネ} [北國船] ①昔の加賀・能登・越後などの大型運送船。(國
 栗船(こりぶね)) ②北前船(きたまへぶね)に同じ。→同項。

ほっしゅう-せんこく [没収宣告] 捕獲審檢所に於ける審檢により拿捕船舶又
 はその載荷の没収を宣告すること。

ほっち [保津船] 鯨・鮭・鱒等の定置漁具に於いて網の最奥部に繋つてゐて、
 網揚船が網を揚げ終つてここに來た場合、これと協力して漁獲物を取り込
 み根據地より來る運搬船に渡す用をなす船。

ほっぴょう-よう ^{ホッピョウヨウ} [北氷洋] 北極を繞(ま)る海洋。

ポッポ ヤップ島土人の交通漁獵用カヌー。

ほと 字未詳。和船の荷物を載せる敷物。一名荷敷。木で作り、川船に用ひ
 るものを荷尻といひ、竹を把(つか)れて海船の左右の船側に敷くものを“ほ
 て、”といふ。

ほと [帆手] 帆の横につけ帆を左右に引き止めるための綱。

ボート [boat] 短艇。我が國では一般に小船・はしけ船等、手漕艇のことを
 ボートと稱へ、海上・河川・湖・池上で使用される。漕手の疲れた時、又
 は順風のある時は帆を使用し得るものがある。——カバー [boat-cover]
 雨水・煤煙又は塵埃等を防ぎ且つ波浪の侵入をも防ぐもの。(短艇覆)——

テークル [boat-tackle] 短艇を揚卸しするに用ひるテークル。——**デッキ**
 [boat-deck] 短艇甲板。→同項。——**ノート** [boat-note] 荷揚港で

積荷を舁取りした場合にその舁毎に發行し、本船一等運轉士と受荷主又は
 舁船頭とが記名捺印する舁取貨物の受渡證。——**ハウス** [boat-house]
 短艇を格納する設備のある小屋。(艇庫) ——**ロープ** [boat-rope] 短艇

を降した時に該艇を維持し、又達著の際要すれば本艦から投げ與へる索。

ボート-フック [boat-hook] 爪竿。→同項。——**ラニヤード** [boat-hook-
 lanyard] 細索の一端を爪竿に固結し内端をその柄に添つて凡そ三分一
 の處に結び留めたもので、その柄端を折損するも爪(ツツ)を失はないための索。

ポート-マーク [port-mark] 揚地印。積荷の仕向港を示すために荷印の下
 部に附記する港名。

ほ-なわ ^{ホナワ} [帆繩] 帆綱に同じ。→同項。

ほぬい-いと ^{ホヌイイト} [帆縫糸] 亞麻製のもの、苧麻(マ)製のものあり、我が海
 軍では主に前者を用ひる。帆布を縫ひ、又は帆布に索條を縫著し又は膝孔
 (か)を作るのに用ひられる。

ほぬい-はり ^{ホヌイハリ} [帆縫針] 帆縫に用ひる鋼製の針で、その用途に應じ甲乙の
 2種がある。

ほぬい-ろう ^{ホヌイロウ} [帆縫蠟] 蜂蜜で製つた蠟で、帆布を縫ふ時、帆縫糸に塗布
 して滑り易くし、摩擦でその切斷するのを防ぐに用ひるもの。

ほね-のこぎり [骨鋸] 鯨體解剖作業用の蒸氣によつて動かされる長さ1間
 餘の大鋸で、骨を小さく切斷するもの。

ほ-ばしら [橋・帆柱・桅] 鐵製又は木製の圓材で帆を張るために立てたる
 柱。現在の軍艦や汽船の橋も習慣上“ほばしら”と言ふ。汽船はこれに信
 號桁・見張等を装置す。帆船はこれに帆を掛け又横に取附けた桁(や)に横帆
 を、斜桁に縦帆を展張する。3橋のときは前方より前橋・大橋・後橋、帆
 船の各橋は下方より下橋・後橋・トガーン及びローヤル橋より成る。(マ
 スト(mast))

ほひき-あみ [帆引網] 水中に投下し、帆に當る潮流の力によつて引曳する
 網。潮打瀬網(しほ)ともいふ。

ほ-ぶち [帆縁] 横帆の縁。縦帆の後縁。(リーチ(leech))

ポーポイジング [porpoising] 航空用語。飛行機が水(陸)上で何度も跳躍
 すること。海豚(イルカ)の跳躍する狀に似てゐることから來た語。

ほ-ぼろ ^{ホボロ} [母砲] 子砲を取附けた場合、それを取り附けられた砲をいふ。
 子砲の對。

ほま-え-そうれん ^{ホマエソウレン} [帆前操練] 船員をして實際帆の操作に熟せしむるや
 うに練習すること。

ほ-まち 船員が運送契約に基づく積荷の運送に際し、その以外の物品を密か
 に運送し、その報酬として金銭(運賃)又は物品を收受し私すること。又そ
 の私する金銭若しくは物品。外持(せ)の略なりといふ。私得。

ホーム-スピード 母港へ歸る時の船の速力の俗稱。早く母港へ歸りたいとい
 ふ氣持で、大體の豫定よりも自然早く母港へ著くやうになる。

- ホーム-ポート [home-port] 母港。→同項。
- ほ-もめん [帆木綿] 帆に使用する丈夫で重い厚地の木綿織物。帆のほか、天幕・雨覆等にも用ひられる。
- ほ-やく [帆役] 帆の石數に應じて船に課した税。
- ボ-ライン [bowline] 横帆を前方に張る索具。孕索。——ノット [bowline-knot] 舳結(はな)。→同項。
- ボラ-ド-ヘ-ッド [bollard-heads] 雙繫柱。→同項。
- ボラリス [(羅)Polaris] 北極星。→同項
- ほり-いけす [堀活洲] 海岸の砂地を堀下げて板固とし、注排水口を設け、又は海岸の砂岩を穿つて池を作り、干満の差或は波浪を利用して海水の交換を行ひ、魚類や蝦類を著養するもの。
- ホリ-ストーン [holy-stone] 甲板をこする磨石。⇒ハリ-ストーン
- ほ-りゅう-っ [補流] 海洋中の或る場所の海水が、他に流れたのを補ふために起る海流。(反流)
- ほ-りよ [捕虜] 俘虜の俗稱。→同項。
- ホルダー [polder] オランダで海より低い沼地に堤防を築いて開墾した干拓地。
- ホルックス [(羅)Pollux] 天測常用恒星の一。カストル星と並んで同じ橙色に同程度の明るさに輝いてゐるので雙生兒座の名がある。
- ホ-ルド [hold] 船艙。→同項。
- ホ-ルド-ウ-オ-ッチ [hold-watch] 艙内監視。→同項。
- ホルムス-ライト [Holmes-light] 救命焰・發光器。→各項。
- ホ-ワイト-ス-コ-ール [white-squall] 雲も雨も伴はない急風。ブラック-ス-コ-ールの對。
- ほん-かん [本艦] 軍艦・驅逐艦・潜水艦などで、その艦又は乗員が自艦を指していふ語。
- ほん-しお-っ [本潮] 紀州沿岸で黒潮のことをいふ。
- ほん-しょ-し-ご-せん [本初子午線] 地球上の經度の起算點とする線。英國グリニッチ天文臺を通過する子午線。
- ほん-せん [本戦] 全局の作戰目的を達するのに直接關係ある作戰。⇒支戦。
- ほん-せん [本船] ①船員が自分の乗組んでゐる船を指していふ語で“此の船”の意。②利害關係人が當該船を指していふ語で“其の船”の意。③親

- 船又は本(せ)船。——つみこみねだん [本船積込値段] エフ・オー・ビー = F. O. B. (free on boardの略) に同じ。→同項。——つみこみわたし [本船積込渡] 本船渡に同じ。→同項。——わたし [本船渡] 本船積込渡とも稱し、船積港に於ける貨物の本船積込を以て賣買貨物の受渡時期及び場所とする賣買契約。従つて積込み迄に要する一切の費用は賣主の負擔である。
- ボ-ン-ソー [bone-saw] 骨鋸。→同項。
- ほんだわら-かいめんら [馬尾藻海面] 大西洋の灣流のため、海藻が密集して航海の妨害をなす海面。サルガッソ海面(Sargasso Sea)といふ。
- ほん-ちよく [本直] 當直中の責任ある主要な將校。これを輔佐するものを副直といふ。
- ポンツ-ーン [pontoon] 軍用鐵舟。船(ぶね)。起重機船。舢(ぶね)。
- ぼん-てん [梵天] 海中に漁具の投じてある位置を表示する目標。例へば鮪延繩の幹繩1鉢に、1本宛を浮標に添へて水上に直立させる長さ15尺位の竹の先に小旗か竹箆又は棕桐皮のやうなものを附けた目標。夜間はこれに燈火を點じ或は“するめいか”を結び附ける。“ぼんでん”は流網等にも用ひる。⇒いかぼんでん。
- ポントス [Pontos] 希臘神話による水路の守護神。太古以來海底の洞窟に住むといはれる。
- ポンプ-しゅんせつせん [ポンプ浚渫船] 浚渫船の一種で、吸揚浚渫機を備へた船。繫留式のものには吸揚げた土砂を長いパイプで遠く陸岸又は埋立地に送ることが出来る。自航式のものには船内の泥艙に吸揚げた土砂を積み外海に運搬投棄する。
- ポンプ-はいすい-っ [ポンプ排水] 潜航中の潜水艦が元の水上状態に復する際、メ-ン-タンクに入つてゐた海水を壓搾空氣で一度に押出してなほ残つた水をポンプで排出すること。
- ボンボン-ぶね [ボンボン船] 發動機艇の俗稱。又ボンボン蒸氣ともいふ。
- ほん-りゅう-っ [本流] 支流に對して主な流をいふ。

ま

まあみ [真網] ① 1 網を 2 艘の網船で使用する場合に、右方の船には真網、左方の船には逆網(逆?)を積み、両方より投下しながら魚群を包圍し漁獲する。② 右舷から網を卸すことを真網、左舷から網を卸すことを逆網といふ地方もある。——**ぶね** [真網船] 二艘旋の網を投ずる場合に真網を載せる右方の船。これに對して左方の逆網を載せる船を逆網船といふ。

マイアーレ [(伊)maiale] イタリア海軍の新兵器。前半は魚雷、後半が艇で、潜水服を着けた乗員は艇に馬乗りになり、敵艦に近づき潜没して手足を動かしつつ進航し、特殊な装置で艦底又は艦側に魚雷を密着させ、退避後時計仕掛で爆發させる。

まい-インチ-はいすい-トンすう 〔每インチ排水噸數〕 或る船舶の吃水を平均 1 吋だけ沈めるのに要する搭載重量。

まい-か 〔埋火〕 機關用語。船舶が港に碇泊中、汽罐の使用を停止した後罐内に適度の汽壓を保たしめんとする場合に、燃炭を後方に押送りその上に石炭を積み、焚口戸及び灰落戸を密閉しておくこと。

まい-はだ [槓肌] “まきはだ”の音便。→ 同項。

マウシング [mousing] ① 索條の所々に防舷物代用のものを設け、小蒸氣船などの外周に取附けたもの。② 絞轆等の鉤を吊した時その鉤(フック)の外れぬやうに鉤に細索を巻く方法。(安全止(セーフティ))

まえ-おも 〔前重〕 飛行機の頭が重いこと。(ノーズ-ヘビー(nose-heavy))

まえかり-ぶね 〔前驅舟〕 旋網漁業の操業に當つて、その前方から狩棒を海中に投じ、魚群を網の中に狩り込む役をする船。⇒ 狩棒。

まえ-はぎ 〔前脛〕 網漁に出る漁夫が、藁でこしらへ前掛としてゐるもの。前當(マゼ)・前囊(マゼ)といふ地方もある。

まえばらい-うんちん 〔前拂運賃〕 積荷發送前貨物積込の際支拂ふ運賃。

ま-おい-かぜ 〔真追風〕 舟の眞の後方より吹く風。

ま-かじ 〔真楫・真楫〕 楫の美稱。(真楫)

まき [卷] 蛤・淺蛸等砂泥中に棲む貝を採る漁具。腰巻と船巻とある。⇒ 腰巻。

まきあげ-き [捲揚機] 揚貨機に同じ。→ 同項。

まき-あみ [旋網・卷網] 漁網の一。多くは長方形をなし、囊網と兩翼とから成るものと、囊網のないものがある。いずれも魚群を圍み、前者は兩翼を船内に繰入れ、魚を囊中に追込み、後者は網の裾を先に引揚げて漁獲する。

まき-うち [卷打] 投網の漁法の一。十數艘の漁船が圓陣に並び、一齊に網を投ずること。

まき-え 〔撒餌〕 “まきゑき”に同じ。→ 同項。——**ずり** 〔撒餌釣〕 餌附漁業などで行ふ釣方で、魚道に當る魚礁に時を定めて多量の餌を撒きつづけて魚を誘ひ、飼ひつけておいて釣る方法。——**ぶくろ** [撒餌袋] “しらす”又は鰯等の肉を細かく切つて入れる袋で、これから流出する餌で魚を寄せ集める。一本釣の手釣では、この袋を天秤に結びつけて使用し、棒受網では、竿の先に結んで使用する。いずれも海中の或る深さの所に撒餌するために用ひる。

まき-えさ 〔撒餌〕 目的とする魚の好む餌を撒布して、魚を集めること。釣漁業にも網漁業にも行はれる。

まき-じめ [卷締] 滑車の帶索又は麻索を括る等、兩條ともに同一の緊張を受ける所に用ひる括著法。(スロート-シージング(throat-seizing))

まき-なみ [卷波] 海岸の淺い所へ進んで來る波の前面が、海岸に直角になつてきて、その上部の水は前の低い方に落ち、白く砕けつつ進み遂に崩れるもの。

まき-はだ [槓肌・槓皮・槓架] 高野槓(タケノ)又は檜などの皮を柔らかげて、緩い繩状にしたもので、漏水を防ぐため、板の合せ目又は接ぎ目に詰めこむもの。古網をほぐして纖維状に戻して充てることもある。(船茹(カ)・コーキング(caulking)・オーカム(oakum)) ⇒ コーキング。

ま-ぎり [間切] 帆走の際、上手廻又は下手廻を以て交互に右開きや左開きにて目的地に進むこと。——**ばしり** [間切走] 縫航。逆風するとき、帆船が風を斜前方から受けて、“之”の字なりに進み、風上の目的地點に近寄ること。間切乗ともいふ。

ま-ぎり-がわら 〔龍骨〕 大型和船の下底の舳から艫に通じて全體を支持す

- る長材。(間切骨・航(カフ))
- まくひょう [膜氷] 油を流したやうに薄い膜状をなし、氷子の互に凍著せず
に鉛色又は灰色を呈して海面を覆ふもの。
- まくらなみ-じょうたい [枕浪状態] 船が殆んど真横に傾いて顛覆しかか
つてゐる状態。(ビーム-エンズ(beam-ends))
- まぐろ-なわ [鮪縄] ①鮪延縄の略稱。②鮪延縄には大縄・中縄・小縄の
3種がある。その大縄の別稱で“しび縄”ともいふ。⇒蜻蛉縄(トビウオ)
- まさ-いかり [正錨] 錨に錨鎖が絡みついてゐない状態をいふ。(クリア-ア
ンカー(clear-anchor))
- まさく [麻索] 麻・マニラ麻等を撚り合せて作った綱。(ホ-サー)
- まさつ-ころ [摩擦轉子] 動索を牽張する際、その摩擦を防ぐため甲板上或
は側壁などに取付けてある回轉鋸。
- まじ [真風] (方) 南寄りの風。(ませ)
- ましお [真潮] 沿岸に並行して流れる黒潮。房總半島南方海面に於ける
特別な呼稱。沿岸に接近し来るものを“込み真潮”，沿岸より遠ざからん
とするものを“出し真潮”といふ。
- ましがけ [増掛] 荒天準備として帆の展張索(シート)、帆桁の操桁索(ズ)など
重要な索具類を補強するためそれ等に別の索を附けること。
- まじめ 漁夫等の語。黄昏を“夕まじめ”拂曉を“朝まじめ”と稱し、一般に
漁業の好時刻。“ますめ”又は“ますみ”といふ地方もある。
- マス [MAS] 伊國海軍の快速魚雷艇。伊語のMotosecafi-Anti-Sommergibili
(機動驅潜艇)の頭文字をとつて名附けたもの。排水量12~30噸、速力18~
30節、輕砲・機銃・魚雷・爆雷等を裝備す。前の世界大戦中にリッツオ(Rizzo)
少佐の率ゐた2隻のマスがオーストリアの艦隊を襲撃し戦艦サント-ステフ
ァノを撃沈し、現大戦にも地中海で活動を續けた。
- ますあみ-ぎょぎょう [樹網漁業] 定置漁業の一。垣網と側網(ツツ)の2部分
から成り、沿岸に沿つて游泳して來た魚類を、垣網によつて沖の方に導き、
その先端に建て廻した側網の中へこれを導き、更に側網の諸所に取付けて
ある囊網の中に陥入れて捕る漁業。碇・土俵若しくは支柱等を以て一定の
水面に敷設する。壺網(ツツ)・樹網など11種類ほど、これに該當する綱がある。
- マスト [mast] 檣(マスト)。→同項。
- マスト-ヘッド [mast-head] 檣の頂上。——マン [masthead-man] 禮砲・

- 艦飾等に當り旗章を開くために檣頂に昇る兵。
- ませ [真風] 南の方から吹いで來る風。(まじ)
- まち-あみ [待網] ①水中に網を張り魚がその中に入つて來るのを待つこと。
②底は囊状で竹縁をつけこれを水中に沈めておき、魚の乗つて來るのを待
つて捕へる網。
- まち-ごさぶね [町御座船] 町屋形に同じ。→同項。
- まち-やかた [町屋形] 總矢倉で日覆のある遊山船。(町御座船(マツボネ)・借御座
船(マツボネ))
- マーチンゲール [martingale] ジブ-アーム又はフライング-ジブ-アームを
下方に張りつける索具。
- マッド-アンカー [mud-anchor] 普通の錨では埋没する虞ある泥海の碇繫、
又は燈船の如く長期間の繫泊に用ひる傘形又は蕈(キノコ)形をした錨。
- まつら [間連] 和船の内側の底板から上棚及び中棚を維持し、舷側を強固
ならしめる曲材。肋(アベツ)と呼ぶ地方もある。造船中これの完成した時の祝
を間連揃(マツラ)といふ。又、大船の舳の木をいふ地方もある。
- まつら-ふね [松浦船] 肥前の松浦で造る型の船。
- まて [待] 或る動作をなしつつある時に、“そのまま少しも動くな”の命令
を傳へるための號音。“待て!”の號令で中止した作業を“掛れ”の號令
で繼續する。⇒スチル(still)。
- マートウ [碼頭] 支那語。船著き場。(埠頭)
- まとも [真艦] ①船の後方に向ふ側。②海上にて風が船の後方より真直に
吹くこと。——ばしり [真艦走] 帆を揚げ追風にて走ること。
- マトロス [(蘭)matroos] 船頭・船夫・水夫。一般にマドロスと訛(マ)る。
- ま-な [真魚] 食膳に用ひる魚。
- マニフェスト [manifest] 積荷目録。⇒積荷運賃明細表。
- マニラ-ずな [マニラ索] 熱帯地方、殊に比律賓群島に産する芭蕉科植物
の纖維を材料として製した索で、能く水に堪へ輕量で浮び易い特性がある。
- まね 大漁の合圖に船に掲げる旗。
- まはんぷ [麻帆布] 亞麻又は大麻を以て織つた布で帆及び器物覆を製する
に用ひられる。(あさはんぷ)
- まぶね [間船] 部切船(マツボネ)に同じ。→同項。
- まほ [真帆] 順風に正しく懸けたる帆。十分に掲げた帆。片帆(カクサ)の對。

まみず [真水・清水] 鹽分などのまじらない普通の水。鹹水の對。(淡水)
—タンク [清水タンク] 罐に補給する清水・飲料用の清水等淡水を貯藏する水槽。(淡水槽) — **ぶき** [真水拭] 艦内日常手入として、艶拭のみでは塗粧面を清浄ならしむること能はざる場合に行ふもので、よく絞つた雑巾で塗粧面を拭掃するとともに、屢々清水をこれに澀いで汚染・鹽分等を除去すること。⇒艶拭(艶拭)。 — **ポンプ** [清水ポンプ] ①甲板下の清水槽より清水を汲み出すポンプ。②甲板上の清水槽に清水を送るポンプ。
まめせんかん [豆戦艦] 袖珍戦艦に同じ。→同項。
まめてんきゅう [豆電球] 大砲の夜中照準器や、魚雷の夜間發射にそなへて方位盤に取附ける極めて小さな電球。
マラス 印度地方で板を椰子絲で括つた縛り船。
まる [丸] 日本の船名などに添へる特有語。
まるがま [圓罐] 外周は圓筒形をなし胴といひ、兩端は鏡飯といふ平坦面をなしてゐる罐。焚き口を一方にのみ有するものを片面罐(鏡飯罐)、兩端に焚き口があるのを兩面罐といふ。
まるきぶね [獨木舟・丸木舟] ①木を刳(くり)り回めて造つた船。(うつるぶね・うつおぶね・またたぶね・まるきぶね) ②丸木の形のやうな細長く底の深い船。
まるたかけ [丸太掛] 樽若しくは圓壺形物體を揚卸するに用ひる索。このための結索法を樽結(樽結)といふ。
まわりなみ [回浪] 海岸の近くで風のために曲る浪。その曲つた角度に比例して波の高さが低くなる。土砂を海岸や河口等に打揚げ、砂丘を築き上げたり、砂堆を作つて河流を曲折させたりする。
まんかん [満干] 満潮と干潮。(みちひ・干満(満干))
まんかんしよく [満艦飾] 紀元節・天長節・明治節又は皇禮砲を發射すべき日などに碇泊中の軍艦が各橋頭に軍艦旗を掲げ、艦首より各橋に互り艦尾まで信號旗を連ねて艦を飾り立てること。外國のために行ふ満艦飾には大橋頭にその國の旗章を掲揚する。
まんきへい [満期兵] 現役の期限が満ちて退團する兵。
まんげつ [満月] 太陽と月との黄經の差が180度の時、太陽に照らされた月の全部分を地球に向けることとなり、月は完全な圓形に見える。(望)
まんさい [満載] 積載能力の限度迄一杯に積荷を搭載すること。 — **きつ**

すいせん [満載吃水線] 船舶及び人命の安全を期するため、船舶に適當な乾舷を保有せしめ、過當な吃水にて航海するの危険を防ぐため、各海洋の各季節に應じ、船舶に許すべき極度の満載吃水線を定めてこれを標示せるもの。(乾舷標・船積極印) — **じょうたい** [満載状態] 潜水艦が満載定額を搭載し出師準備を完成せる状態。⇒輕荷状態・常備状態。 — **はいすいりょう** [満載排水量] 燃料・清水・食糧その他の消耗品を最大限度に搭載した時の軍艦の全重量。商船では貨物・燃料・清水・乗客・乗組員・倉庫格納品・食糧等を最大限度に搭載した時即ち満載吃水線まで搭載せし時の排水量。⇒排水量。
まんじゅ [満珠] 神代に彦火火出見尊が、海神の宮で得させられたといふ玉の名。これを海に漬けると潮が満ちて來るといはれるもの。干珠の對。(潮満瓊(満珠)) — **まんすい** [満水] ①水の充分に満ちること。②河水などの漲り満ちること。③潜水艦のタンクに注水して充満させること。
まんせききつすいせんきょうてい [満積吃水線協定] 1930年倫敦に於いて行はれた萬國會議の際調印された協定で、各國の満載吃水線に關する規定を國際的に統一することを目的とする。
まんせんしよく [満船飾] 商船の各マストの橋頭に國旗を掲揚し、又船首から各マストを経て、船尾まで國際信號旗を連掲するもので、四大節を初め海の記念日、同一の港に在る帝國海軍艦船が満艦飾を行ひ天皇又は皇族に對し奉り皇禮砲を行ふ場合等に施行する。
まんちょう [満潮] 海面が一日の中で最も高くなつた時の稱。⇒潮汐。 — **せん** [満潮線] 満潮汀線に同じ。→同項。 — **ていせん** [満潮汀線] 満潮時に於ける海面と陸地との交線。干潮汀線の對。
マントレット [mantelet] 弾片防止用遮蔽幕又は楯。
マンホール [manhole] 潜孔(潜孔)・人孔(人孔)。→各項。
マンモス [mammoth] もと原始巨象の意であるが、北大西洋航路に於ける快速優秀巨船を呼ぶに用ふ。

み

みあみ [身網] 一般に網漁具の中樞部。旋網では中央の魚捕部。定置網では囊網部。

みお [水尾] 船の進航する時その船尾の後方に漂ふ長く白い水筋。(航跡)

みお [落・水脈] 河海若しくは泥洲間の浅水部中、やや深くして船の通航し得る水路。(みよ) —— **ぎ** [落木] “みよ”のしるしに立てる木。(落標ワタ) —— **じるし** [落標] “みよつくし”に同じ。→同項。 —— **すじ** [落筋] 落ワタに同じ。→同項。 —— **つくし** [落標] 航行する船に落を知らせる目標に立てた杭或は浮標を碇置して落筋を明示するもの。(みなぎ・みなぐひ・みよじるし)

みおし [水押・船首] 和船の船首材。(みよし・によし)

みおびき [落引] 水先案内をすること。 —— **のふね** [落引の舟] 水脈を案内する船。水先案内の船。

みがきいし [磨石] 甲板磨き石。(ハリストーン(holy-stone))

みかげふね [御影船] 昔、攝州御影で石を運んだ船。

みかしお [三日潮] 陰暦の13日と28日との潮の満干で、極めて急な速潮ウツクシ。⇒大潮ウツクシ。

みかしお [嚴潮] 怒れる潮。怒れる濤ウツクシ。

みかづきはま [三日月濱] 三日月のやうに彎曲した海岸砂濱。(灣頭濱)

みき [幹] 錨の本幹、即ち主部をなす幹。(シャンク(shank))

みぎいかり [右錨] 右舷に備へ、錨泊に常用する主錨。(右舷錨・スターボード-アンカー(starboard anchor))

みぎげん [右舷] 船舶の後部から前部を見通した中央線の右側。發音を正確にするため海軍では“うげん”といはず“みぎげん”と呼ぶことに定められてある。 —— **ちよく** [右舷直] ⇒左舷直ウツクシ・兩舷直。

みぎびらき [右開] 帆船が右舷側より風を受けて前進すること。左開の對。(スターボード-タツク(starboard-tack))

みきわ [汀] ①満潮と干潮の間の傾斜せる部分。又この間の堆積物をもいふことがある。②陸地が水に接する所。(みなぎは・なぎさ・みづぎは)

みくまりのかみ [水分の神] 水の疏通分配を掌る神。天の水分の神と國の水分の神の2柱があつて、諸國にこれを祀るものが多い。

みさお [水棹] 水中に差して船を動かし、常には苦ヒヤを掛けるのに用ひる棹。

みずあか [水垢] ①水中に溶解したものが、水底に沈澱したり、石に附着したり、又は浮游するもの。(みあか) ②硅藻。魚の食用となるもの。水中の岩や石についてゐる藍藻類や硅藻類に屬する下等な植物。鮎などの好んで食べるもの。

みずあげ [水揚] ①船舶に搭載した貨物を初めて間屋へ運びあげること。(陸揚ウツクシ) ②商人の船荷を陸に揚げて初めて店頭に出すこと。又、その所。③漁獲物を陸揚げすること。④經費などを差引かぬ漁獲高。

みずあし [水脚荷] 水の底荷。⇒底荷。

みずあらい [水洗] 油を排出したあとの油槽内に海水を充滿した後、船のポンプで再びその海水を船外に排出する油槽の洗淨操作の一法。⇒蒸氣洗。

みずうみ [湖] 陸地の凹所に淡水が自然にたまつたもの。淡水湖・鹹水湖又火口湖・火口原湖・裾野湖・陥没湖等の別がある。(湖水) ⇒湖沼。

みずかき [水掻] 槳オウの先端の、水を掻くやや扁平の部分。(ブレード(blade))

みずき [水城] ①天智天皇の御時、太宰府の近傍に堤を築き水を湛へた城郭。②水邊の城。

みずきり [水切] 舳取りした積荷を陸揚げすること。

みずぐい [水杙] ①河水の流勢を殺ぐために岸に列ね打つた杙。②水尺ウツクシに同じ。→同項。

みずく-かばね [水漬く屍] ①海軍儀制曲の一。靖國神社參拜及び同祭日の遙拜式、その他一般招魂祭・忠靈塔の參拜等に奏するもの。②(古)水にひたる死體の意で、大君の御ためならばたとひ水中に朽果てようと厭はずとの忠勇精神をいつたもの。

みずげむり [水煙] ①海や川沼などの水面に立ちのぼる霧。水蒸氣。②水の細沫の飛び散つて煙のやうに見えるもの。飛沫。みづけぶり。しぶき。

- しんごう [水煙信號] 潜水艦が味方の監視艦艇から敵と誤認されるのを防ぐため鯨の息吹を真似て水煙を吹上げて信號すること。
- みずさき** [水先] ①水の流れて行く方。②船・筏などが進むとき水を掻き分け砕く所。③船舶の航行する進路。④水先人。水先案内人。——き [水先旗] 水先人がその業務に従事するため水先船に乗り込みたる時、晝間橋頭・旗竿又は帆の上部その他見易い所に掲揚してある旗。——く [水先区] 一國の政府がその領海中、港の入口、海峡その他船舶の航行に危険なる区域として特に指定した区域で、その区域内に於いては水先人に限り船舶の水路を嚮導することが出来る。——しんごう [水先信號] 水先人を要招せんとする時船長のなす信號。——せん [水先船] 水先人が被嚮導船との交通等その業務に従事するために使用する船艇。船體外部を黒色に塗装して船側及び大帆の上部に水先船たることを明示する。——ほう [水先法] 水先人の資格・業務執行方法・権利義務・懲戒などを規定する法律。——めんじょう [水先免狀] 水先人の資格證明の免狀。數年間實地航海に従事しその水先区の航路に熟達し、且つ船舶海事諸法規に通曉する者に就き試験の上合格者に交付する。——よび [水先呼] 水路嚮導即ち水先人を招聘せんとする時に用ひる信號旗 G.(又は P.T.)をいふ。
- みずさき-あんない** [水先案内] 船舶が航行危険の一定区域に出入する際、進路を案内すること。又その人。(水先人・パイロット(pilot)) ——き [水先案内旗] 水先旗ともいひ水先人が水先船に乗船してある間掲げるものにして方形旗の上半白、下半赤の旗。——にん [水先案内人] 水先人に同じ。→同項。——りょう [水先案内料] 水先人が水路を嚮導したる時その勞務に對し、船長に請求する案内料(報酬)をいふ。
- みずさき-にん** [水先人] 一定の試験に合格し水先免狀を有して港の入口、海峡その他船舶の航行に危険なる区域(水先区)に於いて船舶の水路を嚮導するを業とする者。水先案内人ともいふ。——くみあい [水先人組合] 同一水先区の所屬水先人が水先業の健全なる發達のために組織する組合。
- みず-じゃく** [水尺] 川岸や水中などに立てておく尺度を盛つた棧で、出水の高さを測るもの。(水杖(杖))
- みず-だめし** [水試] 船體の建造工事が了つてから、船内の水密を要する船艙や隔壁などに水を張つて水の漏洩の有無を檢查すること。

- みず-だる** [水樽] 短艇に備へる要具の一で、飲料水を容れておく小樽。(ブレイカー(breaker))
- みず-でんま** [水傳馬] 飲料水を運搬する船。水取船。水船。
- みず-ばしら** [水柱] 砲彈が海中に落下し又は魚雷が目的物に命中したときなどに、海面に高く柱のやうに上がる水。
- みず-バラスト** [水バラスト] 水脚荷に同じ。→同項。
- みず-びれ** [水簷] 飛行艇の船體の下部の兩側に取附けられた翼と同様の形の構造物。翼端浮舟の代りに用ひられ飛行艇が水上に静止せる時の安定を保つ。
- みず-ぶね** [水船] ①飲料水を運搬する船。(水取舟・水傳馬) ②浸水した船。
- みず-まく** [水幕] 昔の海戦に、水に浸して矢玉を防ぐのに用ひた幕。
- みず-めがね** [水眼鏡] 箱の底を抜いて硝子を嵌めたやうなもので、これを水につけて海の中を覗くと海底がよく見える。魚貝類を探する場合などに用ひる。
- みずものにもつ** [水物荷物] 樽詰・壺詰等の液狀荷物。
- ミズン-マスト** [mizzen-mast] 後檣。→同項。
- みせい-かんせん** [未成艦船] いまだ竣工してゐない艦船。未成艦・未成驅逐艦・未成潜水艦・未成艇などといふ。
- み-せいぎよき** [未成魚期] 魚の體形・斑紋・色彩等は既に成魚に等しくなつてゐるが性的にまだ熟してゐない時期。
- みぞ** [溝] 龍骨の溝。(ラベット(rabbit))
- みそぎ** [禊] 河や海の水にひたり、身を淨めて罪又は穢れを祓ふ行事。
- みぞ-みち** [溝路] 甲板の排水溝。(ウォーター-ウェー(water-way))
- みち-あみ** [道網] 魚群を知らず識らず誘導するために張る網。定置漁業の垣網などをいふ。(垣網・棚網)
- みち-いた** [道板] 上陸する時に船から岸へかけわたす木板。
- みち-いと** [道絲] 釣漁具で釣絲の鉤に接した一部分で鉤素(ハリス)を除いた以外の部分。綿絲・麻絲・澁絲・漆絲・人造テグス・本(*)テグス等を用ひる。
- みち-しお** [満潮] 潮がさして海水の表面が1日の中で最も高くなつたときの稱。
- みち-ひ** [満干] 満潮と干潮と。海水が満ちること干(+)ること。(満干(形)・

- 干満)
- みちびき-かつしゃミチビキカッシャ [導滑車] 索の引手の方向を變へるのに用ひる滑車で、多く切欠滑車が使用される。(リーディング・ブロック(leading-block))
- みちひのたま [満干の珠] 潮の満干を自由にすることが出来るといふ珠。
- みつぎ-ぶね [貢船] 屬國などから時期を定めて君主に獻呈する貢物(物)を搭載した船。
- みつぎよ [密漁] 規則を破つて竊に漁をすること。
- みつこうミツコウ [密航] 法律・規則に違反しひそかに渡航すること。
- ミッドナイト・サン [midnight sun] 夜半の太陽。盛夏又は眞冬に極地地方で見えるもの。
- みつど-りゅうミツドリュウ [密度流] 温度の高低・鹽分の多少に因る海水の密度の不均一のために、海水に傾斜を生ずることによつて起る海流。これが海流を起す最も重要な原因である。
- ミッドル-ウォッチ [middle-watch] 夜半直。→同項。
- みつぼう-めいれい [密封命令] 戦時機密保持の必要上、官憲が密封したまま船長に授ける命令で、船長は出港後これを開封しその命令に遵つて行動しなければならない。海軍では封密命令といふ。
- みつぼ [水粒] 水泡の粒立つたもの。(みつたま・水滴)
- みつぼし [三星] オリオン座の中央に並んでゐる星。
- みつめ-かつしゃミツメカッシャ [三目滑車] 3孔を穿つた圓形の木片で、静索等の端に附著し、これに締索を通して緊張するためのもの。鐵製のものもある。(デッド・アイ(dead-eye))
- みつもう [密濛] 霧・靄・雨・煙霧などで視界の極度に小さくなる天氣。
- みつゆ [密輸] 國法を犯して密かに物資の輸入又は輸出をなすこと。密輸入又は密輸出といふ。
- みつりょう-せんミツリョウセン [密漁船] 禁制を破つて密かに漁獵をする船。
- みと [水門・水戸] (古) 河海の水の出入口。みなと。——きょうキョウ [水門教] 水先案内人。(新潟地方の語)
- みなかみ [水上] 水の流れて来る上の方。(川上・上流)
- みなしも [水下] 水の流れて行く下の方。(川下(下)・下流)
- みなと [港・湊] 船舶の安全に碇泊し得る自然的又は人工的の場所で、その使用目的により軍港・商港などに區別される。

- みならい-いかんミナライイカン [見習尉官] 軍醫・藥劑・主計・技術・齒科醫及び法務の各科がある。海軍部外の大學卒業者は中尉に、専門學校程度の卒業生は少尉に試験の上採用任官させられるが、任官前何れも2箇月以上の見習期間は見習尉官となり地位待遇は少尉候補生の次である。
- みなわミナワ [水繩] 和船で帆桁(帆桁)の中央に結びつけて、帆を上げ下げする繩。
- みはり [見張] 航海・航空安全のため海上又は空を注視して船舶・陸地・島嶼・浮流物・敵機その他を警戒すること。又、その人をいふ。その場所に應じ艦橋見張・橋上見張などと呼ぶ。——いんイン [見張員] 海軍用語。見張をする人。——おけオケ [見張桶] 捕鯨船の前橋頂に取付けてある見張人の入る鳥の巢のやうなもの。——じょ [見張所] 海岸の要處に設け、海上の見張・通信及び氣象の觀測等を掌る所。——ばん [見張番] 見張をする者。——ぶね [見張船] 見張りをする船。
- みふね [御船・皇船] 天皇陛下の御召船。
- みみ-ずなミミズナ [耳索] 帆の四隅の鳩目(鳩目)に取り附けた小索で、帆を帆桁に結び止めるのに用ひるもの。
- みやく-ずりミヤクズリ [脈釣] 浮子を使用しないで釣絲に錘と鉤だけをつけ、竿先の脈動を見て釣る方法。
- みょう-じょうミョウジョウ [明星] 宵の明星及び曉の明星の總稱。
- みよし [船首・舳] へさき、船の先。和船の舳(へ)先の波を切る材から轉じて船首を意味することとなつた。水押の訛り。(みおし)
- みん-せん [民船] 普通、支那の沿海又は河川に於いて貨客の運送に従事する支那人所有の舟艇。主に帆船・舢舨をいひ、又廣く原住民所有の舟艇で主に帆船・舢舨をもいふ。⇒内河民船。

む

- ムーアリング-ペンデント [mooring-pendent] 繫船索。→同項。
- むえん-かやくムエンカヤク [無煙火藥] 爆發に際し、殆んど煙と燃渣(殻)を生ずること

なく燃焼し、普通の火薬に比し強烈な爆発力を有する火薬。

むかい [霧海] 寒冷な海面に発生する霧層の俗稱。

むがい [無礙] 水道等に淺礁・沈船等のやうな、船舶の航行を阻礙するものがない時は該水道を無礙なりといふ。

むかい-かぜ [逆風・向風] 進む方向から吹いて来る風。(むかふかぜ)

むがい-かんばん [無礙甲板] 船首から船尾まで平坦に續いてある見透しの甲板。(フラッシュデッキ(flush-deck))

むかい-しお [逆潮・向潮] 進み行く前方より流れて来る潮汐。

むかい-ずな [迎索] 大きな索を送り込むため頭初に附ける小索。(リーディングライン(leading-line))

むかい-なみ [逆浪] 船の進み行く前方より寄せ来る浪。

むかく [霧角] 霧中號角に同じ。→同項。

むかて-ぶね [蜈蚣船・百足船] 船首を蜈蚣の頭狀にし左右に櫂を多く列れた船。蜈蚣の氣よく海蛇を制すといふ意味で造つた支那の船。

むかん-せんすいぐ [無管潜水具] 苛性加里を充たした部分と、酸素の補充と呼吸氣の循環とを促す部分とより成る呼氣清淨装置のある潜水具。海上よりポンプにて空氣を送る要なく、海底に於いて全く獨立に呼吸することが出来る。

むかん-びょう [無錐錨] 山字錨に同じ。→同項。

むきず-ふなに-しょうけん [無疵船荷證券] 完全船荷證券・無故障船荷證券に同じ。→同項。瑕疵又は不完全船荷證券の對。

むけい-こく-げきちん [無警告撃沈] 軍艦・驅逐艦・潜水艦などが相手方の商船に、何等警告を與へることなく突然これを撃ち沈めること。

む-こう [霧虹] 霧の晴れる兆候として霧の中に現はれる微かな白光の虹に似た部分。(霧中弧光)

む-こう-こ [無口湖] 排水口のない湖。

む-こう-ばらい-うんちん [向拂運賃] 貨物が到達したる後、到達港に於いて支拂ふ運賃。(先拂運賃)

む-こ-しょう-ふなに-しょうけん [無故障船荷證券] 通常、船荷證券に記載せられる約款以外に、何等積荷の數量・内容・包裝等に関し、所持人にとり不利益なる留保がなされてない船荷證券。即ち完全なる積荷に對して發行せられる船荷證券で完全船荷證券ともいふ。不完全船荷證券の對。

む-こん-せき-げきちん [無痕跡撃沈] 雷撃により船と人とをともに沈めて一切の痕跡を残さぬこと。

む-しまげ-ろっこつ [蒸曲肋骨] 木造船の建造に當り、肋骨に天然曲材を得ること困難なる場合、これに代用する方法として、木材を蒸氣にて蒸し所要の形狀に曲げた肋骨。(ベント・フレーム(bent-frame))

む-しょう [霧鐘] 人力若しくは自動機で、晝夜の別なくある時間を隔てて鳴らす霧中信號。普通、浮標の頂部に装置し、海波のため浮標の動搖により鐘を打鳴らすものが多い。

む-しょう [無章] 特技章を有せざること。⇒特技章。

む-しろ [蓆] 彈丸・裝藥その他、重量物を甲板に置く時その敷物となすもの、或は室の入口に置いて靴底を拭ふのに使用するもの。(マット(mat))

む-せい-げん-せんすい-かん-せん [無制限潜水艦戰] 國際法を無視し、一定の水域に出入する船舶は、敵船たるや中立國船たるやを問はず、無警告にて撃沈すること。

む-ぜい-こう [無稅港] 自由貿易港に同じ。→同項。

む-せん [無線] 無線電信・無線電話の通稱。

む-せん-こう-しん-けん [無線交信圏] 無線を以て通信を交換し得る限られた區域。

む-せん-こう-ほう [無線航法] ①飛行機が或る定所から發せられる無線電波を感受し、それを傳はつて目的地に向つて飛行すること。②無線標識局よりの無線電波の測定によつて、自己の船位を知り航行する方法。(無電航法) ⇒無線標識局・無線方向測知所・無線方位測定機。

む-せん-こう-ろ-ひょう-しき [無線航路標識] 無線電信を航路標識に利用したもの。これに無線標識局と無線羅針局によるものとの2種がある。⇒無線標識局・無線羅針局。

む-せん-しつ [無線室] 船舶の無線電信・無線電話の送受信をなす部屋。

む-せん-しん-ごう [無線信號] 無線電信信號・無線通信に同じ。⇒無線電信信號。

む-せん-そう-じゅう [無線操縦] 電波を利用して遠方にある機器を操縦すること。艦艇・水雷・航空機等軍事上の應用が主要なもの。

む-せん-つう-しん-し [無線通信士] 主任無線通信士の命を承け無線通信部の業務を分掌する船舶乗組員の一。主任無線通信士は船長の命を承け、無線

通信部に属する業務を掌理する。

むせんでんしん [無線電信] 兩所を連絡するのに、導線を用ひず、電磁波の作用を應用して行ふ電信。火花の放電によつて電波を放送し、それを感受して記録したのであつたが、その後電弧式・真空管式などが發明され、受信装置も音色をもつて受信するやうになつた。略して無電又は無線といふ。——**きょく** [無線電信局] 船内に設けられた無線電信機を具へ、無電通信事務を取扱ふところ。——**しんごう** [無線電信信號] この信號には無線電信局から發する無線報時信號、氣象臺から發する氣象通報、無線標識局から發する無線方位信號などがある。

むせんでんわ [無線電話] 電線を用ひず電波により通話をする電話。

むせんひょうしききょく [無線標識局] 無線航路標識の一。船舶からの求めに應じ、又は一定時刻に無線電信符號を發信し、船は經緯度の公示されてゐる無線標識局より發信する特殊の符號を無線方向探知器で受信し、同局よりの方向を測定して自分の位置を決定し、安心して航海を續けることが出来る。燈のついた燈臺のやうに、目では見えないが耳で聽いてその方向を知らせてくれるので無線燈臺ともいふ。(ラジオビーコン(radio beacon))

むせんふうし [無線封止] 我が所在及び動靜などを敵に探知せしめざるために、無線の送信電波を一切發しないやうにすること。

むせんほういそくていき [無線方位測定機] 霧中航行の際などに海岸の無線方向測知所から發する電波の方向を受信し、方位線を海圖上に記載して、本船の位置を求める。又、霧中船舶相互に連絡を取つて衝突を豫防するためにも本機を使用する。(無線方向探知機) ⇒無線方向測知所。

むせんほうこうそくちしょ [無線方向測知所] 濃霧・降雪などの場合、船舶の航行を安全ならしめるために、方向探知機を備へた海岸局に於いて船舶からの要求を俟つてその發する無線電波の方向を測定し、これをその船舶に通報する無線羅針局。(ラジオコンパスステーション(radio-compass-station))

むせんほうこうたんちき [無線方向探知機] 無線方位測定機に同じ。
→同項。

むせんほうじ [無線報時] 無線電信を以て定時を報じ艦船の時辰を整合せしむること。

むせんよびだしふごう [無線呼出符號] 無線電信局所相互間で呼出すときに用ひる符號。信號符字を以て呼出符號とし、船舶に於いてはこれによつて船名と國籍とを明かにしてゐる。⇒信號符字。

むせんらしんきょく [無線羅針局] 無線航路標識の一。船舶から發した電波の方位を無線局で測定して、船へ通知してくれる所。

むちゅうごうかく [霧中號角] 霧の深い海上で船の位置を警戒し衝突を豫防するために鳴らす角喇叭型の信號器。主として帆船及び他船に曳かれて運航する船舶に使用する。(フォッグホーン(fog-horn))

むちゅうこうこう [霧中航行] 濃霧の中を航行すること。

むちゅうしんごう [霧中信號] 降雪その他船舶が霧中・暴風雨など展望の妨げある天候の際、海難事故を避けさせるため船舶相互の位置、又は燈臺・燈船などの位置を知らせるための音響信號。航行中の汽船は汽笛・汽角、帆船及び他船に曳かれて運行する船舶は霧中號角を用ひ、船舶碇泊中は號鐘を鳴らす。燈臺・燈船などの霧笛・霧砲・爆發信號などを行ふ。(霧信號(霧音))

むちゅうひょうてき [霧中標的] 濃霧の際、艦隊又は船團が單縱陣にて航行中、前續諸艦の後尾に曳いて自波を立たせ、後續各艦はそれを目じるしにして事故を避けるための浮標。

むちゅうふひょう [霧中浮標] 霧中、後續艦の目標に供するため前續艦の艦尾に曳航する浮標。(霧中標的)

むちょうてん [無潮點] 潮浪の回轉中心で潮汐の昇降がない所。

むてき [霧笛] 燈臺・燈船などに備へ附けてある霧中信號器の一種。蒸氣又は壓縮空氣により發聲弁を働かせサイレンを吹き鳴らして音響を遠方に傳達するもの。

むてきかんたい [無敵艦隊] 1588年西班牙王フィリポ二世が英國を攻めるために派遣した大艦隊。インビンシブル・アルマダ (Invincible Armada)。現今は必勝の帝國海軍の艦隊の意味に用ひられる。

むてん [無電] 無線電信・無線電話の略語。

むとうこうこう [無燈航行] 船舶が夜間航行の際、一切の燈光を外に漏れさせないこと。航海燈を點けないで航行すること。

むなおび [胸帶] 測鉛手が投鉛の際、胸に著ける帶。(アレストバンド (breast-band))

むなびれ [胸鱗] 魚類の鰓の後方にある鱗。左右2枚あつて緩やかな游泳時に使用する。

むふうたい [無風帯] 海洋上で年中又は季節によつて風の殆んど無くなる地方。赤道附近のものを赤道無風帯、緯度30度附近のものを温帯無風帯といふ。

むぼう [霧砲] 霧・雪・豪雨又は天氣溟濛の時に、燈臺から晝夜の別なく一定の時間を隔て火薬によつて放つ霧中信號空砲。

むぼうびこう [無防備港] 一切の軍事的防備を施設してない港。

むらぎみ [村君] 漁撈指揮者又は漁業主。(むらぎん)

め

めいあんとう [明暗燈] 燈臺用語。不動光で一定の間隔毎に俄然1回の全暗を現はし、明間は暗間と同一であるか若しくはやや長いのを例とする。

めいこ [明弧] 燈臺から發射する燈光の照らす範圍を示す圓弧。

めいさい [迷彩] 自分の存在や行動を晦(カ)まし、敵の攻撃を免れるために種々な彩色を施すこと。(擬装・カムフラージュ(camouflage))

めいすう [命數] 大砲の壽命。砲の精度を害しないだけの發射數の限度。

めいちゅう [命中] 砲弾や魚雷などの目的物に正しくあたること。(的中)

——**だん** [命中弾] 射弾の目標に命中せるもの。——**りつ** [命中率] 發射彈數に對する命中の割合。

めいてきふひょう [鳴笛浮標] 霧中航行の船舶のため笛を吹鳴し音響を發する装置を施してある浮標。

めいめいしき [命名式] 船の進水にあたり、その船に名をつける儀式。命名が終ると、船體は船臺を離れて水中に滑り込んで浮ぶのでこれを進水式といふが、現今海軍では命名式を行ひ進水式とはいはれない。

めいめつ [明滅] 燈光の明るくなつたり消えたりすることで、光の強さの不規則に増減する點に於いて閃光と異なる。

めいれい [命令] 作戰・作業・行動・役務等に関する重要な令達。——こ

ろろ [命令航路] 政府又は地方廳の命令によつて營む定期航路。使用船航海度數・寄港地・郵便物運搬等につき特定の條件を附けられる代りに補助金を交付されるのを常とする故に又補助航路ともいふ。自由航路の對。

メガホン [megaphone] 傳聲器。→同項。

めくらひこう [盲飛行] 盲目飛行(盲飛)に同じ。→同項。

めくらふた [盲蓋] 荒天の際、舷窓・天窗などの硝子が破損した場合に、海水の侵入するを防ぎ、若しくは戦時・演習などで燈火の舷外に露ばれるのを防ぐための鐵蓋。(デッド・ライト(dead-light))

めくらぶね [盲船] 昔の軍用船。無垣の船で、龜の甲のやうに棟木に螺番で板を張附け、その屋根板に狭間を設けて、内より外を覗ひ發砲し、或は竹製の火薬入籠を出して敵船に火を放つた。

めざしつなぎ [目刺繋] 鰯などを數尾、目をさしつらねたやうな形に、數隻の船を横に舳つて碇泊すること。

メス [備]mes] 水夫の用ひる西洋形の小刀。(ナイフ(knife))

メス・デッキ [mess-deck] 下士官・兵の居住する甲板で食卓を並べる所。(居住甲板)

めずな [眼索] 環状をなした索で、滑車の帶索等に用ひるもの。また短艇の操舵櫂(スチャリング・オール=steering-oar)をこれに通すことなどに用ひられる。

メス・ルーム [mess-room] 高級船員の中、二等運轉士以下の食堂。略して“メス”ともいふ。

メタセンター [metacenter] 船體が正平な時、その重心を通る垂直線と、船體が傾いた時の重心を通る垂直線との交點。この重心上の高さが船の動搖に著しく影響する。(傾心)

メタセントリック・ハイト [metacentric-height] 重心よりメタセンターまでの高さ。

めつけいた [目附板] 木材を搭載する貨物船に於いて、甲板積木材を縛著するために、一定の間隔を置いて舷側厚板に銜著してある鋼板。

メッセンジャー [messenger] 揚錨機の錨鎖車、又は車地の胴に嚙合はざる大なる錨鎖又は錨索を捲込むために取附ける補助索。また荒天の際、揚錨機の力のみにては揚錨不可能のとき、補助索を揚貨機にて捲き錨を揚げることもある。

メッセンジャー-ライン [messenger-line] 洋中難破船を曳航する場合などに、彼我の間に連互せしめ、通信書類の交換及び必要に應じリーピング-ラインの送致に備へる索。

メ-ト-レシート [mate-receipt] 船積貨物受取證。船員受取證。積荷の積込を終りたる時、一等運轉士が荷造人に對し發行する積荷の受取證で、これと引換に船荷證券を發行し、又は船荷證書の代證とする。

めなみ [雌波・女波] 男波が高く強く一つ打つ前に、低く弱く二つ打ち寄せる波。男波の對。

めん-えき [免役] 兵役法施行令用語。兵役免除に同じ。→同項。

めん-かむり [面被] 游泳の基本練習の一。眼をあけて顔面を充分に水につけ、少しづつ息を吐き出しながら出来るだけ長く敵足と同時に練習する。

めんきょ-ぎょぎょう [免許漁業] 行政官廳の免許を受けて行ふ漁業。即ち漁業権となる漁業で、他人を排斥し、その漁場を獨占して行ふことが出来る漁業。定置漁業・區劃漁業・専用漁業・及び特別漁業の4種がある。

メ-ン-ジャー [manger] 錨鎖孔から流れ込んだ水が、後方に流れぬやうに仕切がしてある甲板。

メ-ン-ジャー-ボード [manger-board] 艦首水除(せきぞり)。→同項。

メ-ン-スル [mainsail] 大橋下桁(ごご)の帆。

めんせき-いふ [免責委付] 船長が法定の権限内に於いてなしたる行爲又は船長その他の船員がその職務を行ふに當り他人に加へたる損害につき、船舶所有者は航海の終りに於ける船舶・運送貨及びその船舶につき有する損害賠償又は報酬の請求權の範圍を限り責任を負ふもので、これ等の權利を債權者に譲渡するときは船舶所有者の責任は消滅する、斯くの如く船主が責任を免れんがために債權者に上記の權利を譲渡することを免責委付といふ。⇒委付。

めんせき-やっかん [免責約款] 船主が損害發生の場合その責任を免れるためになす特約で、船荷證券・貨物引換證・備船契約書等に特に記載せられる免責條項。

メ-ン-タンク [main-tank] 潜水艦に裝備してある水槽(かづ)で、これに満水すれば艦の大部分の浮力を減殺せられ潜航が出来る。メ-ン-バラスト-タンク(main-ballast-tank)の略。

めん-はんぷ [綿帆布] 木綿製の帆布で天幕・スクリーンその他雑用に供せ

られる。

メ-ン-ブレース [main-brace] 大橋最下桁の轉回索。

メ-ン-マスト [main-mast] 大橋。→同項。(主橋)

メ-ン-ロープ [man-rope] 握索(かり)。→同項。

も

も-うお [藻魚] 岩礁があつて海藻の繁茂する所に棲息する魚類の稱。あばる等の類。(もいた)

も-う-きさ [濛氣差] 氣差に同じ。→同項。

も-う-げき [猛撃] 猛烈な勢で攻撃すること。

も-う-し-う-け [申受] 士官室・士官次室などで定食以外の食品をあつらへること。

も-う-し-つ-ぎ [申繼] ①前任者が後任者に所管事項をいひつぐこと。②當直將校などが交代の際、必要な事項を次直の者にいひつたへること。

も-う-しゃ [猛射] 猛烈に敵を射撃すること。

も-う-だん [盲彈] 彈着後炸裂しない砲彈。

も-う-どう [艘撞] いくさぶね。戦艦。

も-う-ばく [猛爆] はげしく爆破すること。爆彈ではげしく打ち壊はすこと。

も-う-ばく [盲爆] 軍事上の目的如何を問はず、盲滅法に飛行機から爆彈を投下すること。

も-う-も-く-ひ-こ-う [盲目飛行] 針路を定むべき外界の目標を視認せず、計器の指示のみにより飛行すること。(めくら飛行・計器飛行)

も-く-ず [藻屑] 水中にある藻などの芥(がら)。略して“もく”といふ。

も-く-せん [木船] “きぶね”の②に同じ。→同項。——**ぼ-けん** [木船保險] 木造船舶に對する海上保險で、本保險は木船保險法に基づき、木船保險組合が普通保險及び戰爭保險の元受をなし、これを政府が再保險する。

も-く-そ-く [目測] 計器を使用せずして目標の距離を目で見つ測定すること。

も-くて-き-こ-う [目的港] 仕向港・到達港に同じ。→同項。

もくてつこうぞうせん [木鐵交造船] 龍骨・船首材・船尾材その他内外の兩板には木を用ひ、肋材・梁材・内龍骨等には鐵或は銅を用ひて造つた船舶。略して木鐵船といふ。

もくひょうずきしずめに [目標附沈荷] 難船の時、船脚を軽くするため、浮標を附けて水中に投ずる貨物。

もくひょうてい [目標艇] 探照燈の探照稽古の際、その目標となるために所要の地點に赴き、各艦の探照を始めた後、運動を起し潜航してこれに近接するやうに行動する艦載水雷艇・内火艇又は汽艇。射撃(空放)訓練の際に併用する。

もぐり [潜] 潜水夫の俗稱。

もけいせん [模型船] 船の用途・航海方面などを條件として、理想的の船を建造するため、曠でその船體を計畫どほりの模型につくり、實驗用のプールに浮べてこれを走らせ、船型・推進器・機關の馬力などに就いてあらゆる試験をする。

もじあみ [縋子網] 漁網の網地の種類。編ますに織つたもの、極めて細目でアミや稚魚を漁獲する。“もじ”又は縋子織ともいふ。

もじり [釜] “うへ”に同じ。→同項。

モスクイートフリート [mosquito-fleet] 蚊艦隊。→同項。

モーター [motor] 發動機。——**シップ** [motor-ship] ディーゼル機關で推進される船舶。(ディーゼル船・モーター船) ——**セーラー** [motor-sailor] 小帆を備へた大型馬力の巡航船から、補助發動機を備へた純帆走ヨットに至る迄の變態的な補機巡航ヨット。——**ボート** [motor-boat] 發動機艇(船)に同じ。→同項。

もたれ 流の岸に近い浅い所より、急に流れの中心へ深くなつてあるその傾斜の個所。

もちこし [持越] 運送品を誤つてその仕向港以遠の港まで運送すること。

もちしお [望潮] 陰曆15日の最も高い潮。

もちば [持場] 自分の受持の場所。己れの配置されてある所。

もちぶね [持船] 所有船。

もつく [木工] 工作兵のうち木具工業に従事する者の舊稱。

もっこうはん [木甲板] 木で張つた甲板。銅甲板の對。

もつそうせん [持双船] ①鐵船數隻を並べ木材を横桁にしこれに捲揚機

を取付け人力若しくは動力によつて捲く装置を施してある沈没船引揚作業用の船。②日本式捕鯨法にて捕獲した鯨を吊つて陸岸に運搬する船。

モデルボート [model-boat] ヨットの模型や動力を備へたパワーボート・商船・駆逐艦などの寫實的模型。池や川に浮べて走らせ設計の成績を競ふ。このために鐵筋コンクリート池を造り周圍に觀覽者を立たせる特別の設備を施したものである。

もとがま [主罐] 船舶の推進用に使ふ蒸氣を發する主要なる罐(かま)。(主汽罐・メインボイラー(main-boiler))

もときかい [主機械] 推進器を回して、船舶の推進用をつとめる機械。略して主機といふ。(メインエンジン(main-engine))

もとこぎぶね [元漕船] 鯛縛網漁業を行ふ際に、網船・船頭船・浮子遣(うきぢり)船と協同作業する船で、振網を積み沖に到り、魚見役の指圖によつて2艘の元漕船は、各分載した振網の兩端を結合し、これを海中に投じつつ左右に漕き開いて半月狀に延べ、網の兩端を曳き海岸に向つて進むもの。元漕船には各々先曳の漕船を附けるのでこの名がある。

もとじょうきくだ [主蒸氣管] 主塞止弁(せきしびん)箱に装置した大形の管で、蒸氣を主機械に引込むもの。

もどせ [戻せ] 轉舵した後、針路に向つて船首を回轉せしめるために舵柄を戻す操舵法をいふ。(イージーヘルム(easy-helm))

もとちぬれ [元地濡] 積込み前に受けた積荷の濡損。

もとのはり [元の針路] 操舵號令詞。一時的變針を復舊せんとするときに用ひる。

もとぶね [本船] 小舟をつれてある大きな船を小舟から指していふ語。(親船(おやぶね)・本船(ほんぶね))

もどり [戻] 物を刺して引懸けるために、鉤(かぎ)の先端に逆に出てある尖(とがり)、釣針や鉗(かす)の戻。(かり・かかり)

モニターアンカー [monitor-anchor] 荒天になつた場合に、碇泊中のヨット等が錨索の中途に小型錨を更に縛りつけ、二つの錨で碇泊の目的を達せしめようとする、その小型錨。

モニター [monitor] 回轉砲塔を有する吃水浅く舷の低い海防艦で、沿岸の作戦に使用するもの。

ものあげば [物揚場] 積荷を陸揚げする場所。(陸揚場・荷揚場)

- ものずき** モノヅキ [物附] 鯉の游泳群で、鯨や漂流物についてゐるもの。
- ものほしずな** モノホシズナ [物乾索] 艦船で洗濯物及び濡物を乾すのに用ひる索。(クロス-ライン(clothesline))
- ものみぶね** [物見船] 見物のために乗る船。(観覧船)
- もば** [藻場] 海底に海藻の生えてゐる所。多くの魚の産卵場となり、幼魚の安息場となるので大切にす。
- ももさかぶね** [百積船] (古) 多量の荷物を積む大きな船。また、百尺もある大船。“ももさかのふね”ともいふ。
- もや** [霧・靄] 霧の深いもの。
- もやい** モヤイ [舫] 舫索(舫)の略稱。→同項。——**かかり** [舫繋] ① 錨を入れた船に、次の船をもやひ、又その船に他の船をもやひ、幾艘もこのやうにして碇泊すること。② 出港直前に錨鎖を繋索に代へて浮標に繋留する状態をいふ。——**ぐい** グイ [舫杵] 船もやひする時船をつなぎおく杵。——**ずな** ズナ [舫索・繋綱・纜] ① 船をつなぐ綱。船と船とを繋ぐ時のみならず船を岸につなぐ綱をもいふ。② 短艇の艇首に取附けた索で、艇を繋留するために用ひるもの。(ペインター(painter)) ——**ぶね** [舫船] 互に繋ぎ合せて泊つてゐる船。——**むすび** [舫結] 舷外に作業する時、身を托し又は短艇の舫索(舫)を縛著繋留する時など多くの作業に用ひられる結索法。(ボーライン-ノット(bowline-knot))
- もやう** モヤウ [舫ふ] ① 船と船とを繋ぐ。② 船を繋ぎ止める。
- もり** [鋸・鏢] 魚類・海獣などを突き刺す漁具。
- モールス-しんごう** モールス [モールス(Morse)信號] 発光又は音響により文字を表はす符號を發して行ふ信號。
- モールド** [mould] 造船の時に船體各部を實物大の圖にあらはしたもの。
- もろこしぶね** [唐土船] 唐船(唐)に同じ。→同項。
- もろたぶね** [諸手船] 古代に用ひられた刳舟(舟)の一種で、多くの人が漕ぐ早い舟。現今島根縣國幣中社美保神社の12月3日に行はれる神事に使はれる船。天孫降臨の際大己貴尊(大己貴)の命を奉じ、稻背経尊(稻背)が美保關の事代主神(事代主)に使された時にこの舟を用ひられたといふ。
- もん** [門] 大砲や魚雷發射管などを數へる語。
- もんきょう** モンキョウ [門橋] 鐵舟2~3隻を適當な間隔に開きならべ、その上に桁を架し板を敷いたもの。陸軍で馬匹・車輛などを渡河させる際に用ひる。

モンスーン [monsoon] 季節風。→同項。

や

- やえ-の-しおじ** ヤエノシオジ [八重の潮路] 遠い海路。遙かな潮路。
- やおあい** ヤオアイ [八百會] 潮などが方々から集り合ふ所。
- やかたぶね** [屋形船] 家の形に屋根の設けてある和船。略して“屋形”ともいふ。小なるを小屋形若しくは屋根船と稱す。
- やかん-せんとう** [夜間戦闘] 夜中に行はれる戦闘。略して夜戦といふ。晝間戦闘の對。
- やきくさぶね** [燒草船] 昔の船戦に燒草を船に積んで敵船に近づき、風上からこれに火をつけて敵船を燒く戦法に用ひた船。
- やきだま-きかい** [燒玉機械] 重油機關の一種で、燒玉と稱する球形部を氣筒の先端に造り、それを豫め熱し置き、氣筒の内部に噴射した重油に點火しディーゼルと同様な作用をする機關。(セミディーゼル機關)
- やく-いん** ヤクイン [役員] 軍艦乗組の下士官・兵は平常大抵1~2ヶ月づつ交代で艦の保安清潔を保つ役に當る、その人をいふ。衛兵・傳令・取次・内外舷掛・掃除番・厠番・從兵・酒保掛・守燈番・艦底掛等。
- やくざいか-しかん** ヤクザイカシカン [藥劑科士官] 海軍藥劑少尉~海軍藥劑少將。藥劑の事務に従事する海軍高等武官。
- やく-そう** [躍層] 湖や海の溫度は、表面から或る深さに達すると、急に冷くなり、それより上層にも下層にも溫度の急激な變化がない。この溫度の急に降るところを水温躍層といふ。
- やく-のう** ヤクノウ [藥囊] 15種以上の砲では、火藥を囊へ入れて用ひる。このふくろを藥囊といひ、大口徑砲には1發分の火藥として2囊を用ひることがある。
- やく-ぶね** [役舟] ① 民家の船持より公役に出した船。(課船・御用船) ② 公用に従事する船。(官船)
- やく-みず** ヤクミズ [厄水] 三陸地方で春先に、海水が急に濁つて變色する現象を

いふ。他の地方では“潮腐れ”“濁り水”などと呼び、大抵の年は一時魚が捕れなくなる。

やぐら-ぶね [矢倉船] 敵状を見、又は矢等を發射せんがための樓、即ち矢倉の設けある船。(樓船（樓船）)

やぐら-もの [矢倉者] 中古水軍で、楯取頭（楯取頭）に次ぐ職名で、軍船の前部櫓（櫓）の上を支配した者。

や-こう （ヤカウ） [夜航] 夜間に航海すること。(よぶね)

や-こう-ぐも （ヤカウグモ） [夜光雲] 極めて特殊な雲で、日没後なほ空に光つて見える雲。非常に高く65~160千位。非常に高い所に出るため、地上では全く日が没しても、なほ地球の陰にならず太陽の光が當つてゐるためである。(眞珠雲)

や-こう-ちゅう （ヤカウチュウ） [夜光蟲] 原生動物の一。海水中に群れゐて、夜分に燐光を發するもの。

やしなわ-あみ （ヤシナワアミ） [椰子繩網] 海苔（ノリ）の養殖に用ひるもので、網地を種子の附著層に水平に張つてこれを附著成長させる。

や-しゅう （ヤシュウ） [夜襲] 夜間に敵を襲ふこと。

や-しょく [夜食] 午後10時より午前4時迄の間に業務に従事した者へ、航海中などに給與する食事。

やす [簞・魚叉・猎] 漁具の一種。長柄の頭に鐵製の3~7股の叉（マ）があつて、水中に潜んでゐる魚を突刺して捕へるために用ひるもの。

や-せん [夜戦] 夜間の戦闘。

ヤ-ダ-ム [yard-arm] 桁（ヤド）の両端の細くなつてゐる部分で、索具を裝する所。

やちゅう-しょうじゅんき （ヤチュウショウジュンキ） [夜中照準器] 艦砲の夜間照準に使用する器具。2個の小電燈を以て、照星及び照門を照し、照準を行ふ。魚雷發射の際も亦同様である。

やちゅう-にやく [夜中荷役] 夜荷役に同じ。→同項。

やっ-きょう （ヤツキョウ） [藥莢] 金屬で筒のやうな形に作り、内に火薬を入れ銃砲に裝填して發射するに用ひるもの。

やっこ-みよし [奴船首] 荷船の繩（ひな）のない船首。⇒髻（カマ）。

ヤ-ド [yard・桁] 桁（カ）。→同項。

やとい-ボーイ （ヤトイボーイ） [傭ボーイ] 艦船に傭はれてゐる給仕の通稱。(從僕)

やな [築] 定置漁業の一。木をならべて水を堰き止め、一部をあけ、そこへ上流から流れて來る魚を、簀の上に受けて捕へる装置。——**うんじょう** （ウんじょう）

[築運上] 江戸時代に築を設けて漁獲するものに公課した租税。

やね-ぶね [屋根船] 川遊に用ひる屋根のある小舟。(日除船（日除船）)

やはん-ちよく [夜半直] 正子より翌日午前4時までの當直勤務。ミッドル-ウォッチ(middle-watch)ともいふ。

や-びき [矢引] 漁業者常用の長さの單位。矢を引く姿勢の兩手の拳から拳までの長さ。

や-ひょう [野氷] 海岸附近に生長した氷の、大區域に互つて存するもの。初めは薄く次第に厚くなる。

や-ひょう （ヤヒョウ） [夜標] 航路標識の一。夜間航行の目標となるため、燈臺などの如く點燈装置のあるもの。⇒航路標識。

や-ほ [彌帆・矢帆] ①大船の舳に張る小帆。②本帆に重ねてかける帆。——**はしら** [彌帆柱・矢帆柱] 大型和船の船首にある彌帆（彌帆）をかける小さい帆柱。(やほのはしら)

やま 釣絲の俗稱。“よま”と稱する地方もある。

やまじ (方) 夏から秋にかけてよく吹く南寄りの強烈な風。颱風に伴ふ暴風で瀬戸内海全地域に分布されてゐる語。

やまじ-いかり [山字錨] その形状は十字錨とほぼ同じく、錨孔に引込んだ儘收錨し得るため筭がついてゐない。近時艦船の大部は主錨又は副錨としてこの種の錨を用ひる。(ストックレス-アンカー(stockless anchor))

やま-だて [山立] 中古水軍で航海の事を掌つた航海長の如き役目の職名。

やま-ちよう （ヤマチョウ） [山帳] 良好な釣場の位置を記録したもの。漁場から見た陸の山々や煙突・大樹などの重なり具合等をスケッチした帳面。次回に釣場を探す場合の資料とするもの。

やまとがた-ぶね [大和型船] 西洋型船に對する日本船の代名詞。大和船ともいふ。

やま-み [山見] ①魚群を見張すること。②舟を乗り出して岩礁の所在を知るために陸上の目標をつきとめること。

や-り-だし [遣出] 船の舳に突出してゐる帆桁。(斜檣)

やわた-ぶね （ヤワタブネ） [八幡船] ばはん船の別名。→同項。

ヤ-ン [yarn] 纖維を右に撚り合せたもの。

ヤンノウ-せん [ヤンノウ船] 外房州等で鮪延縄漁業に使用された和船。船首部と船尾部とに水密な室を備へ、幾種かの櫓を持ち、舳を高くし、割合に長さをつめてある。略してヤンノウとも呼び、勇敢に活動したことで聞え、遭難船も多く出した。発動機船になつて今は無い。

やんばる-しん [山原船] 琉球の船の一種。支那ジャンク型式を採り日本式縫釘で釘着した大型の船で、兩舷には所謂眼玉装飾を施してあるもの。

ゆ

ゆあつて [油壓手] 潜水艦のペント弁開閉の配置に就く兵員。

ゆう-えい [游泳] 水泳。——せいぶつ [游泳生物] 自分の力で水中を游泳する生物の總稱。⇒游泳動物。——そう [游泳槽] 長途航海中、船客の無聊を慰めるために、優秀客船内に設けてある小規模なプールで、十数名同時に游泳することが出来る。この設備の無い船では大きなケンバスで作つた浴槽で、熱帯地方航行中船客を游泳させるやうにしてある。

——たいけい [游泳體形] 水面に伏し又は仰臥するのを平體、水面を枕とするやうに横臥するのを横體、水中に立つのを立體といふ。——どうぶつ [游泳動物] ネクトン(nekton)の譯語。浮游生物(プランクトン=plankton)の對語で、自力で游泳する動物の總稱。

ゆうかん-びょう [有錨船] 筭(釣)のある錨。

ゆう-き [友機] ①編隊の各飛行機が相互間に於いて自機以外の飛行機をいふ。(列機) ②一般に飛行機が他の味方飛行機を呼ぶ場合にも用ひる。

ゆうきゃつ-こ [有脚湖] 水の流出すべき河川を有する湖。

ゆうきん-るい [游禽類] 水上を游泳する鳥類。

ゆう-げき [遊撃] 豫め敵を定めず、時機に應じて味方を援助し、敵を攻撃すること。——たい [遊撃隊] 遊撃を行ふ艦隊。

ゆうこう-こ [有口湖] 有脚湖に同じ。→同項。

ゆうこう-すいしん [有效水深] 船舶の航行に利用し得べき河海の深さ。

ゆうこう-ばりき [有效馬力] 仕事に使用し得べき正味の馬力。(實效馬力)

ゆう-しお [夕潮] 夕方に干満する潮。

ゆうしゅう-かい [有終會] 海軍有終會の略稱。→同項。

ゆうしゅう-せん [優秀船] 船型・設備・性能・速力等、在來船より優秀なる船舶。

ゆうしょう-き [優勝旗] 短艇競漕・陸上競技・小銃射撃などに優勝した艦船部隊、その他の團體に授與される旗。

ゆうしょう-はい [優勝杯] 戦技に優秀なる成績を挙げたる軍艦に對し、海軍大臣より授與せられる銀杯。その他短艇競漕の優勝艇に授與せられる杯など。

ゆうしょう-りゅう [湧昇流] 沖の方向に海流が流れて、海岸の表面水を運び去ると、下から冷たい水が上つてきてこれを補ふ現象。

ゆうすい-るい [游水類] 海産哺乳類中の一種。現在は海洋に棲むけれど、元は陸上に於ける哺乳類たりしもの。鯨・海豚(イルカ)の類。

ゆう-せい [遊星] 太陽を中心として、各自の軌道に従つて公轉する星の總稱。質量の大なる水星・金星・地球など9個を大遊星、その他を小遊星といふ。(惑星・行星)

ゆうぜい-ひん [有税品] ①關稅定率法その他により通關の際關稅を賦課せられる貨物。②又一般的に稅を賦課せられる貨物。無税品の對。

ゆう-せん [遊船] 遊びの船。遊山船。鮎獵見物の船など。——やど [遊船宿] 遊船を仕立てて貸出すことを業とする家。(ふなやど)

ゆう-せん [遊線] 測程線に取り附けた扇形板を海中に投じた時、船尾に起る渦水は扇形板の流出を暫く妨げるから、その渦水をかばすために與へた索の餘裕。

ゆう-せん [郵船] ①郵便船。→同項。②日本郵船會社の略。③渡し船。

ゆう-そく [優速] 他の艦船に比較してまさつてゐる速力。

ゆう-ち [誘致] 我が兵力を示して敵を牽引する作戰行爲。

ゆうちょう-かせん [有潮河川] 海洋に注瀉する河川はいづれもその河口に多少潮汐干満の差があるが、その河口に出入する海潮が河流よりも強くそのために河流の性質に及ぼす勢力の大なるものをいふ。その河身を河區・潮區に分ち上流の潮汐を感ぜざる部を河區、その下流で大満潮に際し干満の差ある區域を潮區といふ。

ゆう-てん [誘轉] 曳航の際、被曳船も曳索の受ける抵抗を減少せしめる

- ために推進器を回轉すること。
- ゆうとう-きしょう 129 [優等徽章] 海軍優等徽章の略。→同項。
- ゆうどく-ぎょ 100 [有毒魚] 毒質を具有する魚類。魚を食べて中毒を起す場合と、魚に觸れることによつて毒性を與へられるものとの2種類がある。
- ゆう-なぎ ユウ [夕風] ①夕方、波風がなぐこと。②夕方海風と陸風とが交替する間、一時海上が無風の状態となること。
- ゆう-ばく 100 [誘爆] 砲弾や魚雷などが命中したとき、その爆発により艦自體の火薬が爆発を惹き起すこと。
- ゆう-はつ 100 [誘發] 爆発した火焰が誘因となつて、他の爆発物を發火させること。
- ゆうびん-き 100 [郵便旗] 命令航路船或は郵便物を搭載してゐる船であることを示す旗。
- ゆうびん-せん 100 [郵便船] 郵便物を運送し、兼ねて航海中郵便事務を取扱ふ船舶。(郵船)
- ゆう-ふう [雄風] ①海上に白波がやや盛んになる程度の風。②秒速10.8～13.8米の風。
- ゆうほ-かんばん 100 [遊歩甲板] 最上甲板、若しくは短艇甲板の次の甲板で、船客が遊歩・運動する甲板。
- ゆう-よく 100 [遊弋] 警戒等の目的を以て、艦船が海上を徘徊航行すること。——かいめん [遊弋海面] 艦艇が作戦行動上徘徊航行する一定の海上區域。
- ゆうらん-せん 100 [遊覽船] 遊覽客のために使用する船。(遊船)
- ゆう-りょう 100 [遊漁] 慰みとして釣や投網などによつて魚を捕ること。
- ゆう-わく 100 [誘惑] 漁法の名稱。誘ひ惑はして魚を集める方法で、餌を撒いたり、火光を利用したりして、捕獲に不便な處に居るもの、散らばつて居るものを集めたり、游泳迅速のものを久しく留ませたりする方法。
- ゆきあい-ぶね 100 [行合船] 反對の方向から航行して來て互に行き合ふ船。
- ゆき-あし [行脚] 船舶の機關を停止した後なほその惰力で進行すること。
- ゆきなり-あみ [行成網] 定置漁業臺網類の一種。鰈の行成網は代表的。
- ゆ-しゆつ [輸出] 内國より外國に貨物を移出すること。輸入の對。——こう [輸出港] ①内國貨物を外國に輸出する港。②外國貿易港にして比較的輸入よりも輸出が多い港の相對的呼稱。輸入港の對。——しんこ

- くしよ [輸出申告書] 貨物の輸出免許を受けるため税關に提出する書類。
- ちようか 129 [輸出超過] 一國の輸出總額が輸入總額を超過することないふ。輸入超過の對。
- ゆしゆつにゆう-こう 100 [輸出入港] 外國貿易港に同じ。→同項。
- ゆ-そう 100 [油槽] 機械室にある油を貯へる鐵製の函。(オイル-タンク(oil-tank)) ——せん [油槽船] 石油・重油その他の液狀貨物を輸送するための特殊貨物船。(タンカー(tanker))
- ゆ-そう [輸送] 船・車などで貨物を送ること。——かん [輸送艦] 軍需品や人員の輸送を主要任務とする艦種。排水量1000噸以上のものを一等、未滿のものを二等輸送艦と稱し、その首腦者を輸送艦長といふ。——せん [輸送艦] 軍需品その他の貨物運搬に用ひる船舶。
- ゆ-とり [捨取・湯取] (古)船中に滲入して溜つた浴(ヲカ)を汲み取る船具。(あかとり杓)
- ユニオン-ジャック [Union Jack] 英國國旗。英國軍艦艦首旗。
- ゆ-にゆう 100 [輸入] 外國より内地に貨物を移入すること。輸出の對。——しんこくしよ [輸入申告書] 貨物の輸入免許を受けるために、税關に提出する書類。仕入書の添附を要する。——ちようか 129 [輸入超過] 一國の輸入總額が、輸出總額を超過することないふ。輸出超過の對。
- ゆにゆう-こう 100 [輸入港] ①外國貨物を輸入する港。②外國貿易港にして比較的輸出よりも輸入が多い港の相對的呼稱。輸出港の對。——ほんせんわたし [輸入港本船渡] 貨物の受渡が輸入港の本船上にてなされること。賣買條件としての本船渡しの一。本船積込渡の對。
- ゆ-ぶね [湯船] 昔、江戸の船著場などで浴槽を設備し、料金を取つて入浴させた船。
- ゆ-みつ [油密] 油の漏らないこと。これには鋸の間隔を水密のときより更に小さくする必要がある。

よ

- よいだし^{ヨイダシ} [宵出] 釣舟などを前日の宵の内に出すこと。
- よいのみょうじょう^{ヨイノミョウジョウ} [宵の明星] 夕方、西天に見える金星。
- ヨーイング [yawing] 船や飛行機の下下・前後・左右の動揺が一緒になったもの。
- よう^{ヨウ} [洋] 海の大きいもの。地球上の海面を、最も大きく区分するに用ひる。太平洋・大西洋・印度洋はその例。
- ようい [用意] 前以て或る作業に要するそれぞれの事を支度すること。“出港用意”・“發射用意、打て”などはその例。
- ようかき^{ヨウカキ} [揚貨機] 綱又は鎖を捲きつける捲胴と、これを回轉させる装置から成り、捲網の先につけた荷物を揚卸するに用ひる甲板機械。動力として汽力・電力・人力を用ひる。(捲上機・ウインチ(winch))
- ようかく-とろ^{ヨウカク-トロ} [洋角燈] 艦内で使用するブリキ製の手提燈で、甲板士官・先任衛兵伍長等の中・下甲板點檢の際携帯するもの。その他夜間の用途が甚だ多い。
- ようかんすい^{ヨウカンスイ} [養罐水] 罐の水が航海・碇泊中に蒸發して不足するに對し、これを補充する清水。
- ようき-かいゆう^{ヨウキ-カイユウ} [幼期洄游] 稚魚がその成育場から成魚の成育場へと移動すること。
- ようき-せん^{ヨウキ-セン} [揚旗線] 旗を掲揚・降下するため、橋頭・旗竿などに取附けた細い麻索。
- ようぎょ^{ヨウギョ} [洋魚] 産卵をしたり餌を求めするために、棲息するところを變へて洄游する魚。磯魚又は沿岸魚の對。
- ようぎょ-ち^{ヨウギョ-チ} [養魚池] 魚類を人工で養殖するための池。
- ようぐ-こ^{ヨウグ-コ} [要具庫] 各分隊又は各科の要具を格納する倉庫。砲術科要具庫・第一分隊要具庫はその例。
- ようげき^{ヨウゲキ} [要撃] 來襲する敵を途上にまちぶせして攻撃すること。

- ようげき^{ヨウゲキ} [邀撃] 敵をむかへうつこと。
- ようこう^{ヨウコウ} [要港] 軍港のほかに特に警備を要する海岸に設けられた軍事上の港。各要港には警備府が置かれてある。⇒警備府。——ぶ [要港部] 警備府の舊稱。→同項。
- ようさい^{ヨウサイ} [要塞] 國防上重要な土地に、永久築城によつて鞏固に守備した獨立せる防禦地域をいふ。——ちたい [要塞地帯] 國防のため建設した諸般の防禦營造物の周圍一定の區域の稱。——とう^{トウ} [要塞島] 國防上必要な島に設置した永久築城。コレヒドール島はその例。
- ようさい-じょう^{ヨウサイ-ジョウ} [洋塞城] 浮連城に同じ。→同項。
- ようさい-ほう^{ヨウサイ-ホウ} [要塞砲] 海岸の要塞に備へ、沿岸防禦や港灣施設の保護に任ずる大砲。戦闘任務の上から、舷側射撃用と甲板射撃用の2種に大別される。——へい [要塞砲兵] 海岸要塞の守備に任じ、敵艦船・航空機を撃破し、敵の攻撃上陸を防遏する重砲兵(陸軍兵)。
- ようじょう-こうほう^{ヨウジョウ-コウホウ} [洋上航法] 何等陸影を視認し得ない場合に、天文・推測・無線の各航法によつて航空する術をいふ。(海洋航法)
- ようじょう-ほきゅうろ^{ヨウジョウ-ホキウロ} [洋上補給路] 海洋による物資の補給路。
- よう-しょく^{ヨウ-ショク} [養殖] 有用な魚貝類や海藻類を保護して、養ひふやすこと。
- よう-しん^{ヨウ-シン} [要津] 重要な船着場(つど)。
- よう-しん^{ヨウ-シン} [洋心] 海洋のまん中。
- ようせき-さいかのうりょく^{ヨウセキ-サイカノウリョク} [容積載貨能力] 容積による船舶の載貨能力 ⇒ 載貨容積。
- ようせき-トン [容積噸] 輕量貨物の容積單位で、40立方呎即ち我が國の40才(40立方尺)を以て1噸とする。
- ようせつ-せん [銲接船] 銲締めせず、加熱銲融して接ぎ合はした鐵板で船殻を造つた船。
- よう-せん^{ヨウ-セン} [陽船] ①昔、舟戰(フネバ)に用ひた輕快の小舸(コフネ)。②昔の水戰で陰陽の備をなした時、その陽の備にあてた船。陰船の對。
- よう-せん [備船] 貨物又は船客、或はその兩者を運送する目的を以て、船舶の全船腹又は一部を借切ること。期間を以て定めたものを期間備船、航海を以て定めたものを航海備船といひ、何れの場合も運送人(船主)が運送の任に當る。(チャーター(charter)) ⇒ 全部備船・一部備船。——しゃ [備船者] 備船をなす者。(備船主) ⇒ 備船。——しゅ [備船主] 備船

者に同じ。→同項。——りょうリョウ [傭船料] 傭船者が傭船契約に基づき船主に對して支拂ふ運賃。(チャーターレージ(charterage))

ようせん-けいやく [傭船契約] 傭船に關し傭船者と船主との間に締結する契約。(チャーターパーター(charter-party)) ⇒傭船。——しよ [傭船契約書] 傭船契約締結に當り、その契約内容を明らかにするため、船主と傭船者間に於いて契約條項を詳記して作製する契約書。⇒傭船。

よう-そろ [宜候] 操舵號令の一つ。取舵(しよ)或は面舵(しよ)の號令を下して、左或は右へ船首を轉じ、所定の針路に船首が向つたとき、“眞直に進め”と號令するのに“ようそろ”といふ。

ようだん-きヤウダンキ [揚彈機] 彈藥庫から砲側へ彈丸を引揚げる機械。

ようだん-やくきヤウダンヤクキ [揚彈藥機] 彈藥庫若しくは彈藥通路より砲臺又は砲甲板等に彈藥を配給するための揚彈藥裝置。

ようてい-かんヤウテイカン [揚艇桿] 艦載水雷艇・汽艇・ランチ等、固有のダビットを有せざる大艇を、短艇甲板に揚収する際に使用するメイン-デリックで、通例蒸氣力を原動力とし、檣に上張索をとり、前後の側張索と後張索を操作してこの作業を行ふ。

ようてい-きヤウテイキ [揚艇機] 船舶に備附けられた短艇の揚卸しに用ひる機械。

ようてい-さくヤウテイサク [揚艇索] 短艇上下用の通索。前索と後索とある。(ボートフォール(boat-fall))

よう-とうヤウトウ [洋島] 海洋中に孤立し、大陸と地質及び動植物などに就いて何等の關係のない島。陸島の對。

よう-どうヤウドウ [佯動] 作戰上敵の兵力を分割させるやうな目的で、味方の一部隊を動かして敵をして判断を誤らせる行動。

よう-とかヤウトカ [陽渡河] 主力が渡河するやうに見せかける偽りの渡河。

よう-にん [傭人] 軍艦に乗組んである洗濯夫・理髮人・割烹人・從僕など。

よう-びょうヤウビョウ [揚錨] 投錨して水中にある錨を船に揚げること。(拔錨)

——き [揚錨機] 錨の揚げ下げ、索具の捲入(出)をすのりに用ひ、錨鎖車・車地・車地機械の各部より成り、蒸氣機械或は電動機で起動させる。小汽船等では車地に挺子(てい)を入れ人力で捲くものが多い。古くは錨を舷側に引揚げるため起錨機といふものを用ひた。(捲上機・ウインドラス(windlass))

よう-もくヤウモク [要目] 海軍で艦艇の大きさや、搭載してある兵器の數、機關の種類などを表はすもの。

よう-れいヤウレイ [養蠶] 牡蠶(カ)を養殖すること。

よか-れん [豫科練] 甲・乙・丙種飛行豫科練習生の略稱。→各項。

ヨーク [yoke] 横舵柄(しよ)。→同項。

よく-さかん [抑鎖鐔] 錨鎖管の直下に在つて、樞軸により旋回し得るやうに裝着した鐵挺。これと錨鎖管との間に錨鎖を壓着抑止する用をなすもの。(制鎖器・コンプレッサー(compressor))

よく-そうヤクソウ [翼艙] ①船艙又は下甲板の舷側に接する部分の物品貯藏場所。(ウイング(wing))②油槽船の左右兩舷側上部にあるタンク。ウイング・タンク、別にサンマー・タンク(サンマー)の名稱がある。③船の左右兩舷側上部にある水槽をカンチレバー・タンク(cantilever-tank)といふ。(舷縁水槽)

よくたん-とう [翼端燈] 飛行機の左右翼端及び尾翼端につける赤・緑・白の光によつて飛行機の位置と飛行方向を示す燈火。

よくちゅう-きヤクチュウキ [抑駐器] ストッパー(stopper)。→同項。

よくりゅう-せんヤクリウセン [抑留船] ①一國の法規を遵守せざるため又は復仇のため、その國の権力下に置き差押へられたる外國船舶。②國際法上、交戦國又は中立國によつてその権力下に置き差押へられたる敵國又は中立國の艦・船舶。

よこ-およぎ [横泳] 體を横にして浮き、扇足を用ひ、下の手を前方に伸ばし、上の手で水を搔いて進む泳法。

よこ-きかんヤコキカン [横機關] 横に据附けた機械(キ)で、現時これを使用することは稀である。(横置機械・横機械)

よこ-ずけヤコズケ [横附・横著] 船を岸壁又は棧橋などに繋ぐこと。解纜の對。——えいこうヤコエイコウ [横附曳航] 曳船を被曳船(ヒ)の舷側に横附して曳航すること。“よこびき”ともいふ。

よこ-とも [横艦] 和船の劍先船(けん)などにある艦の形式。昔の大和・河内の荷物舟の類。

よこ-ながし [横流] 潮流に直角に船を浮べて流すこと。

よこ-なみ [横浪] 船舶の龍骨と直角に進行する浪。船の正横から打ち寄せらる波。

よこ-ばね [横刎] 海岸の浸蝕を防ぐ護岸法として築いた海岸に直角な突堤。

よこ-ばり [横梁] 船の舷側に強みを與へる材。

よこ-まく [横幕] ブリッヂ・最上甲板などの周圍に張る日除け・風除けの

幕。(スクリーン(screen))

よこれ [汚] 船の水線以下の船底に、海藻類や介殻類が寄生して、次第に成長繁殖すること。船底を腐蝕せしめ、水との摩擦抵抗を増加して、船の速力を減殺する。

よ-じお [夜潮] 夜間に差引きする潮。

よじ-しんごう [四字信號] 國際信號旗中の4旗で、地名・船名を表はす信號。

よせ-うち [寄打] 多数の船が共同して、魚を取巻いて投網を打つこと。

よせ-え [寄餌] 糠や麥などを炒(い)り、粘土(か)に混合したもので、魚類を寄せ集めるのに用ひる餌。

よせきずみ-かもつ [餘積積貨物] 船舶の餘積を利用して積んだ荷物。

よせ-なみ [寄波] 寄せては碎ける波。——のり [寄波乗] 短艇で寄せ波を乗切る遊戯。——ぶね [寄波船] 寄波を乗切るために浮力を大にした船。

よた [津浪] (方) 夏の終り近く、外洋方面から打寄せ來る大波。晴れて風のない日でも襲來して往々船を碎くことがある。“よた”ともいふ。和泉の濱でいわれる語。

よつあし-ぶね [四足舟] 小さい通船で、日覆屋形を設けるため四本柱のある船。

よつで-あみ [四手網] 方形の網の四隅を竹竿で張つたもの。この網を水底に沈め、魚が網の上に来て乗るか、又は魚を驅つて網に乗せ、引き上げて捕る。略して“よつで”ともいふ。

ヨット [yacht] 快遊艇又は快走艇の意。帆走艇・汽艇・モーターボート等もこれに屬するが、我が國では普通帆走ヨットにこの語を用ひる。巡航艇と競走用ヨットとあり、その型式は艤装や構造によつて種々ある。帆を持たない大型のモーターヨットは、快遊船といふ。——ハーバー [yacht-harbour] 防波設備や棧橋・繫留杭・船具置場などの設備を施したヨット繫留池。——マン [yachtman] ヨット操縦者、又はヨット所有者。

よつ-の-ぶね [四舶・四船] 遣唐使の乗つた船。遣唐使は正使・副使・判官・主典の4使があつて、4艘の船で遣はしたからこの稱がある。

よつめ-いかり [四爪錨] ①大和船の使用した4本の爪で海底を搔く様式の大錨。千石船は40~80貫の錨7~8挺を備へ、大船には100~150貫の錨もあつた。②短艇の碇泊・示錨浮標の鈎捉、或は海中に落した錨・錨鎖又は物

品などの探索に使用する爪が4本ある小さな錨。歐米式二爪錨の對稱。

よつめ-いわ [四目岩] 底刺網、又は底延繩・振繩などの中央部につける沈子。漁業者の俗稱。

よど [淀] 水の流れがゆるくなる所。——せ [淀瀬] 水流が淀んでゐる瀬。

よ-に-やく [夜荷役] 船舶が特に出帆を急ぐ場合などに、夜間になす荷役。⇒荷役。

よび [呼] 喇叭などの號音で呼集すること。總員呼・士官呼・候補生呼などといふ。

よび-えき [豫備役] 軍人服役の一。現役終了者が服役し、海軍では士官現役年限年齢後5年まで、下士官は7年、志願兵は11年、徴兵は12年。

よび-かん [豫備艦] 特別の役務に服せず、在籍軍港にあつて改装・修理などを施行する軍艦。在役艦の對。

よび-ぎ-よらい-ほじゅう-タンク [豫備魚雷補重タンク] 潜水艦に搭載の豫備魚雷の重量の補填をなすもので、通常各魚雷の格納位置に設けてある小タンク。

よび-しかん [豫備士官] 高等商船學校出身の海軍豫備將校で、豫備佐官と、豫備尉官との總稱。又、大學・高等専門學校の卒業又は在學者から採用する豫備學生・生徒出身の者で、飛行機の操縦・偵察・整備・防備その他に従事する海軍豫備將校をいふ。海軍少尉—海軍大佐の官階がある。

よび-ずな [導索] 迎索(か)と同じ。→同項。

よび-そくりよく [豫備速力] 全速力と航海速力との間に存する餘裕をいふ。

よび-びょう [豫備錨] 船首錨の豫備として船首樓附近に備へる豫備の錨。(シート-アンカー(sheet-anchor))

よび-ふりよく [豫備浮力] ①潜水艦の水中排水量と艦の重量の差。②滿載吃水線まで船體を沈めたとき、水線上に乾舷を残すことによつて存する船體の餘剩浮力。

よめいり-ぶね [嫁入船] 日本型帆船の船齡11~12年目までの賣船。

よ-めん [餘面] 滑弁が行程の眞中にある時、蒸汽口を覆つて餘りある部分をいふ。“累面”ともいふ。外側即ち蒸汽側にあるのを外餘面(か), 内側即ち排汽側にあるのを内餘面(か)と稱す。(ラップ(lap))

より [寄] 魚の集團。漁師の間に用ひられる語。

よりあ-い-ぶね [寄合船] 進貢船の内、幕府の遣明使の搭乗した船。一號

船又は本船といふ。⇒進貢船。

よりうおぎよぎょう 寄魚漁業 [寄魚漁業] 秋冬の候、鱈(ワカ)が静穏な湾の一ヶ所に寄り集る性質を利用して、大切にそこを保護し、安心して段々集まり充分集團した頃、大網でこれを取り巻き漁獲する。

よりくじら 寄鯨 [寄鯨] ①死んで海邊に打ちよせられた鯨。②鯨が魚を追跡し、誤つて砂洲に乗上げたもの。

よりす [寄洲] 泥沙が風で吹きよせられ、又は浪に打寄せられて出来た洲。

よりば [寄場] ①魚の寄り集まる場所。(より) ②平常港湾労働者の集る世にいふ人夫溜。

よりふね [寄船] 海邊に風で吹きよせられた船。遭難船舶の舊稱。

よりもどし [撚戻] 釣糸の中途に取附けて、糸に撚のかかるのを防ぐ金具。糸に加はつて来る撚はこの具の回轉によつて戻り、糸の撚は常に元の儘に保たれる。旋網の括網などにも取附ける。型式は種々ある。關西では“さるかん”といふ。

ヨール [yaw] ①大前檣と小後檣とを有する縦帆装置の小型帆船。②艦載の雑用艇。(ジョリーボート(jolly-boat))

よれこぶ [撚節] キンク(kink)。→同項。

よろいばり 鎧張 [鎧張] 短艇外板の張り方の名稱。板を瓦葺のやうに重ね張りにして最後に止釘で止める重搭法。(クリンカー(clinker-built))

ら

らいかん 雷管 [雷管] 火薬に点火する發火具。銅・真鍮・アルミニウム製の管内に點爆薬又は點爆薬と爆薬層とを填充して造る。

らいげき [雷撃] 魚雷で攻撃すること。——かんさしゃしんき [雷撃鑑査寫真器] 敵艦船雷撃の實況を撮影し、戦果を確認する資料とする目的に使用する兵器。——き [雷撃機] 攻撃機一種で空中から魚雷を發射するための飛行機。——て [雷撃手] 雷撃機に搭乗し、魚雷發射の配置を有する飛行兵。

らいこう [來寇] 外敵が攻めて来て害を加へること。

らいこう [來港] 港に入り來ること。(入港)

らいこう [來航] ①船で來ること。②外國から船に乗つて來ること。

らいしゅう [來襲] 不意に敵が攻め來ること。(襲來)

らいせき [雷跡] 魚雷が水中を進行した跡に排氣のため海面に残す1條の線。

らいそう [雷装] 魚雷發射管を裝備すること。

らいそく [雷速] 魚雷發射に際し、射點から到達點までの距離を、發射時より到達時までの時間で除した魚雷の平均速力で、節を以てこれを表はす。

ライター [lighter] 舢舨(ハシカ)。平底船。荷足船。わが海軍では佛語でシャラン(chaland)船と呼ぶことがある。

らいちょう [來朝] ①外國人が日本に來ること。②屬國の王や使節などがわが朝廷に來ること。

らいどう [雷道] 發射された魚雷の進行する経路。

ライトセイル [light-sail] 主立つた帆でない比較的補助的な帆の總稱。ゲルン帆以上の帆。フライングジブ及び補助帆(サブサイル)をいふ。

ライナー [liner] ①定期航路の經營者。トランパー(tramper)の對。②定期船。③昔の戦列艦。

ライフギグ [life-gig] 艇内の周邊にコルクのバンドを裝著し若しくは艇の首尾兩側等に空所を設けて匣の如くし、水中に沈むも水の浸入せざるやうに構造されたギグで、救助艇の一種。

ライフジャケット [life-jacket] 救命衫(セーフティ)。→同項。

ライフブイ [life-buoy] 救命浮環。→同項。

ライフベルト [life-belt] 救命浮帶。→同項。

ライフボート [life-boat] 救命艇・救助艇。→各項。

ライフライン [life-line] 命索(イブイ)。救命索。→各項。

ライフラフト [life-raft] 救命筏。→同項。

らいれきぼ [來歴簿] 艦船に備附けてある兵器その他の今までの經歷を記入する帳簿。

ライン [line] ①航路。②救命索發射器にて投射する綱。その他救命環の索や曳索等をいふ。(救命索) ③線綱。

ラインホーラー [line-hauler] 延繩漁船の延繩捲揚機。手力・汽力を以てするものと發動機附のものがある。

ラグー [lugger] ラグを懸けた1檣(又は2~3檣)の小船。(ラグボート(lug-boat))

ラグ [lug] 一種の斜桁用縦帆。ラグ・スル(lug-sail)の略稱。

らく-ご [落伍] 艦艇が所屬隊列から離脱しておくこと。

らく-さ [落差] 高低2箇所に於ける水面の高さの差。

らく-しゃ [絡車] 麻索絡車・輕測鉛線絡車・鋼索絡車・測程線絡車など。又大小の索條や釣絲などを巻く車。(絲巻車・リール(reel))

らく-しゃ [落射] 魚雷を飛行機や落射機などで相當の高さから水中に落ちて發射すること。この種の魚雷は射程はさほど大なるを必要としないが、相當の速力を出し爆發力大にして重量の軽いことを要件とする。——き [落射機] 飛行機や高速魚雷艇・艦載水雷艇のやうな輕快な小艇に裝備し、發射管を用ひずにただ拘束してある魚雷を水平に落下させるだけの簡単な装置。

らく-そく [落速] 射弾の地上に落ち又は目標に命中するときの速度。

らく-たつ [落達] 爆弾などが目的物に命中、又は海面に到達すること。

らく-ちょう [落潮] おちしほ。干潮。——びょう [落潮錨] 漲潮流と落漲流の強き場所に雙錨碇泊中、落潮中に船を維持する錨。漲潮錨の對。(エップ・アンカー(ebb-anchor)) ——りゅう [落潮流] 落潮に伴なふ流れ。

ラジオ [radio] 無線電信(電話)。無線放送。——コンパス [radio-compass] 無線方位測定器。→同項。——ゾンデ [radio-sonde] 海上氣象觀測用航海兵器。氣球に吊るして上空に放し、一定波長式のものには短波發振器から溫度・濕度・氣壓などの變化を時間間隔によつて表はす機構をもち、他の波長を變へる式のものには氣象狀態を種々異なつた波長で發振させる。——ビーコン [radio beacon] 無線標識局。ラジオ燈臺ともいふ。→同項。——ロケーター [radio-locator] 電波探信機。→同項。

らしん [羅針] 磁石・磁針。——かんきょう [羅針艦橋] 羅針儀を備へ、且つ通常航海に主として使用せられる艦橋。——ぎ [羅針儀] 天象及び物標の方位を測定し、船舶及び航空機の位置・針路を定める器具。磁石の南北を指す力を利用して方位を表はしたもので磁針・羅牌・羅盆の3部分から成り船舶の航海上必要缺くべからざるものである。その構造により磁氣羅針儀と轉輪羅針儀があり、用途により原基羅針儀・操舵用羅針儀・

短艇羅針儀がある。(羅針盤・磁石盤(磁石)・コンパス) ——ず [羅針圖] 海圖に掲載されてある地磁氣の偏差を示す圖。——ばん [羅針盤] 羅針儀・磁石盤(磁石)・コンパスに同じ。→各項。——ほうい [羅針方位] 羅針儀の示す南北線から左又は右へ計つた方位。これによる針路を羅針路といふ。——ろ [羅針路] 船内の磁氣羅針儀の南北線と船首尾線との交角。船内に据附けてある磁氣羅針儀は船體及び船内鐵器の影響を蒙り、誤差を生じ正しい磁針方位を示さない。

ラスター [ruster] 遠洋不定期船。長途の航海で船體が錆だらけになるのでこの稱がある。

らせんき-こうりゅう [螺旋器後流] 推進器(プロペラ)によつて生ずる水流又は氣流。

らせんしき-ひこうき [螺旋式飛行機] 發動機で回轉するプロペラの推進力によつて飛行する飛行機の總稱。プロペラの主翼に對する位置により牽引式・推進式の別がある。

らせんすいしんき [螺旋推進器] 一般船舶に使用せられる推進器で、金屬製の翼面を螺旋形に屈曲させ、これを水中に回轉させその反動力を利用して船舶を前後に推進させるもの。その翼は3~4枚ある。

らせん-せん [螺旋船] 螺旋推進器によつて航走する船。推進器の数により單螺旋船・雙螺旋船・三螺旋船・四螺旋船と稱す。

ラダー [ladder] 昇降用の梯子。サイド・ラダー(舷梯)・ジャコブス・ラダー(索梯子)等がある。タラップ又はラッターともいふ。

ラダー [rudder] 舵。方向舵(航空)。

ラチーン・セール [lateen sail] 大三角帆。ラチーンは地中海やナイル河及びスイスの湖の帆船で使用する一種の大三角帆。

らつかく [落角] 落點に於ける彈道への切線が水平線となす角。

らつか-さん [落下傘] 飛行機に故障の起つた場合に、機上から安全に降下するために使用する傘形の救命具であつたが、近時、兵員・兵器に裝置し敵の虚を衝いて著陸奇襲し、又友軍に彈藥・糧食を投下補給するためにもこれを使用することとなつた。——きらい [落下傘機雷] 飛行機から落下傘を裝置して、投下敷設することが出来る機雷。——ぶたい [落下傘部隊] 落下傘で飛行機から敵陣の後方に降著し、敵の虚を衝き味方が進撃するまで敵の基地要點を確保したりする部隊。

らっか-リゅうこつ^{ラック} [落下龍骨] 海軍ではドロップ-キール (drop-keel) と
いふ。→同項。ドロッピング-キールともいふ。

ラッタル 船内の梯子。ラダー (ladder) の訛稱。→同項。

ラット-ライン [ratline] 登橋用階梯として橋の側方維持索(?)に横に結著し
た細い段索。ラットリンともいふ。(段索)

らてん [羅纏] 漁法の名稱。網が目的物の體に搦みついて行動を束縛する
方法で、刺網・流網などがこれに該当する。

ラニヤード [lanyard] 静索の下端を緊締するための短い綱。(締索(糸))

らはい [羅牌] 磁氣羅針儀の紙製圓牌で、測者の地平圏を表はし、その周
圍に北東南西の各方位と、360度の劃度を施し、北東南西を四方點といひ、
全圓周を32等分して32點に分ち、各名稱を定めてある。羅牌の裏面にはそ
の南北線と平行に磁針を取付け、中心には羅盆の底部中央より垂直に立て
られた軸針の先端を支へ受けて自由に回轉するための装置がある。

ラバース-ホール [lubber's hole] 橋樓の昇降口。負傷者を吊下す時だけに
使はれ、その他の場合の昇降はファトック-リギン (futtock-rigging) からす
る。その扉をトラップ-ハッチ (trap-hatch) といふ。

ラビン-ストレーキ [rubbing-strake] 防舷帯。短艇の縁板(?)の直下外側を
周繞する細い木材をいふ。

ラフ [luff] ①帆の前縁(風上縁)。②詰め開き(船首を風上へ向けて)にて帆
走すること。③單複滑車各1個を以て構成する絞轆。ラフ-テークルの略稱。

——テークル [luff-tackle] 單滑車・複滑車各1個を以て構成するテ
ークル。

らぼん [羅盆] 磁氣羅針儀の硝子蓋ある半圓球形の金屬製容器で、その底
部中央より垂直に軸針がありその上に羅牌を載せるやうに装置してある。

ラム [ram] 衝角。→同項。

らもう-リつ^{ラウ} [羅網率] 網をしかけて漁獲する成績の割合。

ラン [run] 協定荷役期間。積(揚)荷役に要すべき時間を計算する基準とし
ての一日の荷役量。各港の特殊事情を考慮して1日に附〇〇噸と定むるを
普通とす。ランニング-レー-デーズ (running-lay-days) の略。→同項。

らん-うん [亂雲] 下層雲に屬し上限2軒位、形狀不定の暗雲の厚層で、こ
の雲から普通雨や雪を降らす。(雨雲)

らん-かく^{ラン} [濫獲] 將來のことを考へず、蕃殖する以上にむやみに漁獲す

ること。

らん-ぐい^{ラン} [亂杙] やたらに繁く打ちこんだ杙。河中に設けて網を張り敵
の障碍物などにするもの。

らん-こう^{ラン} [藍光] 夜間信號に用ひる煙火の一種。(ベンガル-ライト (Bengal
light))

らん-しゃ [亂射] 盲(マッ)打ちに銃砲弾を發射すること。(亂發)

らん-せん [亂戰] 敵味方が入亂れて戦ふこと。

らん-そう-うん [亂層雲] 上層にあつて厚い層状をなしてある亂雲で、多く
雨・雪の降るのに伴ふもの。

ランチ [launch] ①軍艦に搭載し重量物運搬、下士官・兵の上陸の際など
に用ひられる構造堅固な短艇で、發動機を裝備したものと専ら槳漕による
もの、又必要に應じ帆走し得るものとある。②港灣・船舶等にて使用する
機動艇をランチと稱す。

ランナバウト [runabout] 輕快な自動艇。

ランニング [running] 帆走の際後方より風を受けること。追手。追手が船
の進路と風の方向が完全に一致した場合を眞追手といふ。

ランニング-レー-デーズ [running-lay-days] 積揚荷役に要すべき時間につ
き運送契約の當事者が一定の基準を以て協約せる時間。時間の限定方法に
④ 積(揚)ラン一日に附〇〇噸と定むる場合 ⑤ 積(揚), 〇〇日と定むる場
合等あり。單にランニング-レー-デーズといふ場合は天候のための荷役不
能時間をも合はせ碇泊時間を通算するに對し、ウェザー-ウァ-キング-レー
-デーズといふ場合は天候のための荷役不能時間を除く。⇒ラン。

ランバー-アイロン [lumber-iron] 橋桁架。短艇の兩舷側に裝し帆樁・豫
備槳等を載せる鐵具。

らん-ばつ [亂發] 亂射に同じ。→同項。

らん-びょう^{ラン} [亂俵] 穀類・雜穀等の俵裝が壞れて、その荷姿が大いに亂
れてゐること。

ランプ-サム-フレート [lump-sum-freight] 總括運賃・總運賃。→各項。

ランニング [ramming] 軍艦の衝角で衝撃すること。又は商船が船首で潜
水艦を衝撃すること。

り

- リアスしき-かいがん [リアス(Rias)式海岸] 平面的に鋸齒状を呈した海岸地形で、地盤運動又は海水面の變化のため山地が直ちに海に迫るもの。
- リーウエー [leeway] 風壓差。→同項。
- り-かん [離艦] ①軍艦から離れ去ること。②艦載飛行機がその軍艦から飛び立つこと。
- りがん-しんごうき [離岸信號旗] 出帆する場合に信號所で解纜させる船の船名符字とともに掲げる特定の信號旗。
- りき-ざい [力材] 木船の船首材又は船尾材が龍骨と結合する部分に於いて内側に添へる構造材料。
- りき-せん [力戦] あらん限りの力を出して戦ふこと。
- りき-そう [力漕] 力のかぎり舟を漕ぐこと。
- リギン [rigging] 橋を左右に維持する静索で、その屬する橋によつて名稱を區別する。前橋維持索(フォア・リギン=fore-rigging)・大橋維持索(メイン・リギン=main-rigging)の如し。リギンに横につけた、登橋の場合に足掛けとなる細い索を段索(ワタ)といふ。
- りく-あげ [陸揚] 入港したる船舶の荷物を直接又は一度舳取りしたる上、揚陸すること。(揚荷) ——きかん [陸揚期間] 航海備船の場合、備船者が陸揚港に於いて積荷を陸揚するため本船を碇泊せしめ得る期間。⇒碇泊期間。 ——こう [陸揚港] 積荷を陸揚する港。(荷揚港) ——じゅうりょう [陸揚重量] 積荷陸揚の時の重量。 ——ば [陸揚場] 積荷を陸揚する場所。 ——ひ [陸揚費] 舳舟賃・人足賃等貨物の陸揚に要する費用の總稱。 ——めんじょう [陸揚免狀] 輸入貨物の陸揚許可書。
- りくかいぐん-しゅうかいじょ [陸海軍集會所] 明治天皇の聖旨を奉體し、陸海軍間の親密なる連絡と互助啓發を圖り、兩軍協和の美風を維持昂揚することを目的とし、現役非現役を問はず一切の陸軍將校及び海軍士官を所員とする恩賜財團。東京都麹町區霞ヶ關に在る。

- りくけい-とろ [陸繋島] 砂嘴や普通の砂濱が陸の方から發達して、島と陸とが續いて半島になつたもの。(トンボロ(tombolo))
- りく-こう [陸光] 遠距離に現はれる、氷に覆はれてゐる陸上の朦朧として黄色がかつた光。
- りく-さん [陸産] 免責委付の目的となりたる海産以外の船舶所有者の財産で、海産と區別するための呼稱。必ずしも陸上に在る財産のみに限らず、委付の目的外に置かれる場合、その船舶も亦陸産である。海産の對。
- りくじょう-き [陸上機] 車輪を裝備し、陸上の飛行場に發着する海軍飛行機の總稱。艦上機の對。
- りくじょう-きんむ [陸上勤務] 陸上海軍官衙・部隊に勤務すること。海上勤務の對。
- りくじょう-こうほう [陸上航法] 航空機が主に地文航法によつて、陸の上空を飛行する方法をいふ。
- りくじょう-せつび [陸上設備] 港湾設備中、陸上に施設されたる諸設備の總稱で、貨物及び船客の取扱に必要な起重機・上屋・倉庫・鐵道・道路・渡橋・待合所・手荷物検査場等。⇒臨港設備。
- りくじょう-ぶたい [陸上部隊] 海兵團・防備隊・航空隊・通信隊・學校・病院等の陸上に所在する海軍部隊の總稱。
- りく-せい [陸星] 極地方に於いて、雪に覆はれてゐる陸地に近づく時に見える反射光。(氷の空映)
- りくせん-たい [陸戦隊] 陸上の戦闘に従事する海軍部隊。
- りく-とろ [陸島] 分離島に同じ。→同項。
- りく-なんぷう [陸軟風] 陸風に同じ。→同項。
- りく-はんきゅう [陸半球] フランスのロアール河口を中心點とした地球の北西部の半球。海面積は52.7%である。
- りく-ひょう [陸氷] 陸岸に附著せる氷で、その間に水路なきもの。
- りく-ひょう [陸標] 船舶の航海の安全を計るために、陸上に設置された目標。
- りく-ふう [陸風] 沿海地に於いて、夜間陸から海へ吹き出す風。(陸軟風)
- りくふうせい-ぎよるい [陸封性魚類] 溯河魚類が内陸の湖沼又は河川内に定着して、海へ降下することなしに成育繁殖し得るに至つたもの。
- りく-ぼろ [陸棚] 海底に屬する大陸の周縁帶で、深海に對し緩斜せる

棚状を呈し、常浸線より深さ約100尋即ち200米迄の区間をいふ。(海棚)
 ——がい [陸棚崖] 陸棚の邊緣の深海に臨める多少急斜せる斜面。(海棚
 斜面) ——ぎょじょう [陸棚漁場] 沿岸漁場の一で、200米等深線まで
 に行はれる定置漁業(大謀網・大敷網等)・曳網・打網等で鱒・鮭・鯛・鯉
 ・鮭・鯛等を目的とした漁業を行ふ場所。

りくようばくだん [陸用爆弾] 海軍で使用してゐる、陸上目標を破壊する
 ための飛行機から投下する爆弾。

リゲル [(羅)Rigel] 天測常用恒星の一。オリオン座の青白色の一等星。

り-こう [離航] 豫定航路を離れて航行すること。(離路)

り-こう [離港] 港をはなれること。(出帆)

りごうしき-さいすいき [離合式採水器] 深層の海水を汲み取るために
 用ひる器械。

リザード [lizard] 一端又は両端に鐵環を嵌(め)めた索條。

り-しゅう [離洲] 坐洲した船舶が洲から離れて浮揚すること。

り-しょう [離礁] 暗礁に乗上げた船舶が浮いて、そこから離れること。

り-しょう [離昇] 飛行機が離水・離陸・離艦して出發すること。發動後離昇
 するまでの距離を離昇距離といふ。

り-すい [理水] 堤防をつくつて水害のないやうにすること。

り-すい [離水] 飛行艇並びに水上飛行機が水面を離れて上昇すること。

リスト [list] ①名簿。目録。一覧表。②船體の左右の傾斜。

リーチ [leech] 帆縁。縦帆の後縁。横帆の縁。

リーチング [reaching] 風を正横前から受けて帆走すること。(横風)

リッジ-チェーン [ridge-chain] 天幕の中央線を支へる鐵鎖。同目的に使用
 する索を天幕背索(せうさく)と稱す。

リッジ-ポール [ridge-pole] 天幕の中央線を支へる棟木。

リッジ-ロープ [ridge-rope] 両側に垂れる天幕の頂部中央線を支へる綱。鐵
 鎖のものをリッジ-チェーン(ridge-chain)といふ。

りったい-えいほう [立體泳法] 平體・横體とともに泳法の3基本體型の
 一。立泳(たてう)に同じ。→同項。

りったい-せん [立體戦] 空中・水上・水中と飛行機・水上艦艇・潜水艦とが
 各その特質を同時に發揮する戦闘。

りっ-びょう [立標] 航路標識の一。航路に接近せる暗礁・淺瀬・露岩な

どに設置される警戒標で點燈装置を有するものと有せざるものがある。

リーディング-ライン [leading-line] 迎索(むかひ)。→同項。

り-とう [離島] 港灣若しくは陸地より離れて沖合にある島。

リーフ [reef] 強風の場合、帆面積を小にして、風壓を減少するために行ふ
 縮帆をいひ、一段縮又は數段にわたる縮め方がある。——バンド [reef-
 band] 各縮帆索の座をなす補強帆布。——ポイント [reef-point] 縮帆
 のため、帆の縮帆部(リーフ)に取付けてある多數の細索。(縮帆索)

リブ [rib] 船舶の兩舷を組み立てる肋材。

リフト [lift] 桁の兩端を上方に維持する索。

リフト-ドック [lift-dock] 船體を水中より浮かし上げ修繕をなす設備ある
 船渠。引揚船渠。

リベート [rebate] 割戻。特約に基づき船主が一旦受取りたる運賃の一部を
 荷主に返附すること。

リー-ボード [lee-board] 小型船につける、船が風下に流されるのを防ぐた
 め舷側より水中に降したる板。(防板)

リマン-かいりゅう [リマン(Riman)海流] オホーツク(Okhotsk)海に起
 り、間宮海峽を南下して、大陸沿岸を洗ひ日本海に流れ込み、一部は對馬
 海峽附近まで達する寒流。他の一部は浦鹽斯德附近で分派し、對馬海流と
 合して隠岐・能登方面に還流する。

りやくしき-しょくちよ [略式飾緒] 廳内に限り使用されるもので、參謀肩章
 の石筆型金色の金具がなくなつて2本の繩のみとなつた飾緒。

りやく-そく [略測] 規定の正確さの度合によらない略式測量。

りゅう-いき [流域] 河流に沿つた一帯の地域。海流の流過する區域。

りゅうき-かいはん [隆起海岸] 陸地の隆起してゐる海岸で、概ね出入に乏し
 い平岸をなし、現今の水面よりも高い所に海蝕洞・海岸段丘・海崖などを
 残すことがある。

りゅうき-かいてい-へいや [隆起海底平野] 隆起のために海底が陸化した平
 野で、九十九里濱のやうな帶狀海岸平野や、關東平野のやうな洪積層が隆
 起陸化したものなどはその例。

りゅうき-さんごしょう [隆起珊瑚礁] 珊瑚礁の生成後、土地の隆起作用
 によつてもり上つて陸化したもの。石灰岩質の瘠地となり易い。

りゅうき-とう [隆起島] 地盤の變動によつてその一部のもりあがつて出

- 來た島。
- りゅうき-ひょう [隆起氷] 氷山。小丘のやうな形をして海上に浮遊する氷。
- りゅうきゅう-せん [琉球船] 琉球で用ひられる船で、剝舟・山原船(剝舟)・ハジブニ・唐船(剝舟)・爬龍船(剝舟)の5種がある。
- りゅう-ぐう [龍宮] 海中、龍王の居るといふ宮殿。(うみのみやこ・たつのみや) — せん [龍宮船] 南北朝時代の能島流水軍の奥秘にある軍船。敵の陣營内へ海底を押し行きて龍頭を擧げて浮び出で、破裂弾を敵軍に投じ再び海中へ沈み入りわが陣へ歸る工夫をしたもので、龍眼に水晶を入れ海上から敵陣を見る装置も施してあつたといふ。
- りゅう-こう [流向] 潮流などの流れ行く方向。
- りゅう-こう-ふう [流行風] 地方で或る期間中或る風向にばかり吹く風。
- りゅう-こつ [龍骨] キール(keel)に同じ。→ 同項。 — よくはん [龍骨翼板] 龍骨の兩側に通つてゐる第一列の外板。(カーボード-ストレーク (garboard-strake))
- りゅう-しゅう [龍舟] 龍を象つた船。船首には木彫り彩色の龍を飾り、船腹兩舷に龍身を描き、船尾には木彫の龍尾がつけてある。珠江に於いて端午節旬の水祭に行ふ龍舟競漕は廣東名物として知られてゐる。
- りゅうじょう-かもつ [粒状貨物] 穀類その他粒状をなす貨物。
- りゅう-ず [龍頭] 投網の圓錐状をなす網の頂點につけた球。この所に手綱をつけて網を引揚げる。
- りゅう-すい [流水] 流れる水。ながれ。 — ようしょく [流水養殖] 池中の水を絶えず流過させてその流の中で魚類を養ふこと。 — りょうりょう [流水量] 河の或る地點の横斷面を單位時間に流れる水の體積。(流量)
- りゅう-せい [流星] 天體の碎片が地球大氣中に突入し、大速力のため摩擦により發光し、星の流れる如き光を曳いて落下する現象。燃え残つて地上に落下せるを隕石といふ。(ながれぼし・よばひぼし)
- りゅう-せん [龍船] 船首に龍の裝飾をした船。8~10世紀頃ヨーロッパの海賊が用ひた。
- りゅう-せん [流線] ①空氣又は水が渦動せずに流れる線。(流跡) ②(兵語) 河川の流速が最も速い水面上の一線。
- りゅう-そく [流速] ①水の流れる速力。河水の流速は水面勾配と水深とに比例して變化する。②氣流の速力。 — けい [流速計] 潮流計・タコ

- メーター(tachometer)に同じ。→ 各項。
- りゅう-だん [流弾] 流れたま。それだま。(流丸)
- りゅう-だん [榴弾] ①彈體の内部に炸薬を裝填した彈丸の總稱。②遭難船舶が他船又は陸岸よりの救助を求める際、夜間これを打揚げ、爆發して星火を發し信號するに用ひるもの。
- りゅう-ちょう [流潮] 潮の流れ。流れる潮。 — こうほう [流潮航法] 海流・潮流の影響を加算し、又は既知流潮に對して船の探るべき針路を決定する行船法。 — そくりよく [流潮速力] 潮流の進行する速力。 — ほうこう [流潮方向] 潮流の進む方向。
- りゅう-てい [流程] 潮流に因つて針路からそれる漂流距離。
- りゅう-てん [留點] 地球より惑星を見るとき、その固有運動の一時留まる如く見える位置。
- りゅう-とう [流燈] 剝板(剝板)を底とし種々の形を紙でつくり、中に燈火を點じて水に浮べ流すもの。
- りゅう-とう [龍燈] 海中の燐火の時として燈火のやうに連なり光つて現はれるもの。嚴島神社社前の海上に現はれ見える火光。
- りゅうとう-げきしゅ [龍頭鷓首] 昔の支那の船で天子の御座船。龍頭は船の頭を龍に作つて飾とした船。(龍首) 鷓首は船の頭に鷓といふ水鳥の形をつけたもので、鷓は水神を屢し或はよく波浪に耐ふと想像された。よつて水に浮べて安全を希望して船首飾としたもの。(鷓舟) 中古わが國にても貴族が池に浮べて遊んだと傳へてある。“りょうとうげきす”ともいふ。
- りゅう-ひょう [流氷] 風や海流に伴はれ、運動の自由を有する海氷の多數浮泛するもの。流氷の密集して帶状をなしてゐるものを流氷帶といひ、その一面に存在する區域を流氷原といふ。 — げん [流氷原] 漂流する海氷の原野のやうなもの。
- りゅう-ふく [流幅] 海流の幅。
- りゅう-ぼく [流木] 水に浮いて流れる木材。海上に漂流し航海上危険な丸太。
- りゅう-らく [流落] 船舶が潮流・海流に因つて押し流され、針路からそれること。(ドリフト(drift))
- りゅう-りょう [流量] 河の或る地點の横斷面を、單位時間に流れる水の體積。降水量・融雪量・蒸發量及び人工的灌漑等によつて四季規則的に變

- 化するのが普通である。(流水量) ←
- りょう** リョウ [梁] 甲板梁(梁)に同じ。→同項。
- りょうあつざい** リョウアツザイ [梁壓材] 木造船の梁(beam)の上面にありて、梁受板とともに梁端を挟みこれが固著並びに位置を確保し、船體の縦強力を強め、且つ暴露甲板に於いては甲板面の水は梁矢によつて舷側に集り梁壓材上を流れて去る。(ウォーター-ウェー(water-way))
- りょううけざい** リョウウケザイ [梁受材] 木造船の梁(beam)の末端を支持するもので、甲板梁と船梁の區別なく、すべて梁を設けてある個所には必ずこれを取附ける。(ビーム-シェルフ(beam-shelf))
- りょうかい** リョウカイ [領海] 一國統治權の及ぶ海域で普通、沿岸海をいふも廣く領水たる海灣・内海・港津をも包括して領海といふことがある。領海たる沿岸海の限界は最低干潮時に於ける水陸分界線より3海里を以て通説とする。公海の對。——**ぎょぎょう** [領海漁業] 領海内に於ける漁業。自國人及び自國船舶に限りこれに従事することが出来る。
- りょうかいせん** リョウカイセン [兩桅船] 帆柱が2本ある船。
- りょうかん** リョウカン [僚艦] 同じ艦隊に屬する軍艦。——**き** [僚艦機] 僚艦の艦載機。
- りょうき** リョウキ [僚機] 同じ任務に就いてある仲間の飛行機。陸軍では特に編隊の指揮官機がその隊の部下の搭乗せる各飛行機をいふ。
- りょうき** リョウキ [漁期] 魚に就いてはその魚の漁獲を見た始から、その終に至る期間。それを更に初漁期・盛漁期・終漁期に分ける。漁具に就いてはその操業の始から切上に至る期間。漁期は大體一定してゐるが海況の變化、氣候の遲速及び魚群の移動など種々の原因によつて異なる。
- りょうきゃくき** リョウキヤクキ [兩脚器] 海圖上で距離を測るために用ひる金屬製の兩脚を有する器具。ディバイダー(divider)又コンパス(compass)といふ。俗稱ぶんまはし。
- りょうくう** リョウクウ [領空] 領土と領海の上方無限の空間をいふ。一國の主權は領域上の空間に及ぶのを原則とするが、平時には軍用にあらざる他國航空機の無害航過の自由を認められる。
- りょうげん** リョウゲン [兩舷] 左右兩方の“ふなばた”。——**ちよく** [兩舷直] 軍艦乗組中の電信兵・信號兵・衛兵・從兵とか特に何かの役員になつてゐるものを除いた水兵部下士官・兵の左右兩舷員、即ちその日の當番の者も非番の者

- も併せた全員。——**つなぎ** [兩舷繫] 兩舷の繫留索を用ひて浮標に繫留すること。——**びょう** [兩舷錨] 左右兩舷の錨。
- りょうざい** リョウザイ [梁材] その兩端を肋材に接する梁(はり)。
- りょうし** リョウシ [梁矢] 上向きの反(か)がつけてある船の甲板梁。船が傾いても甲板の一部は水平になつてゐるので帆船や小型船舶に用ひられ又甲板に打上げた水を成るべく早く舷外に流すのに役立つ。ビーム-キャンバー(beam-camber)又はラウンド-アップ(round-up)ともいふ。⇒**舷弧**。
- りょうし** リョウシ [漁師] 魚を捕ることを業とする人。
- りょうしよく-とう** リョウシヨク-トウ [兩色燈] 油船燈の左紅色・右綠色で、1海里以上の光達距離を有し、甲種は燃照後5燭光以上、乙種は3燭光以上の燈光を發し得るもの。40噸未満の汽船に使用する。
- りょうしよくひんこ** リョウシヨクヒンコ [糧食品庫] 米穀などの如き食料品を貯藏して置くところ。
- りょうすい** リョウスイ [領水] 國家の統治權の下に立つ全水域をいひ、その國の領海は勿論河川・湖沼・運河なども含む。⇒**領海**。
- りょうすい-ひょう** リョウスイ-ヒョウ [量水標] 水面計の②に同じ。→同項。
- りょうせい-るい** リョウセイ-ルイ [兩棲類] 魚類と爬蟲類との間に位し、幼時には多く水中で鰓を以て呼吸し、成時には陸上で肺臓を以てするもの。現存するもの1400餘種で“蛙・ぬり・さんせううな”の類。
- りょうちゆう** リョウチュウ [梁柱] 梁を支へるために立てた支柱。(スタンション(stanchion))
- りょうちゆう** リョウチュウ [梁肘] 梁の兩端を肋骨に取り附けるために造つた三角形の部分。
- りょうちゆう-ひょう** リョウチュウ-ヒョウ [量潮標] 目盛をした柱を干潮の時でも干上らない海中に立て、毎時間水面の高さを讀んで潮汐の高低を觀測するもの。
- りょうは-せい** リョウハ-セイ [凌波性] 船舶が風浪をかきわけて航進する性能。
- りょうめん-がま** リョウメン-ガマ [兩面罐] 罐の兩面に焚口を有するもの。片面罐の對。
- りょうよう-さくせん** リョウヨウ-サクセン [兩洋作戰] 米國海軍の大西洋と太平洋の兩洋同時作戰をいふ。
- りょうよく** リョウヨク [兩翼] 横陣の左右の翼。——**の-そなえ** [兩翼の備] 中古水軍の陣形。四横陣ではほ偃月及び鶴翼の備に等しく、左右強弱なきやうにして敵を包圍するのに用ひる。——**びらき** [兩翼開] 縱帆船が眞艦

から風を受ける場合、前後兩帆を鳥の兩翼の如く左右に張り出して帆走する法。(観音開)

りょうりにん [料理人] 調理手の舊稱。→同項。

りょかく [旅客] 旅行する人。——ころ [旅客港] 旅客の乗下船を主とする港。貨物の揚卸・旅客の乗下船を主とするものを貨客港、貨物の揚卸のみを主とするものを貨物港といふ。——せん [旅客船] 主として旅客及び郵便を運送する船舶。法規上は12人以上の旅客定員を有する船舶をいふ。(客船) ——ていいん [旅客定員] 船舶に搭載し得べき旅客の最大人員。船舶安全法及び同施行規則により船舶の航行区域・設備等に應じて管海官廳がこれを決定し、各船はこの定員以上に旅客を搭載することが出来ない。——めいぼ [旅客名簿] 旅客の姓名・年齢・性別・国籍・住所・乗下船地等を記載した名簿で、旅客を運送する船舶に必ず備ふべき法定書類。沿海航路のみを航行する船舶についてはこれを備へなくても差支へない。

りょくそうるい [緑藻類] 藻類の一種。淡水産が多く、海産のものは少い。アチノリ・ヒトヘグサ・ミルは食用とし、アチサは主として肥料又は飼料とする。⇒海藻。

りょく-てい [緑泥] 亞洋性沈澱物の一種で、青泥と同じ泥質の上に海緑石といふ綠色粒を含み、暗綠色に見える泥。大河の流入してゐない海に見られるもの。

リール [reel] 絡車。→同項。

り-ろ [離路] 船舶が航海の途中、豫定航路外に航行し、或は逆航迂廻するをいひ、天災その他已むを得ずして離路をなす場合の外、保険契約は無効となる。(變路)

りんえ-ぐさり [輪廻鎖] 循環する連鎖。ウエストン絞轆は2個の鐵滑車と1條の輪廻鎖とより成る。(エンドレス-チェーン(endless-chain))

りん-かい [鱗介] 魚類と貝類と。

りん-かい [臨海] 海にのぞむこと。海に近いこと。——がっこう [臨海學校] 夏季、海岸地に都會の兒童を集め學科を授けつつ保健・鍛鍊を圖る施設。——じっけんしょ [臨海實驗所] 海岸の適當な所に在つて海洋及び海洋生物に関する諸事項の研究に従事する所で、これに必要な設備が施してある。多くは水族館を併置してゐる。臨海研究所ともいふ。

りん-かん [輪環] 甲板・舷側などに取付け、これに鉤或は鋼索等を鉤する鋼環で、眼環に楕圓形の輪を連結したもの。

リンク [link] 錨鎖を構成する鐵環。(鎖環)

リング [ring] 環。→同項。——ボルト [ring-bolt] ①艇内前後に設けてある環杆。②環附螺釘(螺釘)に更に遊環を取付けたもの。

リンク-そうち [リンク(link)-装置] 船舶を前進或は後進させる場合に、機械を任意に所要の方向に回轉させるのに必要な装置。

りんけい-じん [輪型陣] 米國海軍の對日進攻作戰に用ひるものと豫想される艦隊戰隊形であつて、戰艦艦隊を基準にしてその前後左右に航空母艦や巡洋艦・驅逐艦等を多数配置した特殊のもの。

りん-けん [臨檢] 交戰國が船舶の中立性を確め、戰時禁制品輸送・軍事的幫助・封鎖侵破等のことなきやを檢分するため、船舶を停船せしめて訊問し、要すれば船内を搜索すること。(臨檢搜索)

りん-こう [磷光] 海面を搔きまばしたとき夜光蟲の發する磷火に似た光。

りん-こう [臨港] 港にのぞむこと。港に近いこと。——せつび [臨港設備] 貨物及び旅客揚積のため、臨港地域に施設されたる埠頭・岸壁その他の諸設備。⇒陸上設備。——てつどう [臨港鐵道] 海陸連絡運輸の便宜のために、埠頭(岸壁)相互間又は埠頭(岸壁)と港の後方地域との間に延長敷設せられたる鐵道。——れっしゃ [臨港列車] ①荷客、殊に旅客の船車連絡の便宜を計るため、船舶發着の都度特別に船側岸壁まで差立てる臨時列車。②臨港鐵道に運轉せられる列車。

りんさい-ほう [輪採法] 時期により數個所順々に禁漁を行ひ、魚類の蕃殖保護をはかる方法。

りんじ-かいぐん-ぼうびたい [臨時海軍防備隊] 昭和8年3月より滿洲國哈爾濱に置かれた防備隊。⇒防備隊。

りん-じく [輪軸] 輪に軸を取付け動かし又は舉げんとする重き物體に結びつけた綱を軸に巻き、軸を回轉してその物體を動かす装置の機械。車地又は轆轤の類。

りんじ-けんえつ [臨時檢閲] 海軍大臣の命により海軍兵科將校が檢閲官となつて官衙及び學校に就き臨時に行ふ檢閲。⇒檢閲。

りんじ-けんさ [臨時檢査] 航行區域、最大搭載人員、滿載吃水線等船舶檢査證書記載事項の變更その他船舶安全法施行規則の定むる所により、管海

官廳が検査を行ふ必要ありと認めたる時又は申請若しくは届出により臨時に行ふ船舶検査。

りんじ-じょうりく [臨時上陸] 艦船が長途の航海に出る前とか、又は一ヶ月以上航海して歸著した時とか、抜群の勤務をなしたる者、善行表彰を受けた者、或は已むを得ざる事故のある者に、それぞれ24時間以内といふやうに臨時に外出を許されること。

りんじせんぱく-かんりほう [臨時船舶管理法] 支那事變に關聯し、海上に於ける一般交通運輸の調整を圖るために昭和12年9月制定せられた法律。その目的とする處は本邦海上交通運輸機關を戦時體制下に置き、配船の調整、造船の促進等により國家の必要とする重要物資の圓滑なる輸送を期し、物價對策として公正な運賃・傭船料を維持安定せしめ、又海外に於けるわが航權を維持するに在る。

りんじ-とう [臨時燈] 出入頻繁ならざる港灣・河口に在つて、船舶出入の際若しくは季節により臨時に點火される燈竿。

りんじ-りょかく [臨時旅客] ①臨時旅客定員に引き受けたる船客。②臨時に船舶に搭載したる船客。——**ていいん** [臨時旅客定員] 本船の旅客定員以上に臨時に旅客を搭載せんとする場合、管海官廳に願ひ出で特殊船検査を受け、臨時にその定員以上に搭載することを許可せられる旅客定員。⇒旅客定員。

りん-せん [輪船] 汽船。火輪船の略稱。

りんせん-じゅんび [臨戦準備] 戦時に艦船がその戦闘力を完備し且つ不必要なる物品の陸揚げ及び設備に長時間を要する作業を施行すること。船體・兵器・機關の修理をなし、又入渠して艦底を清淨にし、乗員の充實、燃料・糧食・軍需品の搭載などをする。

りん-れつ [鱗列] “うるこ”のやうに列なること。鱗次。

る

るいけい-せん [類型船] 同一の設計で造られた型式の類似する船。

るい-せん [類船] ①昔、進貢船に隨行して、貿易を營んだ商人の船。②難破した船。(難船) ③同類の船。連れ立つ船。

ルック-アウト [lookout] 見張・見張員。→各項。

ルート [route] 航路。航空路。

れ

れい-すい [齡衰] 船齡の老衰に達すること。

れい-そう [冷走] 發射した魚雷が、諸種の原因で燃料に點火せずに航走すること。——**ぎょらい** [冷走魚雷] 加熱器のついてゐない魚雷。

れい-そう [禮裝] 海軍服裝の一。宮中晩餐・天皇及び皇族の奉送迎・外國軍艦の公式訪問・夜會等正裝の場合に次いで嚴肅なる儀式に著用する。

れいぞう-こ [冷藏庫] 船内で漁獲物の腐敗を防ぐために、外氣との絶縁装置を施した倉庫。

れいぞう-せん [冷藏船] 牛肉や魚類を生(+)のまま積む船で、船内が恰も幾つかの冷藏庫になつてゐて、それに肉類を積む。

れい-たつ [令達] 海軍の部隊指揮官がその麾下に發令すること。麾下一般に發令するものを一般令達、一部に發令するものを特別令達と稱す。命令・訓令・日令・法令・訓示・告示の種別がある。

れいとう-ぎょ [冷凍魚] 鮮魚を極めて新鮮な状態に保つため、よく洗滌し、攝氏零下20度以上の低温で急速に凍結させ、數回水に浸して引上げ、外面に氷の被幕を作つて被覆したもの。冷藏庫内に貯藏して置く。

れいとう-せん [冷凍船] 漁獲した魚を、凍結させて貯藏運搬する設備を有する船。

れい-ほう [禮砲] 陸海軍禮式の一で、軍隊又は軍艦で敬禮又は奉祝のために發する空砲。——**いん** [禮砲員] 軍艦に於いて禮砲を發射するために特に編成された砲員。

レガッタ [regatta] 短艇競漕。帆走競争。

れき-せい [瀝青] “ちゃん”に同じ。→同項。

- レーキド-ステム** [rakéd-stem] 直線でやや傾斜してゐる船首。
- レーキ-マスト** [rake mast] 檣を傾斜させること。帆走艇などで檣をやや前方に傾ける方が結果が良い。檣に“レーキ”を與へるといふ。
- レーク** [rake] ①熊手状をなす罐の灰搔(???)及び火搔(???)。②傾斜。檣の傾斜をマスト-レーク(mast-rake)といふ。
- レグルス** [(羅)Regulus] 天測常用恒星の一。獅子座の主星で大鎌の柄の端に當る所に輝いてゐる。
- レシプロ-せん** [レシプロ船] 往復機械を装置する汽船の俗稱。⇒往復機械。
- レーシング** [racing] 船の縦動搖(ピッチング=pitching)により推進器が水から出て空轉すること。
- レスポンデンシヤ** [respondentia] 冒險貸借の一種。船舶の修繕・救護その他航海繼續に必要な費用を支辨するため、船長がその積荷のみを擔保として資金を借入れること。船舶及び積荷を抵當として借入れることをボットムリー(bottomry)といふ。
- れつ-い** [列位] 艦船の占めてゐる列中の位置。
- れつ-き** [列機] 一指揮官の直接指揮下にある一隊の飛行機。
- レッコ-** [let go] 海員用語。放て(レットゴー)の訛り。“スライキ、スライキ、レッコ-”は“延せ、延せ、放て”といふ意味。
- れつしゃ-こうそうせん** [列車航送船] 旅客・貨物の乗換・積込をなす代りに列車をそのまま積載して運送する連絡船。
- れつ-せい** [劣勢] 勢力が敵よりも劣つてゐること。
- れつ-そく** [劣速] 速力が他の艦船に比較して劣つてゐること。
- レッド** [lead] 測鉛。→同項。
- れつ-とう** [列島] 數島のやや列をなしてゐるもの。
- れつ-ふう** [烈風] ①はげしい風。②樹の大幹を動かす程度の風。陸上用語で海上ではビューフォート式風力階級の語を用ひる。
- レール** [rail] 手摺(テス)。 (ハンド-レール(hand-rail))
- れん** [鐘] ①1海里の十分ノ一。100等。(ケーブル(cable)) ②鎖鎖の1鐘は90等である。
- れんかい-うんが** [連海運河] 海洋と海洋とを連結し、海洋航行船を通航させる人工的水路。地中海と紅海とを連ねるスエズ運河の類。
- れんかん-ちょう** [聯管長] 聯裝魚雷發射管の配置にある發射管員中の先

- 任下士官。
- れん-けい** [連繫] ①作戰行爲中、分離せる兵軍の動作の連結をいふ。②つづけ繋ぐこと。
- れんごう-かんたい** [聯合艦隊] 2隊以上の艦隊を聯合して編制した艦隊で、必要に應じこれに艦船部隊を編入、又は附屬せしめられたもの。司令長官は天皇に直隸し麾下全般を統率す。
- れんごう-そうかいていたい** [聯合掃海艇隊] 掃海艇隊と特別掃海艇隊との兩者を合同して編制したるもの。
- れん-こん** [漣痕] 泥土又は細砂上に印せられた波浪の痕跡。普通は水深30米以内の淺所に出来るが大嵐の際には200米の深所にも生ずることがある。
- れんしゅう-かん** [練習艦] 海軍少尉候補生などの艦務練習に使用する軍艦。——**たい** [練習艦隊] 海軍少尉候補生及び研究乗組軍醫科士官の實務練習教育のために編成される艦隊。
- れんしゅう-き** [練習機] 初期の操縦練習生の飛行機で、陸上練習機と水上練習機とがある。
- れんしゅう-こうかい** [練習航海] 海軍の諸學校又は商船學校の學術を修得したものに、實地に海上訓練を施すため艦船に搭乗し航海させること。
- れんしゅう-じゅんようかん** [練習巡洋艦] 學生・練習生等の練習に使用される巡洋艦。
- れんしゅう-せい** [練習生] ①(海軍用語) 砲術學校、水雷學校等にて特技を修業中の海軍下士官・兵の通稱。②(商船用語) 學校修業生として船舶に乗組むもの。
- れんしゅう-せん** [練習船] 商船學校・水産學校の實習科生徒に海上實務を修得させるための船。
- れんしゅう-せんかん** [練習戰艦] 海軍諸學校の學生・練習生等の練習に使用される戰艦。
- れんしゅう-とくむかん** [練習特務艦] 海軍の新兵を教育する軍艦。又士官の教育のためにも舊式の軍艦をこれに充てることがある。
- れんじょう-たんか** [簾狀擔架] 竹を編んだすだれのやうなもので、戰鬥中、檣樓・艦橋などの高所から負傷者をのせて巻き縛つた上徐々に綱で吊り下ろし治療所に運搬する用具。
- れんしん-こうろ** [聯針航路] 直線航路の聯合より成る航路。

- れんすい** [連吹] ①風が引續いてしきりに吹くこと。②汽笛・汽角・霧中號角などを連続して吹きならすこと。
- れんせいふどうかいてんとう** [聯成不動回轉燈] 燈臺用語。回轉燈と同じく漸次光力を増し、その頂點に達すると漸次光力を減するが、全く暗黒に至らず弱い不動光を存するもの。
- れんせん** [連戦] 次から次と戦ふこと。しきりに戦ふこと。
- れんせんこうこうとう** [連閃交光燈] 燈臺用語。連閃燈で異色の閃光を發するもの。
- れんせんとう** [連閃燈] 燈臺用語。2個若しくは2個以上の閃光を幾許かの暗黒を隔てて連發するもので、普通2〜4連光までとする。
- れんそうほう** [聯裝砲] 軍艦の一つの砲塔又は一つの魚雷發射機に、數門の大砲又は數門の魚雷發射管をつらねて裝備したもの。二聯裝・三聯裝などといふ。
- れんぞくこうかい** [連續航海] 同一航路を折返し數航海續けて航海すること。——**しゅぎ** [連續航海主義] 戦時禁制品輸送に當り、中立國の船舶が直接敵港に向はず、一旦敵國に近き中立港に仕向けて一の航海を終り、更にその中立港より同一の船舶又は別の船舶にて別の航海として敵港に仕向けて航海するも初めの中立港に向ふ航海を以て、後の直接敵港に向ふ航海と相連續して、最初より敵港に向ふ一の航海と見做し、初めの航海中に於いても拿捕を行ひ得るとする中立國際法上の主義。
- れんぞくゆそうしゅぎ** [連續輸送主義] 一旦中立港に陸揚して陸路、敵地又は敵軍に送達する場合、それが戦時禁制品であるならば、前の海上輸送と後の陸上輸送とを以て連續せる輸送と認め、前の中立港に向ふ航海中に於いて拿捕を行ひ得るとする中立國際法上の主義。⇒**連續航海主義**。
- れんたん** [煉炭] 石炭の粉末にピッチを混じ、壓力を加へて一定の形を與へた加工燃料。主として小艦艇にてこれを使用する。
- れんらく** [連絡] 作戰行爲中、隔離せる兵軍の意志の連結をいふ。
- れんらくうんが** [連絡運河] 海洋と海洋、又は二つ以上の可航河川、若しくは湖沼と海洋を連絡する運河。前者は連洋(海)運河とも稱し、スエズ運河・パナマ運河はその代表的なものである。
- れんらくこう** [連絡港] ①連絡船の發着する港。②船車(船舶と鐵道)連絡をなす港。

- れんらくしょうこう** [連絡將校] 外國と協同作戰を行ふ場合に彼我の連絡に任ずる將校。
- れんらくせん** [連絡船] 2港間に頻繁且つ定期的に旅客・貨物の輸送に従事する船舶。
- ろ
- ろ** [艫] とも。ふね。船尾。艫。
- ろ** [櫓・櫓] 和船の主要漕具。船端に固著せる櫓脚(ロウ)を櫓の入子(イコ)に嵌め、櫓柄を櫓綱で船床に繋ぎ、櫓腕を前方へ推して手許に引けば、櫓脚は水中で螺旋状を畫き恰も螺旋推進器のやうな作働をして船を進める。櫓は又操舵の用をも爲す。
- ろ** [炉] 罐の下方に位し、燃料中の固體成分、又は瓦斯成分の全部、若しくは一部を燃焼せしめる所。窯又はファーネス(furnace)とも稱す。1枚の平板を圓筒形に曲げ、縦の接合部を鍛合せしめた平形炉筒と、更にこれを一定の型に壓縮して製造した波形炉筒とある。
- ろあし** [櫓脚] ①櫓を漕ぐ時、その水中に浸つた部分。②櫓を漕いで船が進む時、その後に波の揺ぐ痕。
- ロアリング・フォーティズ** [roaring-forties] 大西洋上北緯40〜50度間の暴風帯。南緯同緯度帯にもいふ。(咆哮緯度)
- ロイド(ロイツ)** [Lloyd's] ロイド組合。この組合に二つある。一は海上保險を主なる業務とする個人保險者の集合體で、他は船主及び保險者の集合體である。前者は保險の營業及び海事通信を目的とし、後者は船體の検査格附又は造船の監督等をなし又ロイド船名録の編纂發行をなす。本據を英京倫敦に置き世界各主要港に代理人(Lloyd's agents)を有し上記事業經營に必要な船舶の建造・就航・發着・遭難等海事に關する凡ゆる情報を蒐集し、又遭難の場合にロイド保險者のために種々斡旋させる。本組合の船舶検査格附は世界的に權威あるものとされてゐる。——**せんめいろく** [ロイド(Lloyd's)船名録] 英國ロイド組合編纂の船名録。世界各國の船舶を網

羅し年々発行するもので、船名・船質・噸數・船級・造船所名・建造年・船舶所有者、船の長さ・幅・深さ・船籍港・機關の種類等一目瞭然として海運業者及び海上保險業者にとつて好き参考書である。

ろうかい-さぎょう [撈海作業] 海底・海水中の沈積物・布設物・浮游物等を取りのける作業。

ろう-こう [漏口] 船などに水の漏り入る口。

ろう-こく [漏刻] 水時計。(刻漏)

ろう-すい [漏水] ①船舶が衝突・擱坐・觸礁及び敵の攻撃等のため水線以下に大なる破孔を生じ、船内に浸水すること。②水時計の水。

ろう-せん [樓船] 屋形船のこと。樓舟(ろう)とも稱す。

ろうそく-いわ [蠟燭岩] 海中の岩の軟かい所が波浪に浸蝕され、硬い所だけが残つて圓柱状になつたもの。

ろ-うて [櫓腕] 櫓の上部の琵琶形をなしてゐる部分。⇒櫓下(ろく)。

ろ-か [櫓歌] 櫓を押しながら漁夫のうたふ歌。(船歌(ろく)・歌乃(ろく))

ろかい-はくち [露開泊地] 風浪に暴露してゐる港外の海岸に近い一時的避泊處。

ろかい-ぶね [櫓漕船] 櫓(竿・棒・オールを含む)を用ひて人力により推進する小舟。

ろ-かく [鹵獲] 戦勝の結果、敵の艦船・兵器・軍用品などを手に入れること。

ろ-がん [露岩] 干出岩に同じ。⇒同項。

ろきょう-せんこう [露鏡潜航] 潜水艦が潜望鏡のみを水面に露出して潜航すること。

ろ-ぐい [櫓杭] 櫓床にさし、櫓の入子に合はせて櫓を受けるもの。多く桹材を用ひる。

ろく-ざい [肋材] 龍骨・船首材・船尾材より兩側に多數縦立する彎曲したもので、人體の肋骨に相當する。(フレーム-バー(frame-bar))

ろく-じ [録事] 法務局に屬し、また軍法會議の職員たる判任文官。

ログ-シップ [log-ship] 扇形板。⇒同項。

ろぐち-いた [爐口板] 火格子の前端をかけるために、炉の前方に装置した鐵製の板。(デッド-プレート(dead-plate))

ろく-ばん [肋板] 船舶の彎曲部以下に於いて、肋骨の間に挿入する鐵鋼板。

ろく-もつ [六物] 竿・綸・浮・沈・鉤・餌を釣の六物といふ。僧の携へる6種の什物を六物といふことから轉じた語。六具ともいふ。

ろ-ぐり [櫓繰] 櫓を操り漕ぐこと。

ろく-ろ [轆轤・絞車] ①物を引き又は吊り上げるに用ひる滑車。②車地。まんりき。——ざ [轆轤座・絞車座] 船の舳と艫とに於ける絞車(ろく)のあるところ。中船以下は艫の方のみ絞車を用ひ、表には車知(ろく)を用ひ、小舟は飛蟬(ろく)のみを用ふ。——ぶね [絞車船] 船を揚げ卸しする絞車を備へ又は絞車・筋綱等の道具を積み行く船。

ロケット [rocket] 火箭。狼火。筒内に爆發物を充填しこれに點火爆發せしめ、ガスを筒の一方から噴出させる反動で火箭を飛ばすもの。近年發射推進装置として自動車・飛行機等にも利用され、超高速度を出し兵器にも應用される。——ばくだん [ロケット爆彈] 爆彈の底部にロケットを仕掛け、火薬ガスを吹出し、その反動で落下の際に速度を増し、軍艦の甲板に命中した時に砲彈のやうな速力になつてその貫徹力を増大させるもの。

ろごう-せんすいかん [呂號潜水艦] 二等潜水艦(排水量1000噸未満)の別稱。

ろ-した [櫓下] 櫓の櫓腕より下部をいふ。⇒櫓腕。

ろ-しょう [櫓橋] 近代の軍艦の前橋が、昔の城の天主閣の櫓のやうな司令塔その他の主要部となつてゐる、その櫓のこと。

ろ-しょう [露礁] 水面上に露出せる海中の岩石。

ろ-ずか [櫓柄] 櫓の腕に附いてゐる柄で、筋綱をこれに掛け、櫓腕を前後に動かして漕ぐもの。

ろ-ずく [櫓杆・櫓杭] つく・櫓柱(ろく)に同じ。⇒各項。

ろ-ずな [櫓綱] 船床と櫓柄とをつなぐ綱。これによつて櫓の下端の水に入る度を定めその操縦を便にする。

ローズ-ボックス [rose-box] 海水吸引管の下端に取り付け、固形物が管内に吸入されるのを防ぐための芥除箱。

ろ-せん [櫓栓] 櫓の腕の上方に取附けた早緒をかける突起した木杆。(ろづく・つく)

ろ-そう [櫓漕] 櫓を以て船を操ること。櫓の入子の穴を櫓杭に挿入し早緒を櫓杆(ろく)にかけて操作する。

ローター-せん [ローター(rotor)船] 獨人フレットナー(Flettner)博士の考案

せる回轉筒柱により船舶の動力を供給する風走船。

ローチャ 支那で用ひる戎克(ゴック)より大きい帆船。

ろちよう 露頂 [露頂] 潜没してゐた潜水艦が、浮上つて艦體の上部を水面にあらはすこと。——せんこう 露頂潜航 [露頂潜航] 潜水艦の船體が大體水中に隠れて、上部が僅かに水面に残る状態で潜航すること。

ロッカー [locker] ①各自の所有品を入れておく小戸棚。②武器などを格納して錠前を施しておく仕切戸棚。

ロック [lock] 開門(カド)。→同項。

ろっこつ 肋骨 [肋骨] 高等動物の背骨から肋骨が左右に出てゐるやうに、船の龍骨から左右両側に出てゐる船舶に、横面の強力を賦與する構材。——

しんきよ 肋骨心距 [肋骨心距] 船體の肋骨と肋骨との間隔。肋骨の中心から次の肋骨の中心までを測る。

ロビー [lobby] 艦・船舶内に設けられたる、諸室出入のための合廊下又は控室。

ろっぶんぎ 六分儀 [六分儀] ①任意の2點間の角距離を測るのに用ひる器具。天體の高度を測り、船舶所在の經緯度を測算するのに用ひる。⇒天測(テンソク)。②測距器具の發達してゐなかつた頃は、高さの知られてゐる他艦の橋を測つて自艦との距離を測定するのに用ひた。(セキスタント(sextant))

ろてい 櫓艇 [櫓艇] 櫓で漕ぐ船で、通船・傳馬船などに對する海軍用語。

ろてんかんぱん 露天甲板 [露天甲板] 上甲板以上の覆のない甲板。

ろてんほう 露天砲 [露天砲] 何にも蔽はれてゐない大砲。

ろどこ 櫓床 [櫓床] 櫓杭を固著してある床板で、舷側外板の上部に横にわたしてあるもの。

ろなみ 櫓波 [櫓波] 櫓を漕いだあとに立つ小波。

ろなわ 櫓繩 [櫓繩] 船の床に繋いで櫓の上端にかける繩。(早緒(ハヤオ))

ろびょうし 櫓拍子 [櫓拍子] 櫓を操る拍子。櫓を押し漕ぐ調子。

ろべそ 櫓臍 [櫓臍] 船端に設けた小突起。櫓の入子(イコ)に嵌めて櫓を漕ぐためのもの。(ろぼそ)

ろほうとう 露砲塔 [露砲塔] 装甲の壁障で、内部に重砲を裝備し、水圧力・電力若しくは人力を以て、砲のみその壁上を旋回する装置のもの。——かん 露砲塔艦 [露砲塔艦] 露砲塔を備へてゐる装甲艦。艦首・艦尾に露砲塔があり、又仰角を大きくする目的の下に設計されたもの。

ろみさお 櫓篙 [櫓篙] 浅瀬の出入に櫓を水棹(ハツ)に代用して船を動かす時の名。

ローヤル [royal] 横帆船のローヤル橋に懸ける帆。——マスト [royal-mast] 最上橋。橋の最高部。

ろりょうぎぎょう 露領漁業 [露領漁業] 北洋漁業の一で、日露戦争の結果ポーツマス(Portsmouth)條約によつて獲得した漁業権による漁業。

ローリング [rolling] 船の、左右に揺れる動き方。(横動)——テークル [rolling-tackle] 横帆船動揺中、帆の風上に揺動するのを防止するための絞轆。

ローリングスパー [rolling-spar] 短艇ダビットに渡した圓材で、短艇を固縛するに用ふ。

ローリングチョック [rolling-chock] 桁を橋に固定するため、その中央部に取附けた木片。

ローロック [rowlock] 棧座。→同項。

ロートップスル [lower-topsail] 各橋のロートップスル・ヤードに展ずる横帆。

ローマスト [lower-mast] 下橋(ゲウ)。→同項。

ローヤード [lower-yard] ローマストに横架する桁。

ロングトン [long-ton] 英噸。→同項。

わ

ワイヤ [wire] はりがね。鐵條索。——ドラム [wire-drum] 鋼製の吊索や揚索を捲く揚貨機・起重機の回轉する捲胴。——ロープ [wire-rope] 鋼索。→同項。

わえ ①遠浅の海の潮の引残りないふ。そこで採る魚を“わえな”と稱す。②狭隘な水道の沿岸に生ずる反流。

わかしお 若潮 [若潮] 潮の干満差の最小な長潮の翌日から、再びその差が次第に増大するので、潮が若返る意から出た語で、大陰曆の11日及び26日に

- 相當する。(潮替(うしぎ))
- わかわし** [若鷺] 海・陸軍少年飛行兵出身の若い空の勇士。雛鷺ともいふ。
- わきかじ** [脇楫] ①船の両側面に取附けた板。②またその處にかけて押す櫓。“わいかち”ともいふ。
- わきしお** [脇潮] 岸に沿つて本流の反對に流れる潮。本潮(うし)の對。
- わきろ** [脇櫓] 櫓櫓の力を助けるため舷に取附けた櫓。
- わく** [湧く] 魚や貝類の蕃殖したこと。
- わくあみ** [杵網] 鰯の陸揚に用ひる網。袋状の網の口を、木杵を以て張り擴げ、口を水面に浮かせ角網などの定置漁具に入網した漁獲物をこれに抄ひ込み、舟を以て陸岸に引き行き、漁獲物を陸揚げするに使用するもの。
- わくせい** [惑星] 遊星に同じ。→同項。
- わしずかみ** [鷺摺] 底にある貝類を捕獲するに用ひる漁具。長さ4米位の柄の先に鐵製の鉄状のものを附けたもの。
- わすな** [環索] 絞轆を索具圓材等に懸けるに用ひる輪環状の索。多数の細索を束ね、その數箇所を括つて環に造つたものを東環索(ひし)といひ、なほその他に鋼索・環索・鎖環索などがある。(ストロップ(strop))
- わせん** [和船] ①人力又は風力を以て推進せしめる我が國在來の形式の木造船。外國船の對。(大和船) ②西洋型帆船に對する日本型帆船の意と、通船又は舢艫の意味の2義がある。
- わた** [海] (古) うみ。
- わた** [曲] 曲つて水の淀む所。
- わたし** [渡] ①船で人などを對岸に渡すこと。又、その所。(船渡(わた))・渡場(わた) ②船より他へ移り渡るに用ひる板。(歩板(わた)) — **せん** [渡錢] 船渡の賃錢。(ふなちん・とせん) — **ば** [渡場] 船渡しのある場所。 — **ぶね** [渡舟] 渡場にて人又は物を渡す舟。(わたりぶね・渡船(わた)) — **もり** [渡守] 渡船の船頭。“わたりもり”ともいふ。
- わたつみ** [綿津見・渡津見] ①海神。(わたつみのかみ) ②うみ。(わたつみ) — **のかみ** [海津見の神] 海を主宰する神。海路を守護する神。(わたつみ・海神・海若)
- わたぬき** [腸抜] 魚の腸を抜き去ること。又その抜き去りたる魚。
- わたのはら** [海の原] “はら”は廣い意。海の上。(海原(わた))・大海(わた))
- わたり** [渡] ①海や川などを渡ること。②渡(わた)・渡場(わた) ③外國から舶

- 來すること。④渡板(わた)。
- わたりいた** [渡板] 船から陸岸へかけわたして、往來に備へる長い板。(あゆみいた・板道)
- わたりせ** [渡瀬] (古) 徒歩で渡ることの出来る川の淺瀬。(古)わたるせ)
- わたん** [和炭] 日本國産の石炭。
- ワードルーム** [ward-room] 軍艦の士官室。
- ワニス** [varnish] 塗料の一。樹脂又は乾燥油を、アルコール又はエーテル若しくはテレピン油等に溶かしたもので、木具の表面に塗抹し、光澤を附し美觀を添へ、且つ濕氣を防ぐのに用ひる。
- わにぶね** [鰐魚船] 鰐魚は我が神話中に現はれるもので、例へば大國主命が救助し給へる宛が鰐魚とその勢力争ひをなし、鰐魚の部族を隱岐島から氣多崎まで列べて數へたといふ神話の鰐魚は船を意味してゐる。その船形が鰐魚に似てゐたので船に例へられたもので、もちろんこの時代の鰐魚とは鮫の一種である。畢竟鰐魚とは船の意味で、またその船を使用せる部族を鰐魚なる語を以て代表したものとされる。
- ワープ** [warp] ①艦船を曳移するための索條又は小鎖。②引網具を曳き廻すに使用する曳綱。
- わふう** [和風] ①海面半分以上に白波を見る程度の風。②秒速5.5~7.9米の風。
- わらすな** [藁網] 藁で網(わ)つた網。
- わりあい** [割合運賃] 航路相當運賃に同じ。→同項。
- わりまし** [割増運賃] 危険品・重量品・嵩高品・長尺物等、荷扱上特別の手数を要するの故を以て、或は貨物の種類を問はず特定の航路を運送するの故を以てなどのため、普通運賃以上に課徴する運賃をいふ。
- わろう** [和浪] 穏かな浪。その符號式はM(moderate sea)を用ふ。
- わん** [灣] 陸地に彎曲して入り込んだ海面。海灣よりはやや小なるもの。館山灣・碓石灣などはその例。(入海(わた))
- わんおう** [灣奥] 灣の奥部をいふ。灣口の對。(灣首)
- わんきょくぶりゅうこつ** [彎曲部龍骨] 船底外側彎曲部に於いて前後に長く縦に取附けられた材で、水に抵抗し、船體の動搖を緩和するもの。(ビルジキール(bilge-keel))
- わんこう** [灣口] 灣の入口。灣奥の對。

わんしゅ [灣首] 灣の奥部。

わんとう [灣頭] 灣のほとり。——こう ーか [灣頭港] 灣港ともいひ、天然の灣内に在る港。

わんとう 船の舵床の溝。即ち舵の身木(き)を嵌め入れる所。まるくち。

わんとうつみとり [灣糖積取] 臺灣の砂糖を積取り内地に運送すること。

わんにゅう [灣入・彎入] 水が陸地に弓形に曲つて入り込むこと。

わんびょう [灣氷] 極地にて秋季に生じた新氷。

わんりゅう [灣流] メキシコ(Mexico)灣から發して、遠く北歐の北緯75度附近に及ぶ、北大西洋を南西から北東に流れる暖かい海流。ガルフ・ストリーム(Gulf-Stream)。(メキシコ灣流)

帝國海軍武官官階表 (1)

(科別)	士 官								
	將	官	佐	官	尉	官	尉	官	尉
將校	海軍大將	海軍中將	海軍少將	海軍大佐	海軍中佐	海軍少佐	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉
將	軍醫科	海軍軍醫中將	海軍軍醫少將	海軍軍醫大佐	海軍軍醫中佐	海軍軍醫少佐	海軍軍醫大尉	海軍軍醫中尉	海軍軍醫少尉
	藥劑科		海軍藥劑少將	海軍藥劑大佐	海軍藥劑中佐	海軍藥劑少佐	海軍藥劑大尉	海軍藥劑中尉	海軍藥劑少尉
校	主計科	海軍主計中將	海軍主計少將	海軍主計大佐	海軍主計中佐	海軍主計少佐	海軍主計大尉	海軍主計中尉	海軍主計少尉
	技術科	海軍技術中將	海軍技術少將	海軍技術大佐	海軍技術中佐	海軍技術少佐	海軍技術大尉	海軍技術中尉	海軍技術少尉
相	齒科		海軍齒科醫少將	海軍齒科醫大佐	海軍齒科醫中佐	海軍齒科醫少佐	海軍齒科醫大尉	海軍齒科醫中尉	海軍齒科醫少尉
	法務科	海軍法務中將	海軍法務少將	海軍法務大佐	海軍法務中佐	海軍法務少佐	海軍法務大尉	海軍法務中尉	海軍法務少尉
官	軍樂科					海軍軍樂少佐			
	看護科					海軍衛生少佐			

帝國海軍武官官階表 (2)

(科別)	特務士官			准士官	下士官			
					上等下士官	一等下士官	二等下士官	
特務士官・准士官	兵科	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉	海軍兵曹長	海軍上等兵曹	海軍一等兵曹	海軍二等兵曹
					海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹
					海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹
					海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹
下士官	軍樂科	海軍軍樂大尉	海軍軍樂中尉	海軍軍樂少尉	海軍軍樂兵曹長	海軍上等軍樂兵曹	海軍一等軍樂兵曹	海軍二等軍樂兵曹
					海軍衛生兵曹長	海軍上等衛生兵曹	海軍一等衛生兵曹	海軍二等衛生兵曹
					海軍主計兵曹長	海軍上等主計兵曹	海軍一等主計兵曹	海軍二等主計兵曹
					海軍技術兵曹長	海軍上等技術兵曹	海軍一等技術兵曹	海軍二等技術兵曹

備考 必要ニ應ジ海軍兵曹長以下ヲ水兵科准士官下士官、海軍飛行兵曹長以下ヲ飛行科准士官下士官、海軍整備兵曹長以下ヲ整備科准士官下士官、機關兵曹長以下ヲ機關科准士官下士官、海軍工作兵曹長以下ヲ工作科准士官下士官ト稱スルコトヲ得

帝國海軍武官官階表 (3)

豫備將校	兵科	豫備士官						豫備准官	豫備下士官				
		豫備佐官			豫備尉官				豫備上等下士官	豫備一等下士官	豫備二等下士官		
豫備員	兵	海軍大佐	海軍中佐	海軍少佐	海軍大尉	海軍中尉	海軍少尉	海軍兵曹長	海軍上等兵曹	海軍一等兵曹	海軍二等兵曹		
		海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹	海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹	海軍飛行兵曹長	海軍上等飛行兵曹	海軍一等飛行兵曹	海軍二等飛行兵曹
		海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹	海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹	海軍整備兵曹長	海軍上等整備兵曹	海軍一等整備兵曹	海軍二等整備兵曹
		海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹	海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹	海軍機關兵曹長	海軍上等機關兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍二等機關兵曹
		海軍工作兵曹長	海軍上等工作兵曹	海軍一等工作兵曹	海軍二等工作兵曹	海軍工作兵曹長	海軍上等工作兵曹	海軍一等工作兵曹	海軍二等工作兵曹	海軍工作兵曹長	海軍上等工作兵曹	海軍一等工作兵曹	海軍二等工作兵曹
		海軍主計兵曹長	海軍上等主計兵曹	海軍一等主計兵曹	海軍二等主計兵曹	海軍主計兵曹長	海軍上等主計兵曹	海軍一等主計兵曹	海軍二等主計兵曹	海軍主計兵曹長	海軍上等主計兵曹	海軍一等主計兵曹	海軍二等主計兵曹

備考 必要ニ應ジ海軍兵曹長以下ヲ水兵科豫備准士官豫備下士官、海軍飛行兵曹長以下ヲ飛行科豫備准士官豫備下士官、海軍整備兵曹長以下ヲ整備科豫備准士官豫備下士官、海軍機關兵曹長以下ヲ機關科豫備准士官豫備下士官、海軍工作兵曹長以下ヲ工作科豫備准士官豫備下士官ト稱スルコトヲ得

帝國海軍兵職階表 (4)

(科別)	兵			
	兵 長	上 等 兵	一 等 兵	二 等 兵
兵 科	海軍水兵長	海軍上等水兵	海軍一等水兵	海軍二等水兵
	海軍飛行兵長	海軍上等飛行兵	海軍一等飛行兵	海軍二等飛行兵
	海軍整備兵長	海軍上等整備兵	海軍一等整備兵	海軍二等整備兵
	海軍機關兵長	海軍上等機關兵	海軍一等機關兵	海軍二等機關兵
	海軍工作兵長	海軍上等工作兵	海軍一等工作兵	海軍二等工作兵
軍樂科	海軍軍樂兵長	海軍上等軍樂兵	海軍一等軍樂兵	海軍二等軍樂兵
看護科	海軍衛生兵長	海軍上等衛生兵	海軍一等衛生兵	海軍二等衛生兵
主計科	海軍主計兵長	海軍上等主計兵	海軍一等主計兵	海軍二等主計兵
技術科	海軍技術兵長	海軍上等技術兵	海軍一等技術兵	海軍二等技術兵
豫 備 員	豫 備 兵			
	豫 備 兵 長	豫 備 上 等 兵	豫 備 一 等 兵	
	海軍水兵長	海軍上等水兵	海軍一等水兵	
	兵科 海軍機關兵長	海軍上等機關兵	海軍一等機關兵	
	海軍工作兵長	海軍上等工作兵	海軍一等工作兵	

備考 必要ニ應ジ海軍水兵長以下ヲ水兵科兵、海軍飛行兵長以下ヲ飛行科兵、海軍整備兵長以下ヲ整備科兵、海軍機關兵長以下ヲ機關科兵、海軍工作兵長以下ヲ工作科兵ト稱スルコトヲ得、豫備員ニ付亦之ニ準ズ

海上の模様(波浪階級)表

海上の模様は主として波浪の高さにより次の如く區別せらる

階級	用 語	説 明	波ノ高サ(米)
0	穩カ	Calm	鏡ノ如シ 0
1	極滑ラカ	Very smooth	僅ニ細漣アリ <0.3
2	滑ラカ	Smooth sea	細漣立ツ 0.3- 0.6
3	少々浪アリ	Slight sea	細キ白波見ユ 0.6- 1.0
4	浪可ナリアリ	Moderate sea	全部白波トナル 1.0- 1.5
5	浪稍荒シ	Rather rough sea	白波高シ 1.5- 2.5
6	浪荒シ	Rough sea	大波トナル 2.5- 4.0
7	浪高シ	High sea	大波高シ 4.0- 7.0
8	浪甚ダ高シ	Very high sea	怒濤頗ル高シ 7.0-13.0
9	怒濤	Precipitous sea	怒濤山ノ如シ >13.0

風力・風速・風ノ名稱表 (海上用)

階級	名稱	解 說	風速範圍	
			米/秒	哩/時
0	平 穩	海面油ヲ流シタルガ如シ	0.—0.5	1以下
1	至輕風	海面ニ細波アルヲ見ル	0.6— 1.7	1—3
2	輕 風	海面ニ小波ヲ明ニ認ム	1.8— 3.3	4—6
3	軟 風	波ノ間ニ處々白波ヲ見ル	3.4— 5.2	7—10
4	和 風	海面半分以上ニ白波ヲ見ル	5.3— 7.4	11—14
5	疾 風	海面殆ド全部ニ白波ヲ見ル	7.5— 9.8	15—19
6	雄 風	白波稍盛トナル	9.9—12.4	20—24
7	強 風	白波盛ニ立ツ	12.5—15.2	25—29
8	疾強風	風ヨリ起ル波大浪トナル	15.3—18.2	30—35
9	大強風	大浪頗ル高シ	18.3—21.5	36—41
10	全強風	風浪更ニ高シ	21.6—25.1	42—48
11	暴 風	———	25.2—29.0	49—56
12	颶 風	———	29.1以上	57以上

雲 形 表

雲 形	記 號		高 サ (米)
	國際	本邦	
卷 雲	Ci	C	上層雲 平均ノ高サ 9000
卷層雲	Ci. St	CS	
卷積雲	Ci. Cu	CK	
高積雲	A. Cu	KC	中層雲 平均ノ高サ 3000~7000
高層雲	A. St	SC	
層積雲	St. Cu	SK	下層雲 平均ノ高サ 2000以下
亂 雲	Nb	N	
積 雲	Cu	K	
積亂雲	Cu. Nb	KN	頂部 1800 上昇氣流ニヨリ生ズル雲 底 1400 頂部 3000~8000 底 1400
層 雲	St	S	高キ霧 平均ノ高サ 1000以下

水産製品分類表

水産講習所教授 深山義道

(A) 食糧品

製 品	種 類	
冷凍品	冷凍鮭、冷凍大鮓、冷凍鰯、冷凍蝦、フィッシュフィレー	
乾製品	素乾品	鰯、身欠鰯、棒鰯、鱈鱈、鳴戸和布、昆布、田作、乾海苔
	煮乾品	明鮑、灰鮑、海參、煮乾鰻、乾蝦、鰹節、鮪節、ウルメ節、鯖節、魚粉
	燒乾品	燒乾鰻、燒乾鮎、燒乾沙魚、燒乾雲丹
	鹽乾品	鰻丸乾、鰻目刺、鹽乾鰯、鹽乾鱈、鹽乾鯖、興津鯛
	燻乾品	鮭燻製、鰯燻製、太鮓燻製、鰯燻製、秋刀魚燻製、大羽鰻燻製
	凍乾品	寒天、明太魚
鹽藏品	新巻鮭、鮭鹽引、鹽鱈、鹽鰯、鹽鰯、鹽鰯、鹽鰯、筋子、イクラ、紅葉子	
罐詰壘詰品	水煮罐詰	鮭鱈水煮罐詰、蟹水煮罐詰、蝦水煮罐詰、鯖水煮罐詰、鰻水煮罐詰
	大和煮罐詰	鰹大和煮罐詰、鯖大和煮罐詰、鰻大和煮罐詰、鯨肉大和煮罐詰

製 品	種 品 類
照燒蒲燒罐詰	鮭照燒罐詰、鱈照燒罐詰、秋刀魚照燒罐詰、鰻蒲燒罐詰、鰻蒲燒罐詰
蒲鉾魚團罐詰	蒲鉾罐詰、竹輪罐詰、魚團罐詰、サツマ揚罐詰
トマト漬罐詰	鰻トマトピューレー漬、鯖トマトピューレー漬、鰻トマトソース漬、鯖トマトソース漬、秋刀魚トマトソース漬罐詰
酢・ソース漬罐詰	鰯酢漬罐詰、鰻酢漬罐詰、鯖バターソース漬、鰻バターソース漬、鰻ゼリーソース漬罐詰
油漬罐詰	鰻油漬罐詰、鮭油漬罐詰、鯖油漬罐詰、鰹油漬罐詰、鮭燻製油漬罐詰
調味品罐詰	鰯田麩罐詰、鰹田麩罐詰、鰯味噌罐詰、牡蠣味噌罐詰、海苔佃煮罐詰、鮎佃煮罐詰、ペースト罐詰
スープ罐詰	牡蠣スープ罐詰、あをうみがめスープ罐詰、クラムチヨウダー罐詰、蛤蜊スープ罐詰
配合煮罐詰	月島煮罐詰、鰯北海煮罐詰、鮭筍罐詰、野菜入罐詰
煉製品	蒲鉾、半平、竹輪魚團、鳴戸巻、魚鱈
醃醬品	鹽辛類
	雲丹鹽辛、柔魚鹽辛、鰹鹽辛、鮎ウルガ「しよつつる」
	魚醬油類
	牡蠣醬油、柔魚醬油、王筋魚醬油、アンチヨビー 醬油

製 品		種 類
調 味 品	煮熟調味品	各種佃煮、時雨煮、海苔佃煮、飴煮、田麩
	焙乾調味品	儀助煮、鮎雀燒、味付海苔
漬 物 品	乾燥調味品	鱈櫻干、河豚櫻干、惠美壽鱈
		鮑粕漬、鮎粕漬、鱈粕漬、鯛味噌、マナ鯉味噌漬、甘鯛味噌漬、粟漬品、鯉酢漬、鱈卵花漬、ナンバン漬、鱈糠漬
鮫 類		鮎鮫、鱈鮫、鮎鮫
削 刻 品		揉鯛、揉鱈、刻鯛、削章魚、削蒲鉾、刻昆布
エツキス品		鯉煎汁、牡蛎エツキス、蛤エツキス、鱈エツキス
(B) 非 食 糧 品		
(一) 化 製 品		
製 品		種 類
油 脂 蠟		鯉油、鱈油、鯨油、鱈肝油、鯨肝油、鯨蠟、抹香鯨油、抹香鯨蠟、硬化油
魚 糧 魚 肥		フィッシュミール、鯉、搾粕、鱈搾粕、骨粉、血粉、干鰯
藥 用 品		鱈肝油、鱈肝油、ビタミン油、臟器製劑、加里鹽、沃土、臭素、タウオリン、クレアチン、クレアチニン、驅虫劑

製 品		種 類
粘質製品	植物性粘質	アルギン酸、布糊
	動物性粘質	膠、ゼラチン、アイミングラス
鞣製品		鯨革、海驢革、鮫革、鱈革、ウツボ革
		オットセイ毛皮及海豹毛皮、ラッコ
蛋白質利用製品		毛皮カゼイン、ペプトン、フアイバー
	顔 料	貝灰、胡粉、セビア
(二) 工 藝 品		
製 品		種 類
工 藝 品	美術的工藝品	鼈甲製品、珊瑚製品、鯨鬚製品
	一般的工藝品	貝卸、鯨筋製品
(C) 附海水利用製品		
(一) 食 鹽		
製 品		種 類
食 鹽		食 鹽
(二) 苦汁利用製品		
製 品		種 類
苦汁利用製品		鹽化カリ、カラナイト、炭酸マグネシア、金屬マグネシア、鹽化苦土、臭素

有用有害水産動物分類表

水産講習所教授 松原喜代松
理 學 博 士

第一門 脊椎動物

綱	目	種 類
哺乳類	食肉類	ラッコ・オットセイ・トド・アシカ・アザラシ・セイウチ
	鯨類	シロナガスクジラ・ナガスクジラ・ザトウクジラ・セミクジラ・イワシクジラ・コイワシクジラ・ホクキヨククジラ・コセミクジラ・コクジラ・ブライドクジラ (以上鬚鯨類) マツカウクジラ・ツチクジラ・マイルカ・サカマタ (一名シヤチ)・ゴンドウクジラ・スデイルカ・スナメリ・ネズミイルカ・カマイルカ・イシイルカ (以上齒鯨類)
	海牛類	ジユゴン (一名サンノイオといひ、昔から人魚と稱し、神祕的に取扱はれてゐる)
鳥類	翡翠類	カハセミ
	鶴鷺類	ゴキサギ
	雁鴨類	ウミアイサ
	全蹠類	ウミウ・ゲンカンドリ・カツラドリ
	管鼻類	ウミツバメ・アハウドリ
	阿比類	カイツブリ・アビ

綱	目	種 類
	鷗類	ウミネコ・カモメ・アヂサシ
	海雀類	ウミスズメ
	鶴類	タンチャウ・オホバン
爬虫類	龜類	タイマイ・アラウミガメ・アカウミガメ・オサガメ・スツボン・イシガメ
	ワニ類	アメリカワニ
	蛇類	エラブウナギ・セグロウミヘビ
兩棲類	無尾類	食用蛙・トノサマガヘル
	有尾類	サンセウウチ・キモリ
魚類	硬骨魚類	アンカウ・マダラ・スケトウダラ・コマイ・ヒラメ・オヒヤウ・マツカワ・マコガレヒ・マガレヒ・ソウハチ・アカガレヒ・アブラガレヒ・ムシガレヒ・ホシガレヒ・ギンボ・イカナゴ・コバンイタダキ・マハゼ・ドンコ・ハウボウ・コチ・カジカ・アイナメ・ホツケ・カサゴ・メバル・ホニオコゼ・トラフグ・マフヅ・カワハギ・アイゴ・キウセン・ブダヒ・スズメダヒ・ウミタナゴ・イサキ・イトヨリダヒ・マダヒ・チダヒ・キダヒ (レンコダヒ)・メヂナ・キス・ニベ・グチ・ススキ・マハタ・アラ・イシナギ・ムツヒメチ・イシダヒ・ハタハタ・ブリ・カンパチ・ヒラマサ・マアヂ・ムロアヂ・ヒラアヂ・イボダヒ・マナガツチ・メダヒ・ハマシマガツチ (一名エチオビ)

綱	目	種 類
		ア)・シイラ・マカヂキ・シロカヂキ・クロカヂキ・バセウカヂキ・メカヂキ・タチウチ・サハラ・クロマグロ・キハダマグロ・ビンナガ・メバチ・カツヲ・マルサウダ・ヒラサウダ・マサバ・ゴマサバ・カムルチー・キンメダヒ・マトウダヒ・ボラ・カマス・アカマンパウ・サンマ・トビウチ・サヨリ・ダツ・タツノオトシゴ・トゲウチ・ウナギ・ハモ・ウツボ・ウミヘビ・マアナゴ・コヒ・フナ・ハス・ドゼウ・ナマズ・キンギヨ・メダカ・サケ・マス・ベニザケ・ギンザケ・マスノスケ・ヒメマス・ニジマス・カハマス・ヤマベ・アマゴ・イワナ・アユ・ワカサギ・シラウチ・ニシン・マイワシ・ウルメイワシ・サバヒー・コノシロ・サツバ・ギス
	硬鱗魚類	テフザメ
	横口類	アブラツノザメ・ネズミザメ(モウカ)・ホシザメ・ヨシキリザメ・アイザメ・ツノザメ・アオザメ・シユモクザメ・オナガザメ・アカエヒ・シビレエヒ・ガンギエヒ・サカタザメ・カスザメ
	全頭類	ギンザメ
圓口類	八眼鰻類	カワヤツメ(ヤツメウナギ)・スナヤツメ
	盲鰻類	メクラウナギ・ヌタウナギ・ムラサキヌタウナギ・クロメクラウナギ

第二門 原索動物

綱	目	種 類
頭索類	ナメクヂウヲ類	ナメクヂウヲ
尾索類	ホヤ類	マボヤ・アカボヤ・エボヤ・スボヤ
擬索類		ギボシムシ

第三門 棘皮動物

綱	目	種 類
海鼠類	幅足類	ナマコ・フジナマコ・ジヤノメナマコ・クロホシナマコ・キンコ
蛇尾類	クモヒトデ類	クモヒトデ
	テヅルモヅル類	テヅルモヅル
海昆類	顯帶類	モミヂガヒ
	隱帶類	ヒトデ・アカヒトデ・ヤツデ・イトマキヒトデ
海膽類	正形類	ガンガセ・ラツパウニ・ムラサキウニ・アカウニ・バフンウニ・エヅムラサキウニ
	歪形類	タコノマクラ・クワシバン・ブンブクチヤガマ

第四門 節足動物

綱	目	種類
蛛形類	劍尾類	カブトガニ
甲殻類	十脚類	クルマエビ・フトミズエビ・クマエビ・ウシエビ・ヨシエビ・シバエビ・モエビ・アカエビ・トラエビ・サクラエビ・ヌカエビ・ホツカイエビ・テナガエビ・イセエビ・ハコエビ・ウチワエビ・ザリガニ・アナジャコ・タラバガニ・ヘイケガニ・アサヒガニ・タカアシガニ・ズワイガニ・オホクソガニ・ガザミ・ノコギリガザミ・サワガニ・モクズガニ・シホマネキ
	裂脚類	アミ
	口脚類	シヤコ
	等脚類	フナムシ・タイノエ
	蔓脚類	フヂツボ・エボシガヒ・テフ・カメノテ

第五門 軟體動物

綱	目	種類
頭足類	十脚類	マイカ・ソデイカ・ハリイカ・ヤリイカ・アオリイカ・ケンサキイカ・スルメイカ・ホタルイカ・ミミイカ
	八腕類	マダコ・ミズダコ・イヒダコ・アシナガダコ・タコブネ

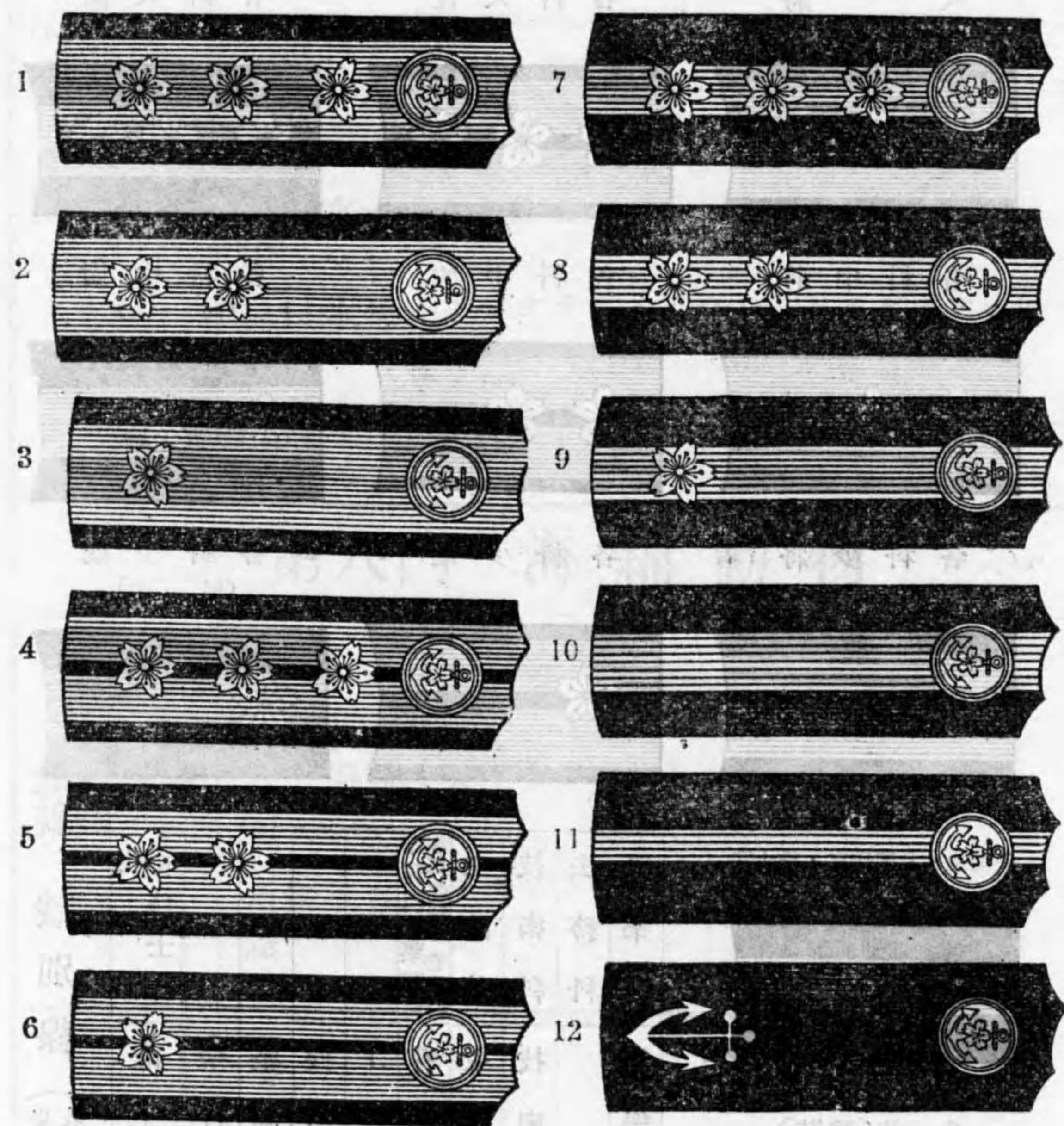
綱 目 種類

雙殻類	下等筋類	カキ・イタボガキ・ホタテガヒ・イタヤガヒ・クロテフガヒ・テフガヒ・アコヤガヒ・イガヒ
	櫛齒類	アカガヒ・サルボウ・ハイガイ
	眞瓣鰓類	イシガヒ・カラスガヒ・ドブガヒ・シジミ・シヤコ・トリガヒ・ハマグリ・アサリ・アゲマキ・マテガヒ・バカガヒ・シホフキ・フナクヒムシ
腹足類	原始腹足類	アハビ・マダカ・メガヒ・エゾアハビ・トコブシ・リウテン・サザエ
	中腹足類	タニシ・マメタニシ・カハニナ・イモガヒ・ホラガヒ
	狭舌類	アカニシ・エツチウバイ・バイ・テングニシ
	肋腔類	アメフラシ
	基眼類	モノアラガヒ

第六門 環形動物

綱	目	種類
毛足類	多毛類	ゴカヒ・イトメ
蛭類	アゴビル類	ヒル
蛭類		ユムシ

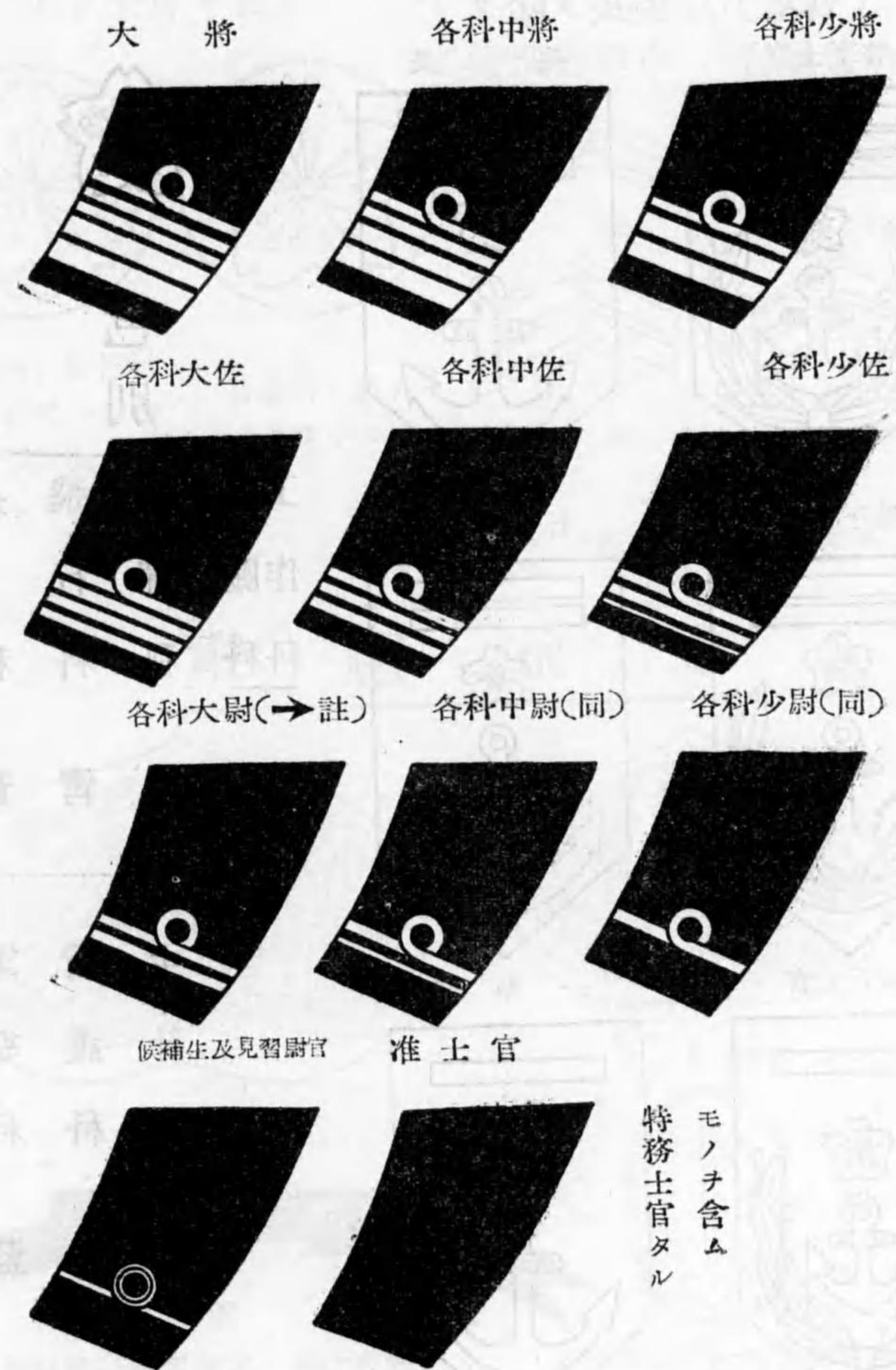
士 官 夏 衣 肩 章



- 1 大 將
- 2 各 科 中 將
- 3 各 科 少 將
- 4 各 科 大 佐
- 5 各 科 中 佐
- 6 各 科 少 佐
- 7 各 科 大 尉
- 8 各 科 中 尉
- 9 各 科 少 尉
- 10 候 補 生
- 11 准 士 官
- 12 生 徒

(モノヲ含ム)
特務士官タル

士 官 袖 章



大 將 各 科 中 將 各 科 少 將

各 科 大 佐 各 科 中 佐 各 科 少 佐

各 科 大 尉 (→ 註) 各 科 中 尉 (同) 各 科 少 尉 (同)

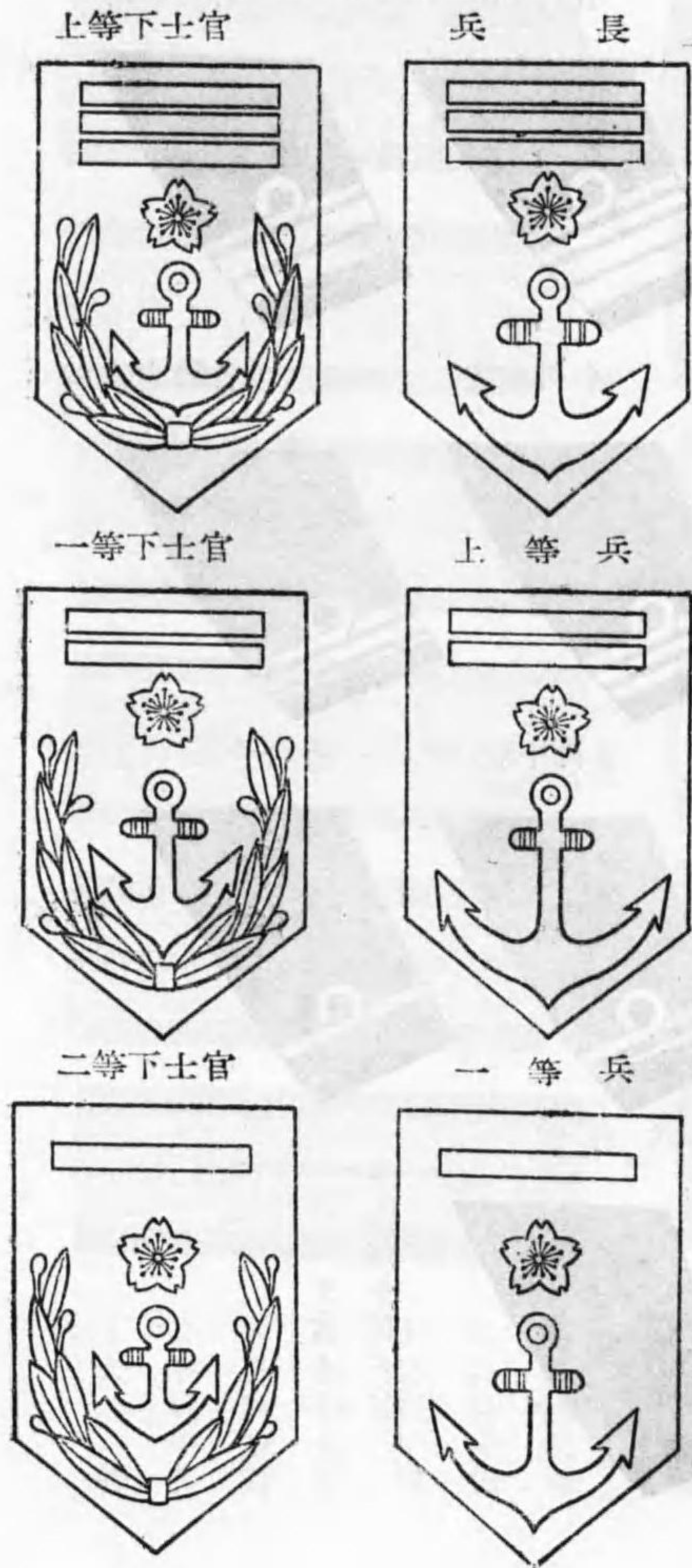
候 補 生 及 見 習 尉 官 准 士 官

モノヲ含ム
特務士官タル

下士官 官職區別章

各科識別章

(臂章) 三等兵ヲ除ク



色別

工機	整	飛	兵
作關	備	行	
科科	科	科	科

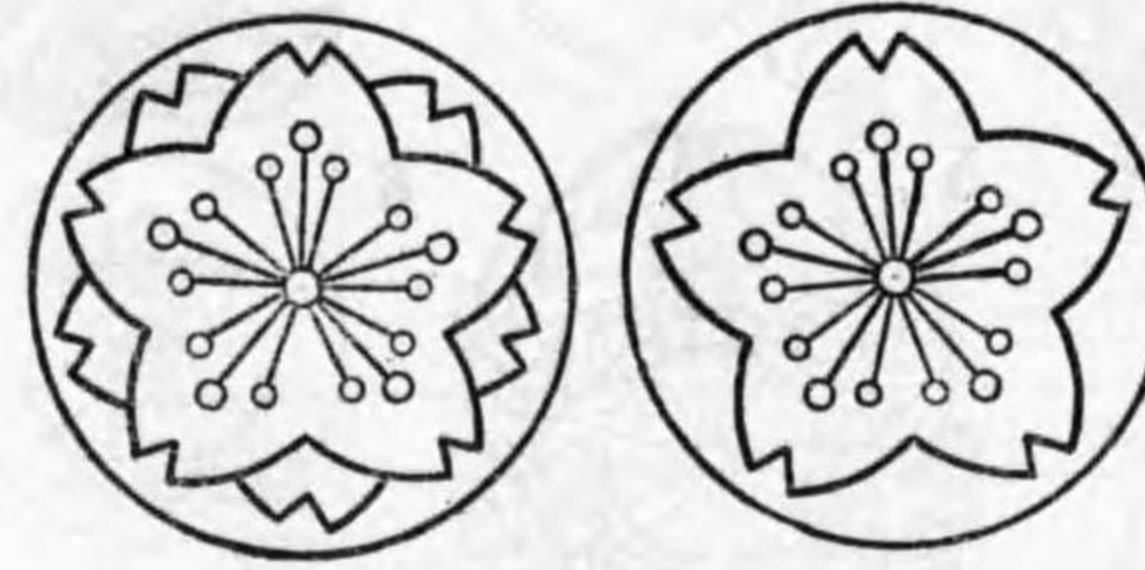
紫 綠 青 黃

主	看	軍
計	護	樂
科	科	科

白 赤 藍

特技章

(下士官・兵)



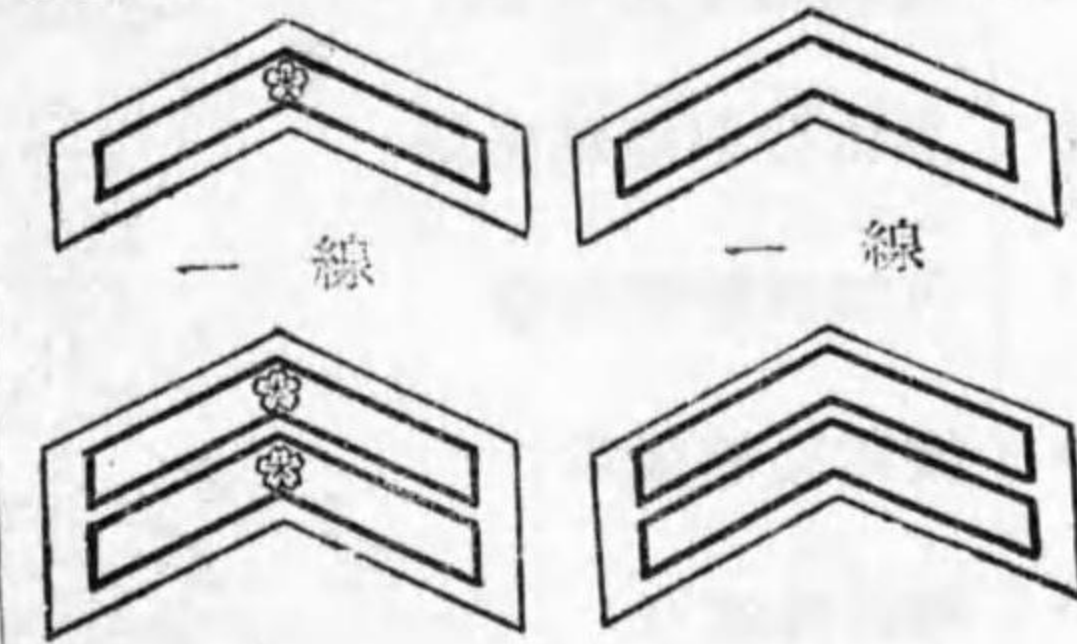
特修科、專修科
高等科又ハ飛行
練習生ノ教程ヲ
卒業シタル者

普通科ノ教程
ヲ卒業シタル
者

善行章

(下士官・兵)

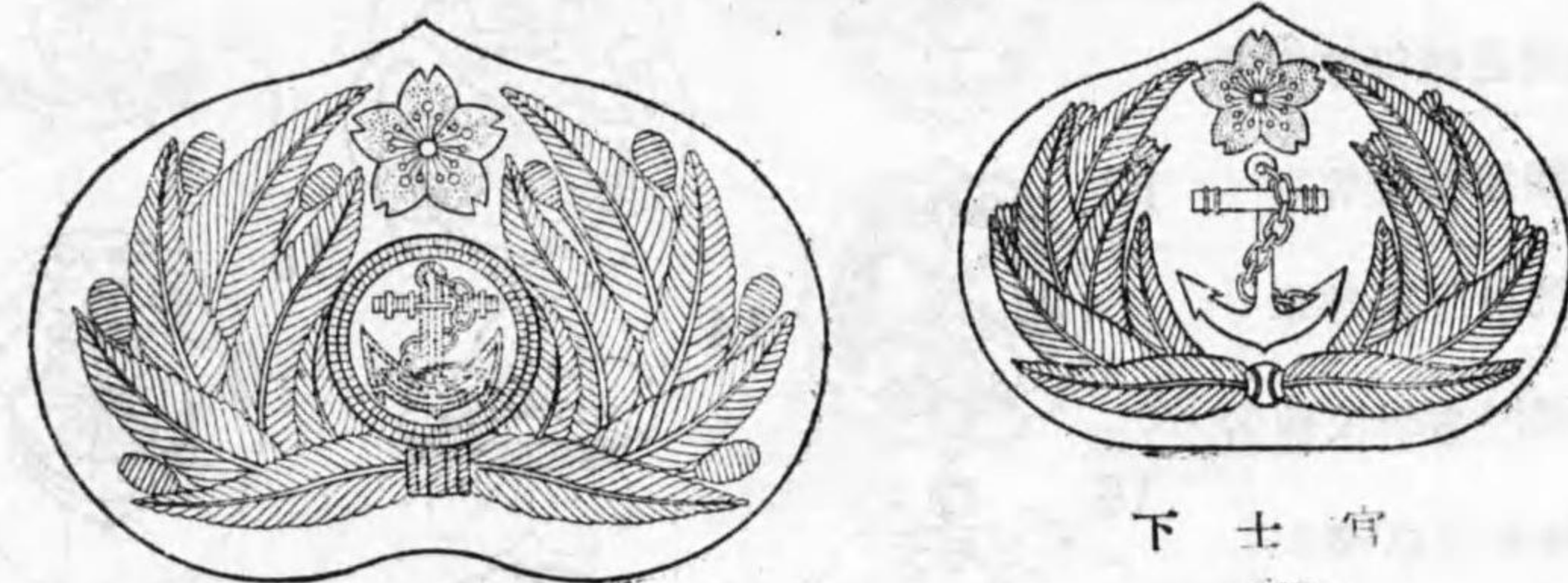
特別善行章 普通善行章



二線 二線

(三線以上ハ本圖ニ準ズ)

軍帽前章



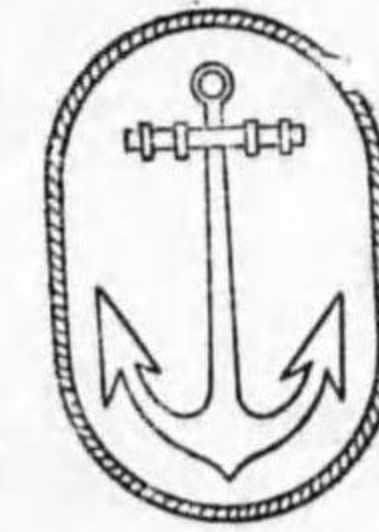
准士官以上

下士官



兵

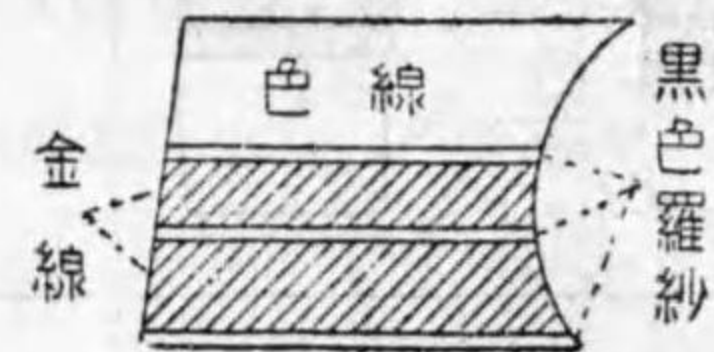
(飛行豫科練習生又ハ飛行術練習生タルモノ及軍樂兵ヲ除ク)



(兵飛行豫科練習生又ハ飛行術練習生タル兵及軍樂兵)

船 員 (職)

總 噸 數 千 噸 以 上			
	船 長 運 轉 士	機 關 長 機 關 士	事 務 長 事 務 員
船 機 關 長			
一 等 運 轉 士 主 任 通 信 士 船 醫 月 給 百 五 十 以 上			
二 等 運 轉 士 事 務 員 通 信 士 船 醫 月 給 百 十 以 上			
三 等 運 轉 士 事 務 員 通 信 士 船 醫 月 給 百 十 未 滿			



テ以テス
ル襟章ノ色線
別ハ左表ニ依
船内各部ノ識

區 分	甲 板	機 關	事 務	無 線	醫 務
色 線	黑	紫	白	綠	赤

員) 襟 章

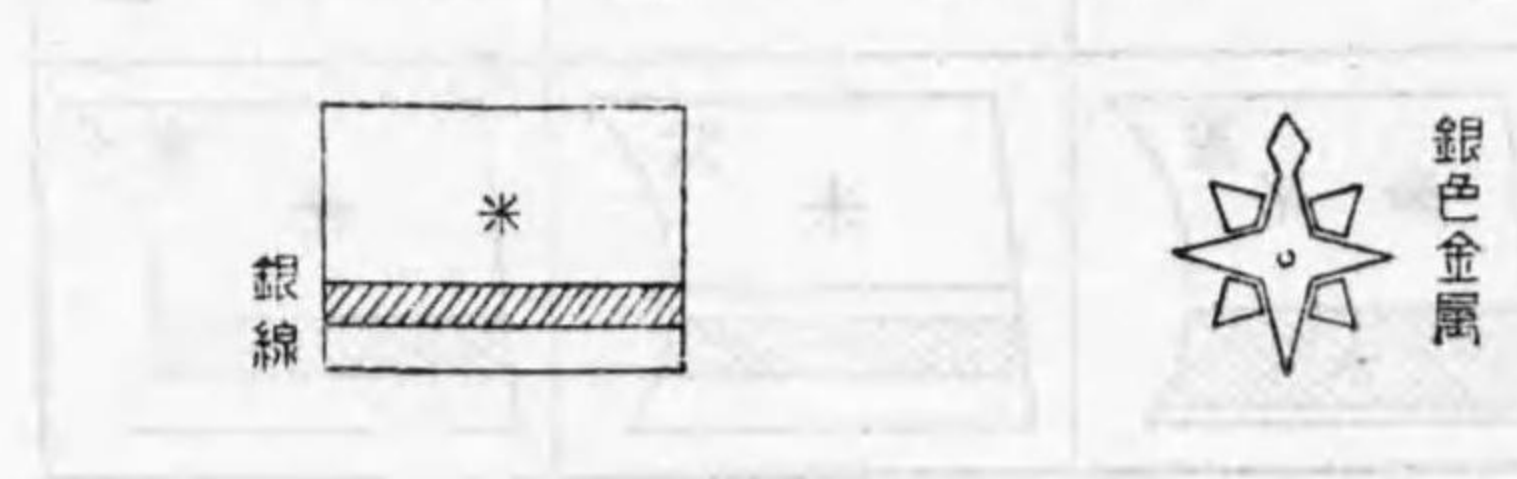
/ 船 舶		總噸數三百噸以上 千噸未滿ノ船舶	
主 任 通 信 士	船 醫	船 長 運 轉 士	機 關 長 機 關 士

總噸數三百噸未滿ノ船舶

船 長	機 關 長	運 轉 士

船 員 (普 通)

總噸數千噸以上ノ船舶				
	甲 板	機 関	事 務	衛 生
職 長 事務補 (長) 事務係 (長) 物係 (長) 二準シ セラ レ ル 者	黒 *** ----- ***	紫 *** ----- ***	白 *** ----- ***	赤 *** ----- ***
各船部庫手匠 一等操舵手 一等司厨手 看一 護	* * ----- * *	* * ----- * *	* * ----- * *	* * ----- * *
二 等 操 舵 手 二 等 司 厨 手 副 手	* ----- *	* ----- *	* ----- *	
一 等 甲 板 員 一 等 機 関 員 一 等 司 厨 員 一 等 調 理 員	* * * ----- * * *	* * * ----- * * *	* * * ----- * * *	
二 等 甲 板 員 二 等 機 関 員 二 等 司 厨 員 二 等 調 理 員 洗 滌 人	* * ----- * *	* * ----- * *	* * ----- * *	
三 等 甲 板 員 三 等 機 関 員 三 等 司 厨 員 三 等 調 理 員	* ----- *	* ----- *	* ----- *	



船 員 襟 章

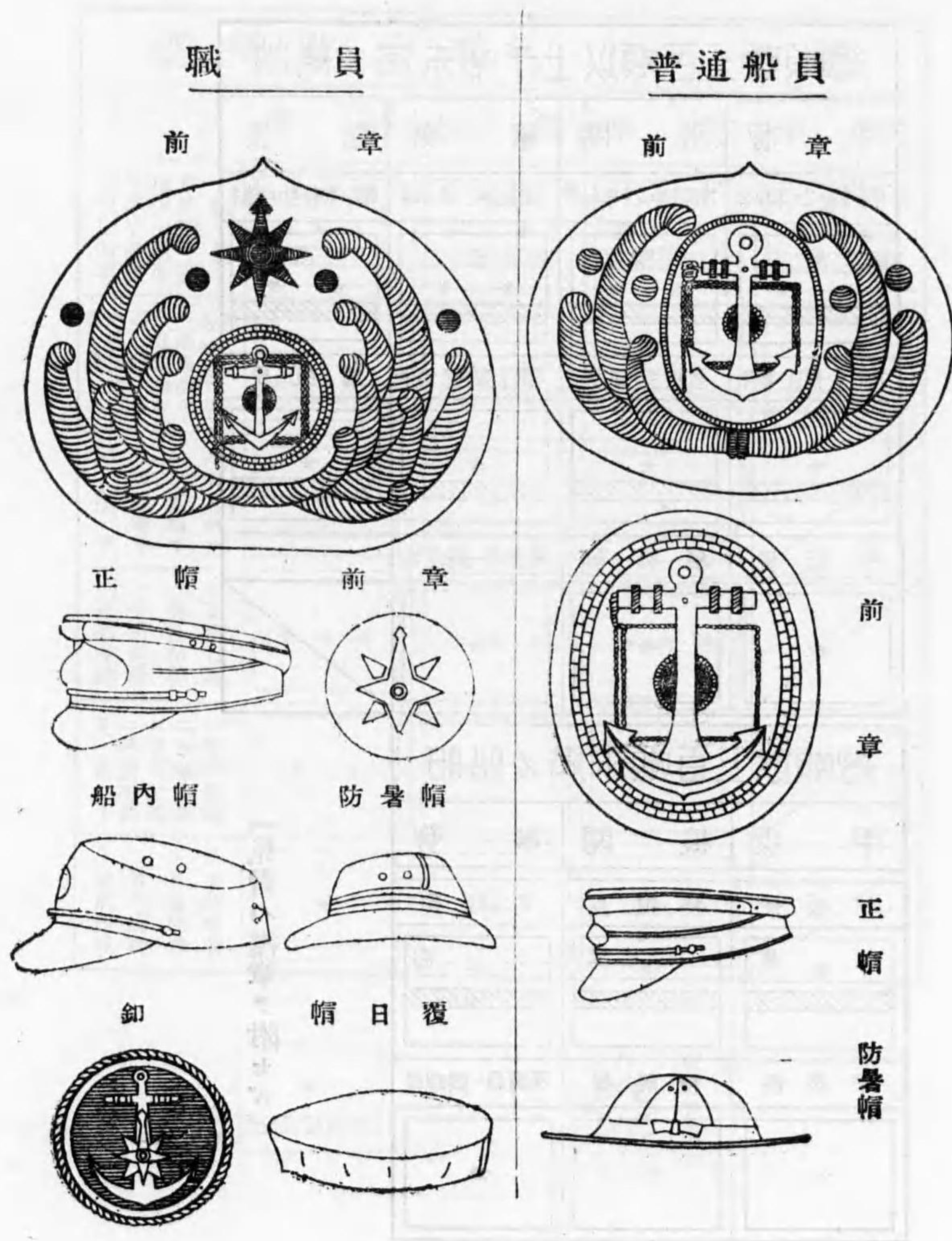
總噸數三百噸以上千噸未滿ノ船舶			
甲 板	機 関	事 務	衛 生
甲板長並之準ル者	操機長並之準ル者	司厨長並之準ル者	職長並待遇ノ看護手
黒 * * ----- * *	紫 * * ----- * *	白 * * ----- * *	赤 * * ----- * *
操舵手・船匠・庫手	操機手・庫手	司厨手・調理手・庫手	看護手
* ----- *	* ----- *	* ----- *	* ----- *
甲板員	機関員	司厨員・調理員	
* ----- *	* ----- *	* ----- *	

總噸數三百噸未滿ノ船舶		
甲 板	機 関	事 務
甲板長	操機長	司厨長
* 黒 ----- *	* 紫 ----- *	* 白 ----- *
甲板員	機関員	司厨員・調理員
* ----- *	* ----- *	* ----- *

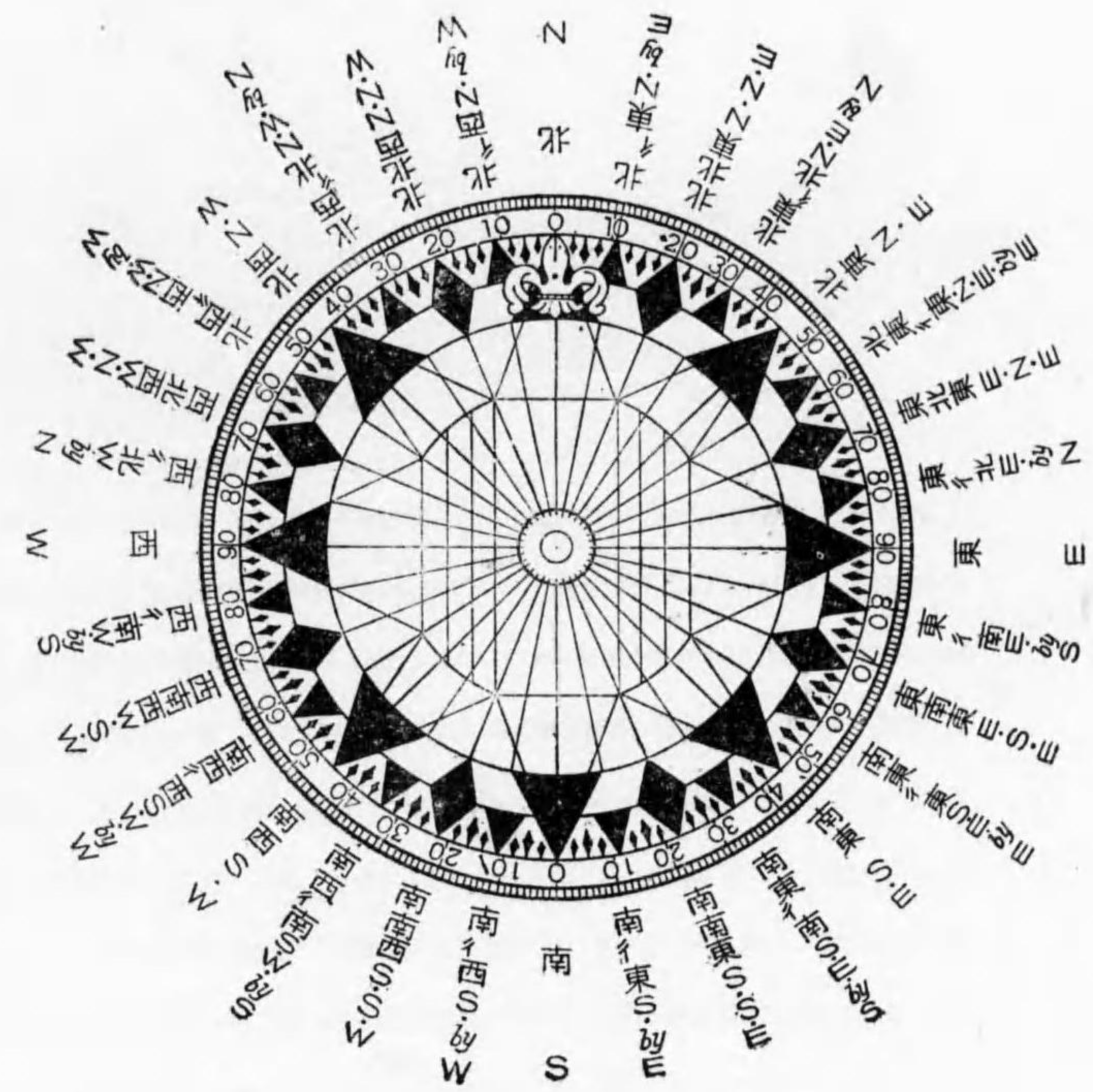
(見習ハ襟章ヲ附セズ)



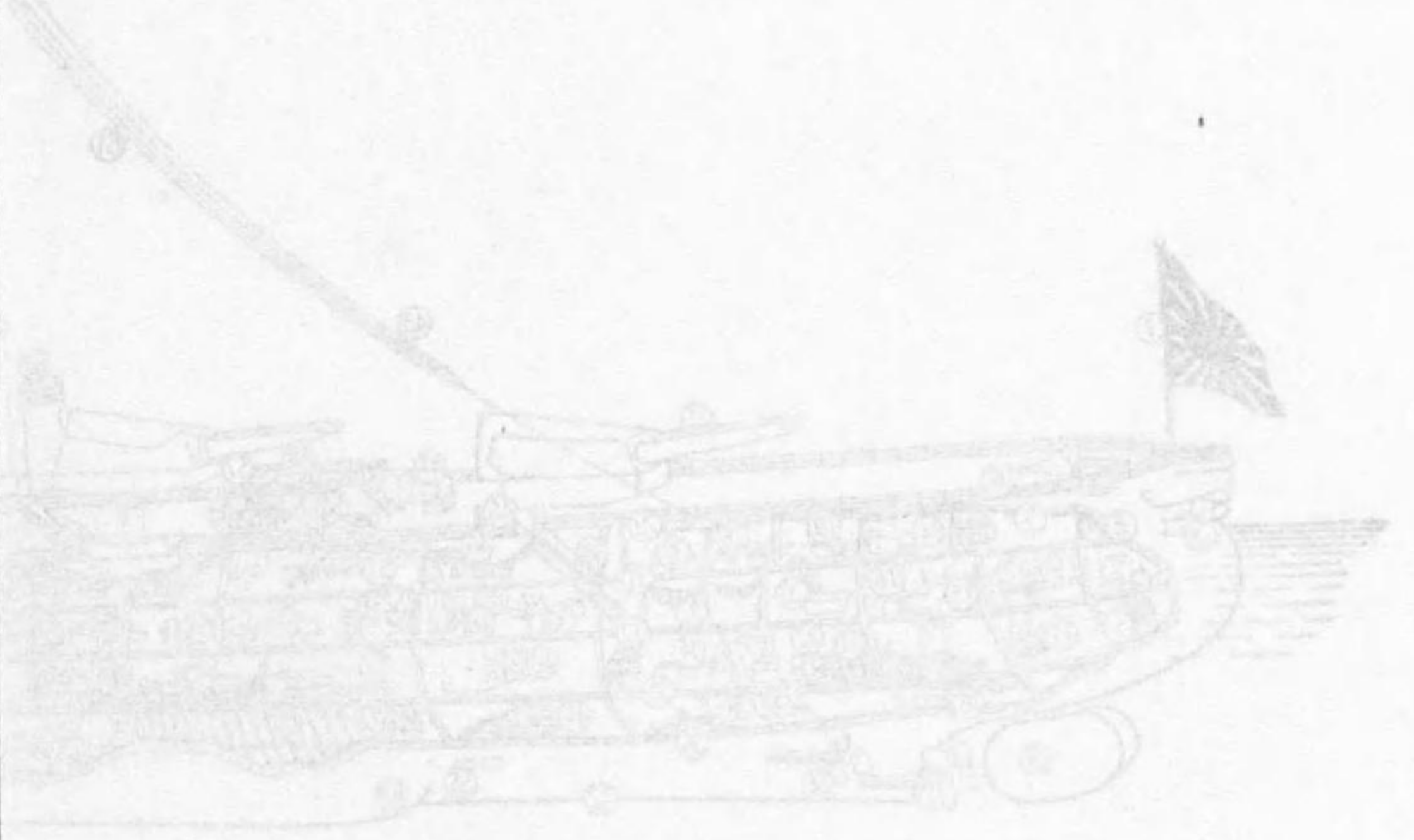
船 員 帽 子



羅 牌 圖



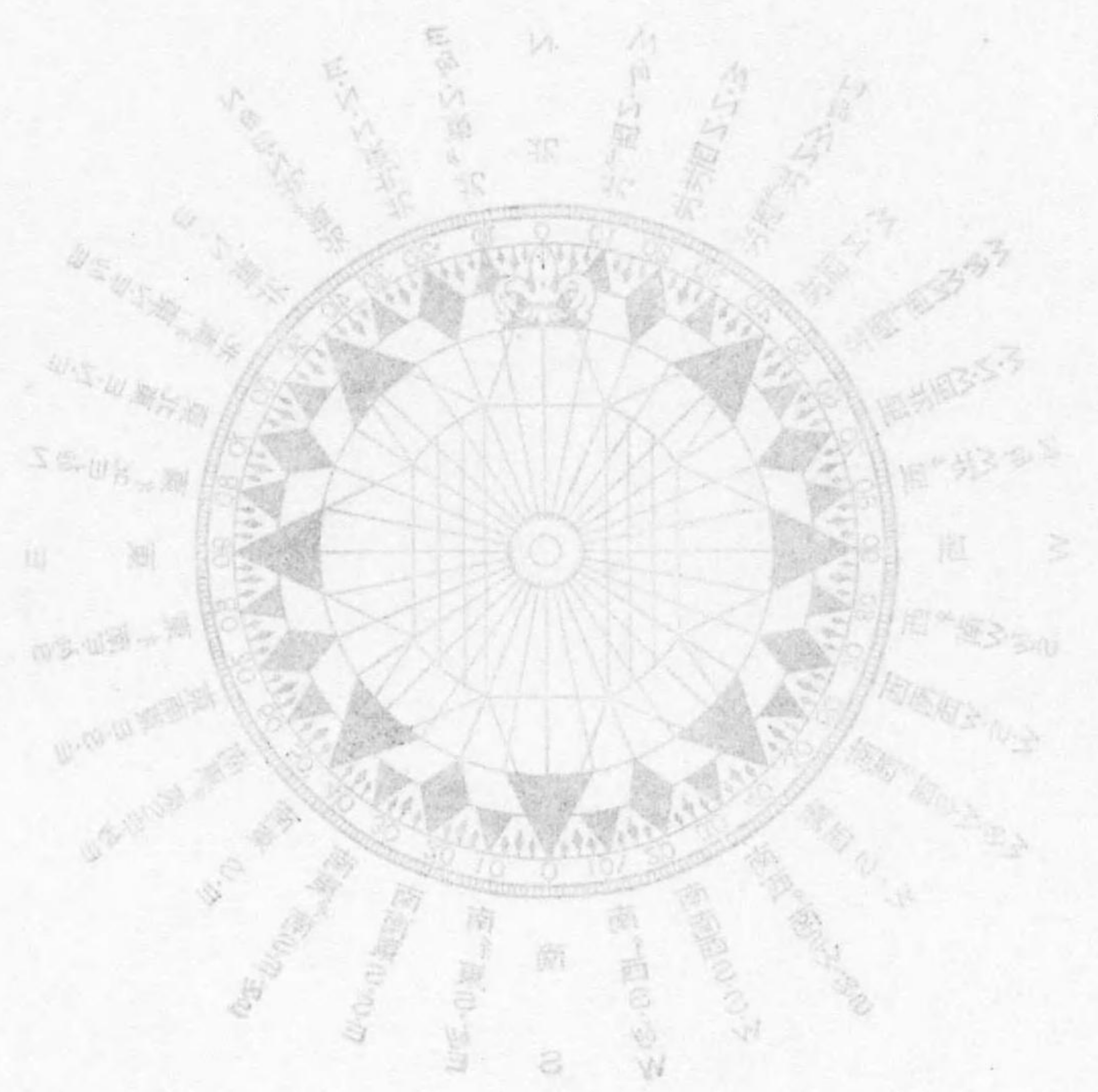
海 艦 圖



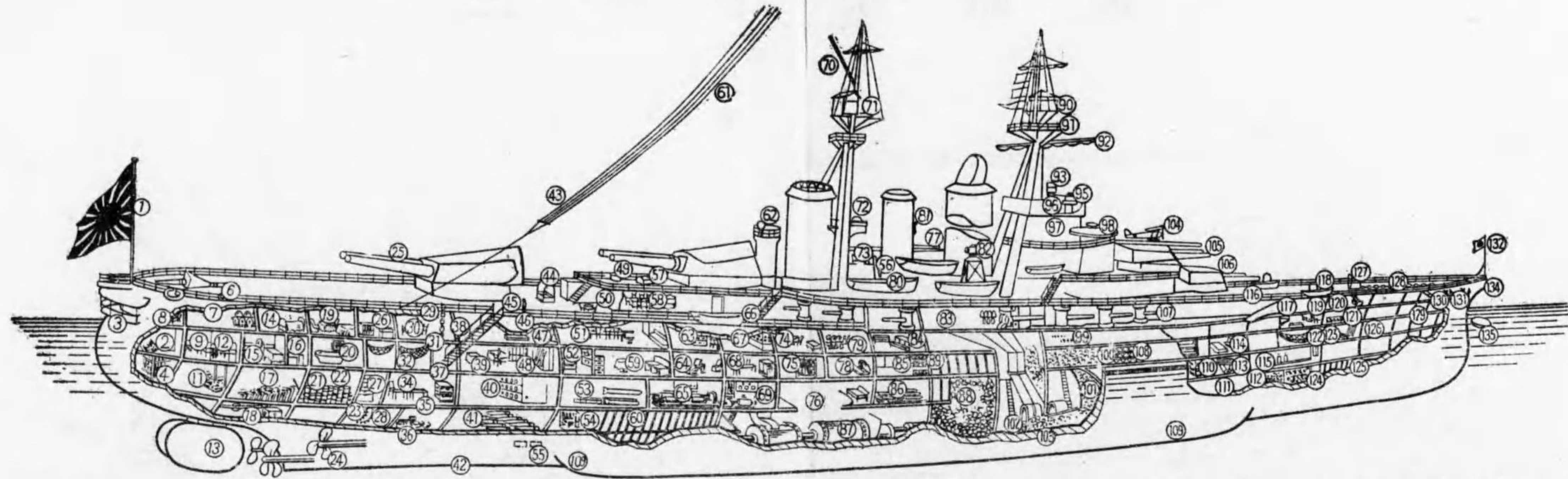
此艦係由英國皇家海軍部所設計，其排水量約為一萬噸，最高航速可達三十節。該艦裝備有大口徑主炮，並設有防空炮及魚雷發射管。其甲板上設有航空母艦，可容納多架戰鬥機。此艦在第一次世界大戰期間服役，表現活躍。

(此艦係英國海軍部所設計)

海 艦 圖

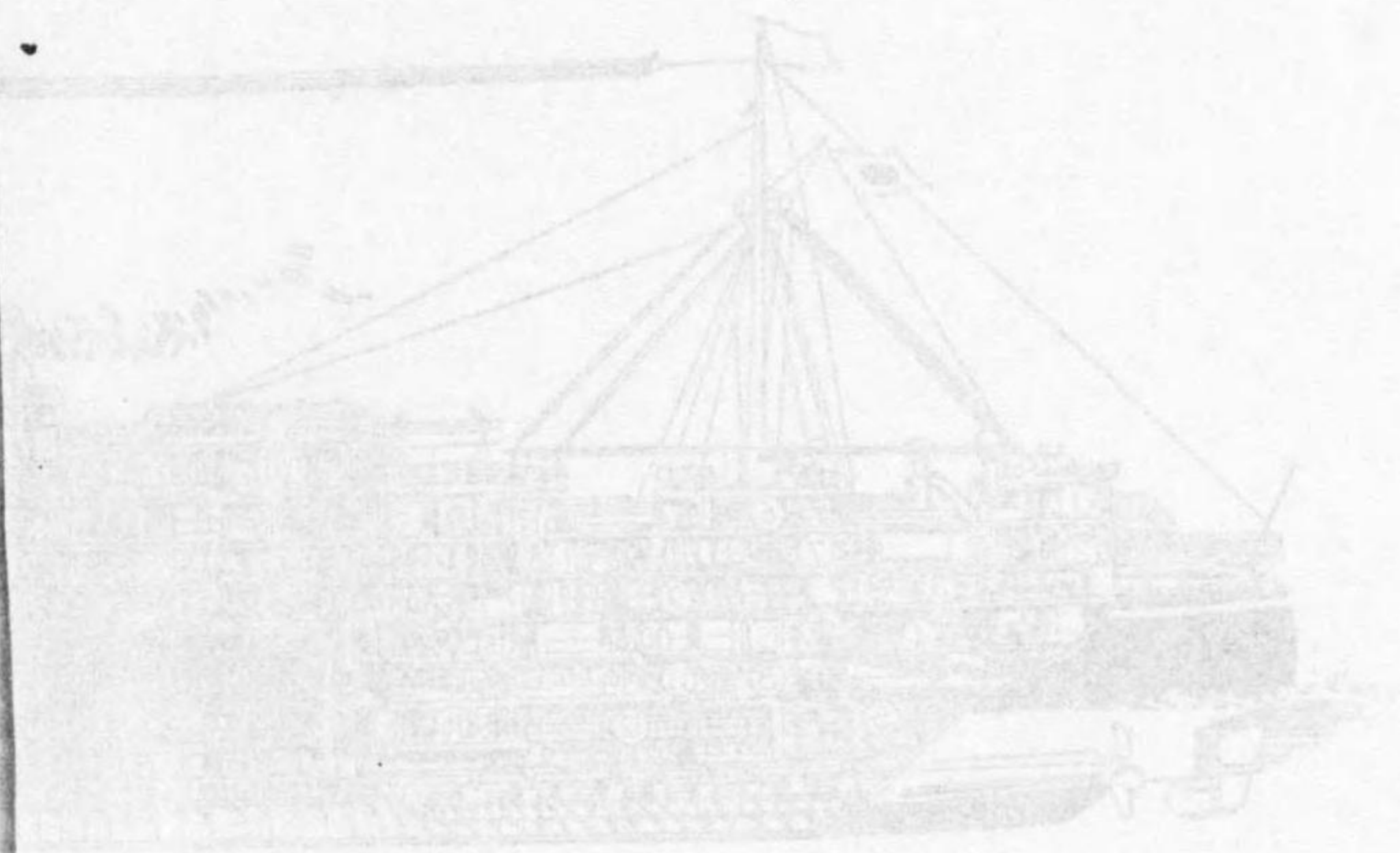


軍艦 縱 斷 面 圖



- 1 軍艦旗 2 天幕庫 3 艦名 4 倉庫 6 收錨浮標 7 長官公室 8 長官室 9 分隊長室 11 帆布庫 12 分隊長室 13 舵 14 長官寢室 15 士官寢室 16 士官寢室 17 米麥庫
 18 舵柄室 19 艦長公室 20 士官浴室 21 醬油庫 22 梁(ビーム) 23 人力舵取室 24 推進器 25 主砲 26 艦長控室 27 士官室倉庫 28 人力舵取室 29 上甲板 30 幕僚事務室
 31 中甲板 32 次室士官寢所 34 戰時治療室 35 船艙甲板 36 漬物庫 37 下甲板 38 舷梯 39 機關長室 40 火藥庫 41 彈庫 42 龍骨 43 無線電信空中線 44 昇降口
 45 舷門 46 舷門番兵 47 士官室廁 48 銃架 49 通風筒 50 士官喫煙所 51 士官室 52 砲術長室 53 發射管室 54 電話交換室 55 注水孔 56 高角砲 57 天窓 58 士官次室
 59 士官病室 60 肋材(フレーム) 61 無線電信空中線 62 後艦橋 63 士官室食器室 64 理髮 65 水壓機室 66 短艇 67 釣床格納所 68 機關科事務室 69 發電機室
 70 斜桁(ガーフ) 71 舵柄信號 72 探照燈 73 艦載水雷艇 74 主計科事務室 75 昇降機 76 機械室 77 デリツク 78 士官次室浴室 79 酒保 80 汽艇 81 汽角(サイレン)
 82 探照燈 83 砲廓 84 兵員室 85 衣囊室 86 彈庫 87 蒸氣タービン 88 石炭庫 89 肋材(フレーム) 90 前橋樓 91 探照燈 92 桁(ヤード) 93 測距儀 95 羅針儀 96 前艦橋
 97 舵取室 98 前部司令塔 99 兵員室 100 裝甲帶 101 防禦甲板 102 鐵室 103 二重底 104 飛行機 105 主砲 106 第一砲塔 107 舵取 108 吃水標 109 ビルヂキール
 110 洗濯桶室 111 清水タンク 112 錨鎖庫 113 水中發射管室 114 准士官室 115 揚錨庫 116 ケプスタン 117 治療室 118 通船 119 下士官室 120 兵員室 121 兵員室
 122 休業患者 123 船匠工場 124 帆布庫 125 フレーム 126 倉庫・格納庫 127 昇降口 128 錨鎖 129 倉庫・格納庫 130 副錨 131 主錨 132 艦首旗 134 菊花御紋章
 135 繫留浮標 (海軍智識ニ依ル)

商 船 圖 面



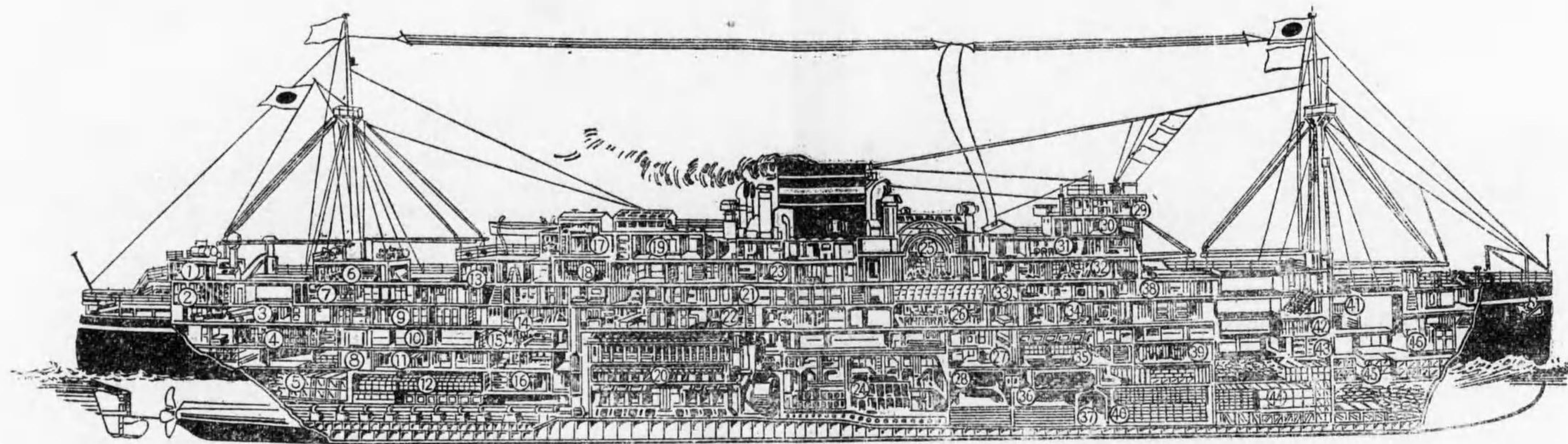
1. 船名 2. 船主 3. 船長 4. 船員 5. 船隻 6. 船隻 7. 船隻 8. 船隻 9. 船隻 10. 船隻 11. 船隻 12. 船隻 13. 船隻 14. 船隻 15. 船隻 16. 船隻 17. 船隻 18. 船隻 19. 船隻 20. 船隻 21. 船隻 22. 船隻 23. 船隻 24. 船隻 25. 船隻 26. 船隻 27. 船隻 28. 船隻 29. 船隻 30. 船隻 31. 船隻 32. 船隻 33. 船隻 34. 船隻 35. 船隻 36. 船隻 37. 船隻 38. 船隻 39. 船隻 40. 船隻 41. 船隻 42. 船隻 43. 船隻 44. 船隻 45. 船隻 46. 船隻 47. 船隻 48. 船隻 49. 船隻 50. 船隻 51. 船隻 52. 船隻 53. 船隻 54. 船隻 55. 船隻 56. 船隻 57. 船隻 58. 船隻 59. 船隻 60. 船隻 61. 船隻 62. 船隻 63. 船隻 64. 船隻 65. 船隻 66. 船隻 67. 船隻 68. 船隻 69. 船隻 70. 船隻 71. 船隻 72. 船隻 73. 船隻 74. 船隻 75. 船隻 76. 船隻 77. 船隻 78. 船隻 79. 船隻 80. 船隻 81. 船隻 82. 船隻 83. 船隻 84. 船隻 85. 船隻 86. 船隻 87. 船隻 88. 船隻 89. 船隻 90. 船隻 91. 船隻 92. 船隻 93. 船隻 94. 船隻 95. 船隻 96. 船隻 97. 船隻 98. 船隻 99. 船隻 100. 船隻

圖 面



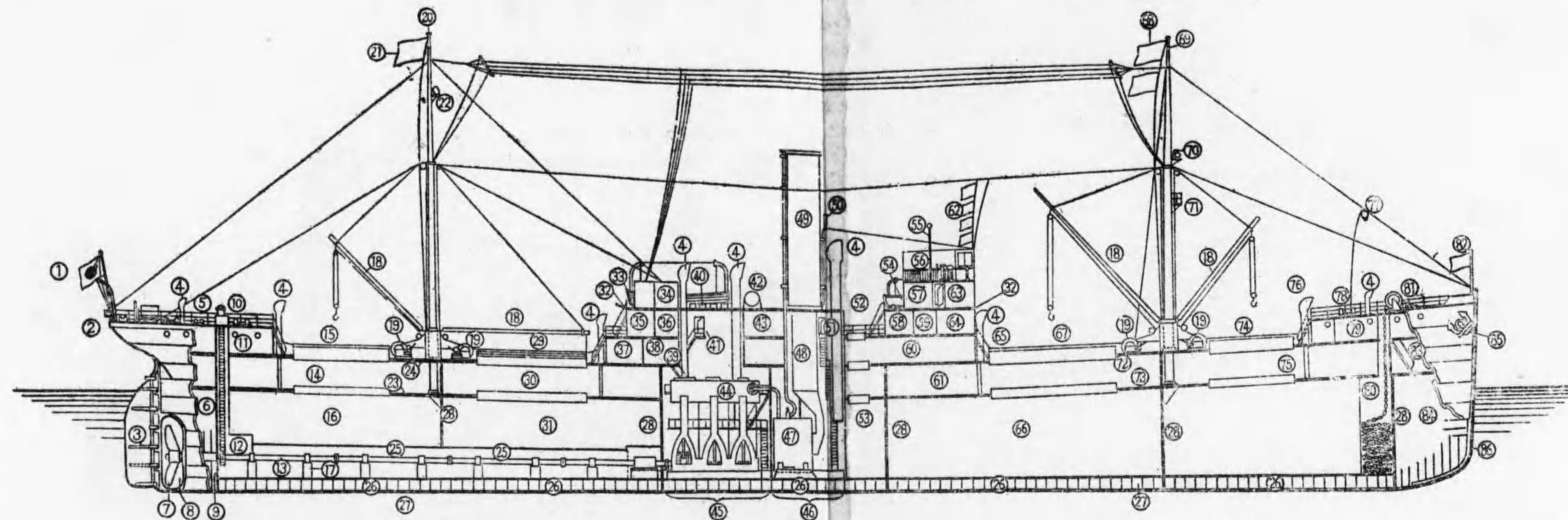
1. 船名 2. 船主 3. 船長 4. 船員 5. 船隻 6. 船隻 7. 船隻 8. 船隻 9. 船隻 10. 船隻 11. 船隻 12. 船隻 13. 船隻 14. 船隻 15. 船隻 16. 船隻 17. 船隻 18. 船隻 19. 船隻 20. 船隻 21. 船隻 22. 船隻 23. 船隻 24. 船隻 25. 船隻 26. 船隻 27. 船隻 28. 船隻 29. 船隻 30. 船隻 31. 船隻 32. 船隻 33. 船隻 34. 船隻 35. 船隻 36. 船隻 37. 船隻 38. 船隻 39. 船隻 40. 船隻 41. 船隻 42. 船隻 43. 船隻 44. 船隻 45. 船隻 46. 船隻 47. 船隻 48. 船隻 49. 船隻 50. 船隻 51. 船隻 52. 船隻 53. 船隻 54. 船隻 55. 船隻 56. 船隻 57. 船隻 58. 船隻 59. 船隻 60. 船隻 61. 船隻 62. 船隻 63. 船隻 64. 船隻 65. 船隻 66. 船隻 67. 船隻 68. 船隻 69. 船隻 70. 船隻 71. 船隻 72. 船隻 73. 船隻 74. 船隻 75. 船隻 76. 船隻 77. 船隻 78. 船隻 79. 船隻 80. 船隻 81. 船隻 82. 船隻 83. 船隻 84. 船隻 85. 船隻 86. 船隻 87. 船隻 88. 船隻 89. 船隻 90. 船隻 91. 船隻 92. 船隻 93. 船隻 94. 船隻 95. 船隻 96. 船隻 97. 船隻 98. 船隻 99. 船隻 100. 船隻

商 船 縱 斷 面 圖



- 1 病院 2 三等喫煙室 3 洗濯室 4 三等船室 5 第五貨物艙 6 二等ベランダ 7 二等社交室 8 絹物庫 9 二等船室 10 三等船室
 11 貨物冷蔵庫 12 第四貨物艙 13 兒童室 14 二等食堂 15 三等食堂 16 食料品冷蔵庫 17 一等ベランダ 18 一等喫煙室 19 一等
 和室 20 主機關室 21 一等船室 22 厨房 23 一等ギャラリー 24 補助機關室 25 一等社交室 26 一等大食堂 27 體操室 28 燃料
 油槽 29 指令船橋 30 船長室 31 士官室 32 一等讀書室 33 一等大廣間 34 一等船室 35 水泳プール 36 燃料油槽 37 貨物油槽
 38 一等船室 39 三等船室 40 第三貨物艙 41 第二貨物艙 42 三等船室 43 三等船室 44 二等喫煙室 45 第一貨物艙 46 三等船室

貨物船縱斷面圖



- 1 商船旗 2 船尾燈 3 舵 4 通風筒 5 船尾樓甲板 6 船尾水艙 7 推進器 8 船尾材 9 支水隔壁 10 船尾樓甲板 11 倉庫 12 梯子
 13 車軸 14 第四番甲板間船艙 15 第四番艙口 16 第四番船艙 17 軸承 18 デリック 19 ウェンチ 20 後檣 21 船主旗 22 後檣燈
 23 第二甲板 24 上甲板 25 車軸隧道 26 二重底 27 龍骨 28 支水隔壁 29 第三番艙口 30 第三番甲板間船艙 31 第三番船艙
 32 短艇甲板 33 短艇 34 無線電信室 35 機關長室 36 機關士室 37 倉庫 38 操舵機室 39 支水隔壁 40 天窗 41 汽機室出入口
 42 用水タンク 43 厨室 44 汽機 45 汽機室 46 汽罐室 47 汽罐 48 煙路 49 煙筒 50 汽笛 51 出入口 52 載炭口 53 石炭庫
 54 短艇 55 モールス式信號燈 56 航海船橋 57 海圖室 58 運轉士室 59 配膳室 60 豫備石炭庫 61 第二番甲板間船艙 62 信號
 旗 63 船長室 64 食堂 65 船橋樓甲板 66 第二番船艙 67 第二番艙口 68 出帆旗及行先旗 69 前檣 70 前檣燈 71 見張所 72
 上甲板 73 第二甲板 74 第一番艙口 75 第一番甲板間船艙 76 通風筒 77 碇泊燈 78 船首樓甲板 79 船員室 80 錨鎖庫 81 揚
 錨機 82 船首旗 83 索庫 84 船首水艙 85 錨 86 船首材

昭和十九年八月二十日印刷
昭和十九年八月二十四日發行
(25,000部)

出版會承認 490121

不
許



複
製

標準 海 語 辭 典 附 奧

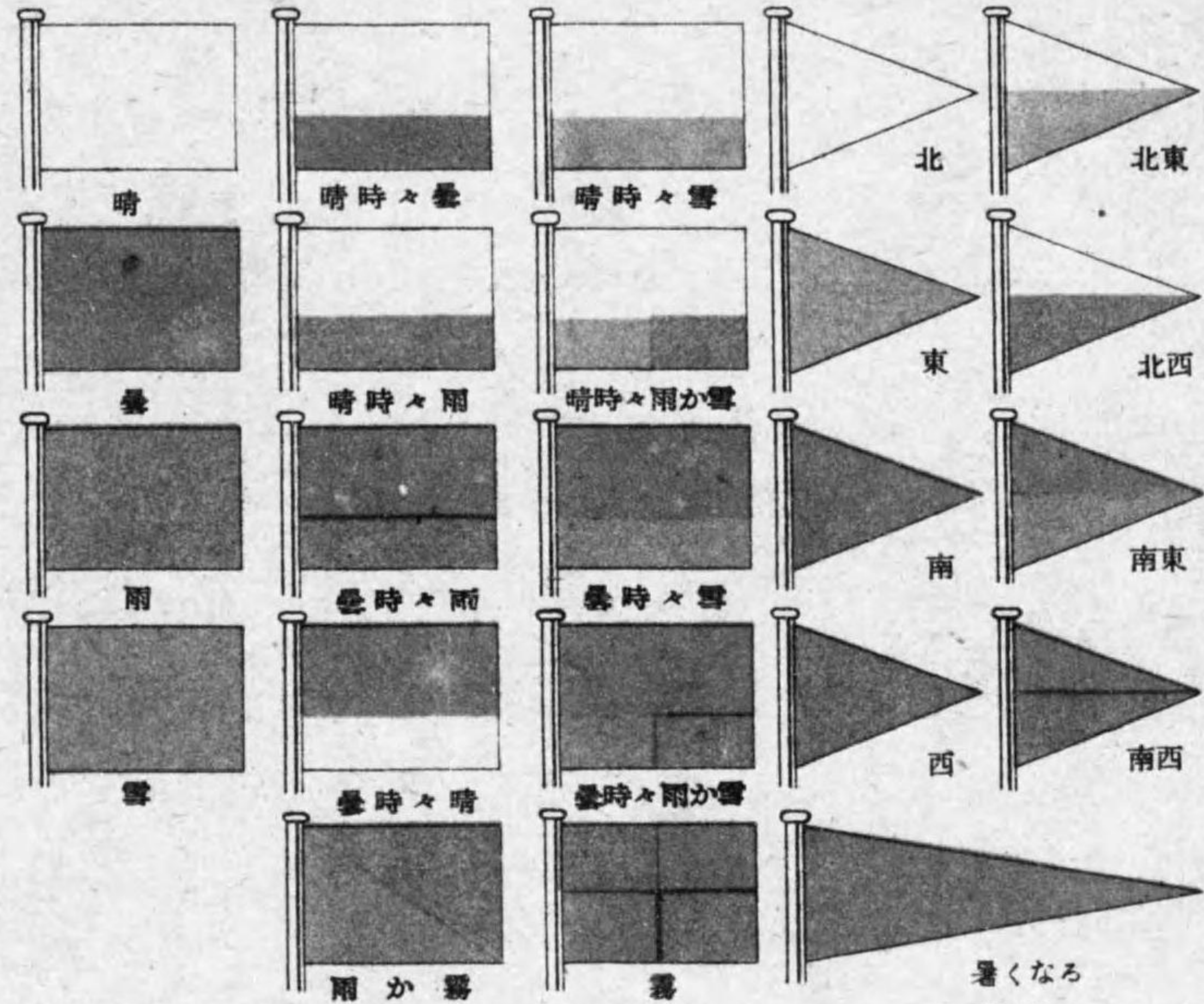
著者 海洋文化協會
代表者 上田良武
東京都牛込區若宮町三八番地
發行者 大橋進
126503
東京都小石川區久堅町一〇八
印刷者 大橋芳雄
東京121
東京都牛込區若宮町三八番地
發行所 株式博文館
會社
東京都神田區淡路町二ノ九
配給所 日本出版配給株式會社

定價金八圓
登錄號六ノ一一一號

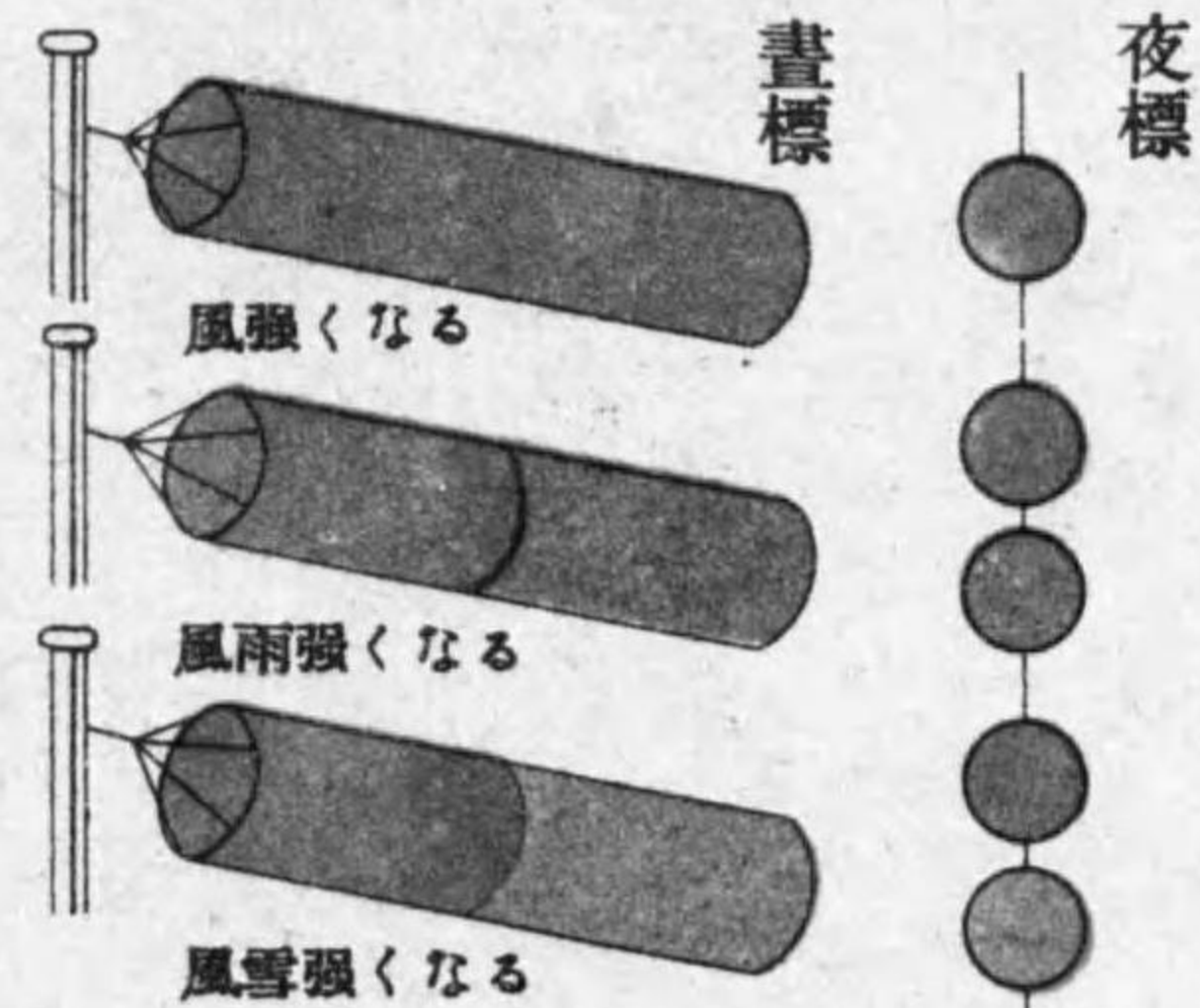
天気豫報信號標

天氣の旗

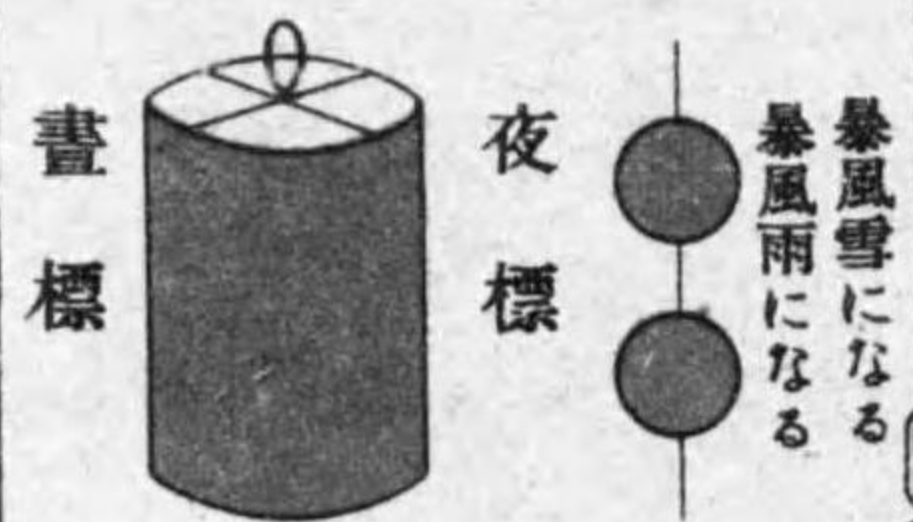
風向の旗



氣象特報信號標



暴風警報信號標



暑くなる
暖くなる

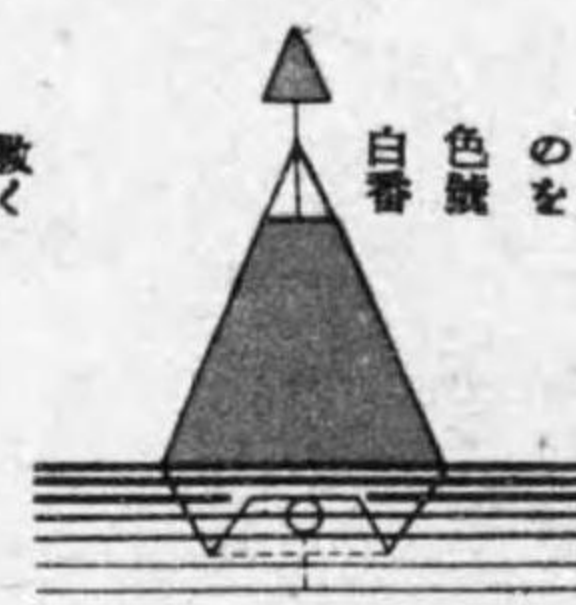
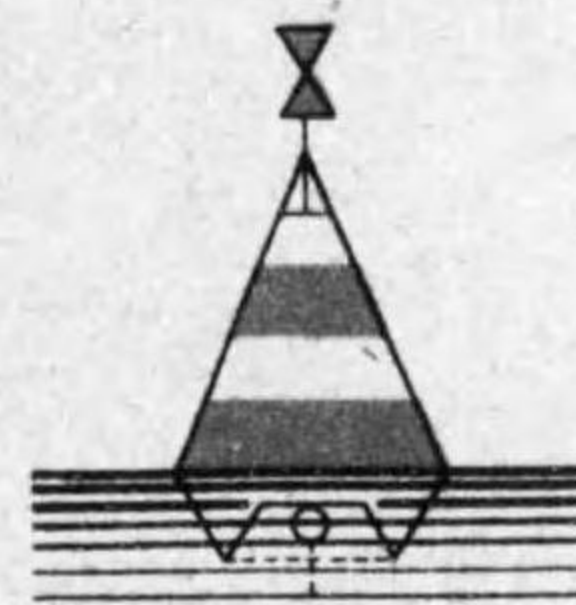
寒くなる
涼くなる

浮標及立標式圖

洲の上端浮標
紅白横線

左舷浮標
黒色

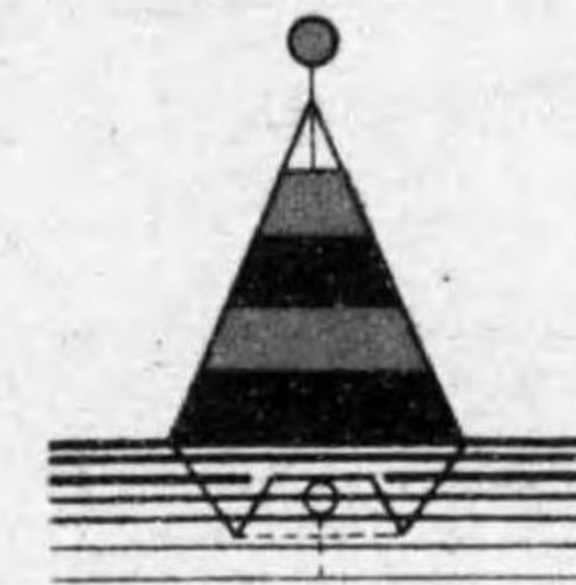
右舷浮標
紅色



洲の下端浮標
黒白横線

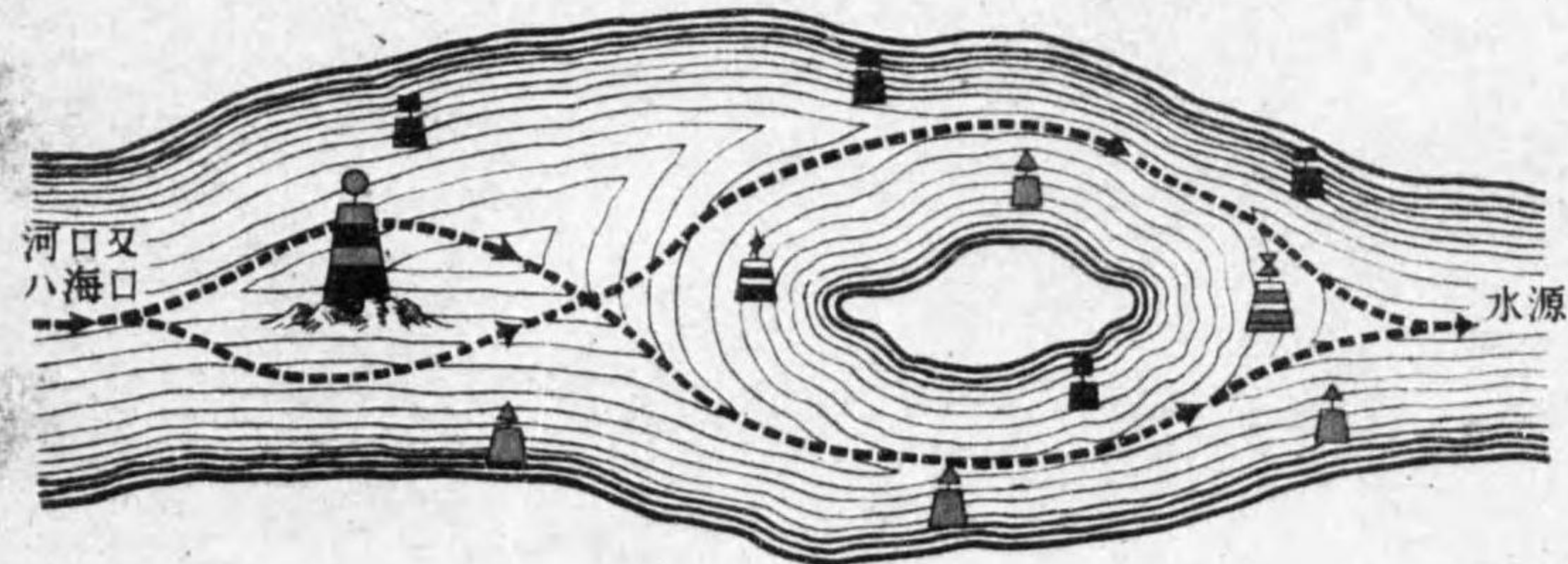
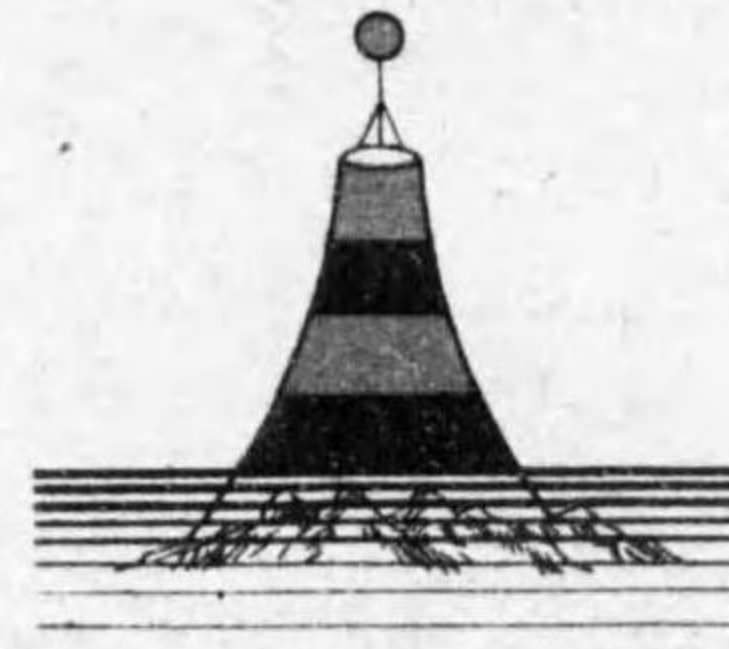
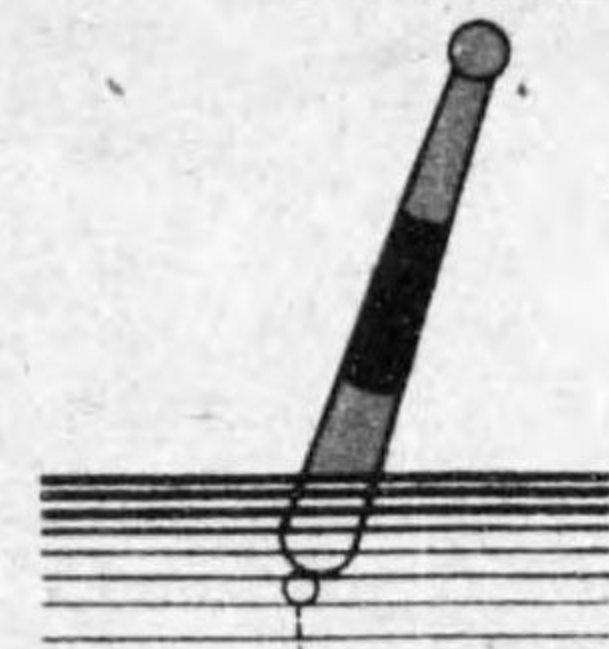
孤立障害浮標
紅黒横線

沈船浮標
綠色にして白色
(沈船)と描く



孤立障害圓柱浮標
紅黒横線

孤立障害立標
紅黒横線



560
11

終